

2022（令和 4）年度事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

目 次

I	学校法人の概要	1
II	主要な重点事業報告	6
III	中長期計画における重点報告の概要	29
IV	監事監査方針及び報告	30
V	各学校の事業報告	30
VI	大学部会、教育部会、保育部会 2022 年度 研修会プログラム	40
VII	地域連携・交流活動	45
VIII	湘南医療大学 研究業績	46
IX	生涯学習事業	77
X	施設の状況	79
XI	財務状況	80

I 学校法人湘南ふれあい学園の概要

■ 基本情報

名称	学校法人湘南ふれあい学園		
理事長	大屋敷 英志枝		
主たる事務所 住所	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号		
電話番号	045-828-4322	FAX 番号	045-828-4323
ホームページ	http://www.fureai-g.ac.jp/		

■ 建学の理念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。
わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
- 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得
- 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

■ 法人及び設置校の沿革

年 月		沿革
平成 6 年 (1994)	1 月	準学校法人 湘南ふれあい学園設置
	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年 (1998)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年 (2000)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年 (2001)	1 月	学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承 湘南ふれあい学園を準学校法人から学校法人へ変更
平成 14 年 (2002)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年 (2004)	4 月	下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学科設置
平成 17 年 (2005)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年 (2006)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校美容学科入学定員変更、総合電子専門学校学科再編（設置及び変更）
平成 20 年 (2008)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更
平成 21 年 (2009)	4 月	総合電子専門学校 学科再編（名称変更等）
平成 22 年 (2010)	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年 (2011)	4 月	ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更 総合電子専門学校 研究科設置
平成 24 年 (2012)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 言語聴覚学科（2 年制）設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月	湘南医療大学（仮称）大学設立準備室設置
平成 26 年 (2014)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転 湘南医療大学（仮称）設置認可申請書提出
	4 月	学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転

		総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月	湘南医療大学 設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年 (2015)	4 月	湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年 (2016)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置
平成 29 年 (2017)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 30 名→60 名に変更
	4 月	みどり幼稚園を幼保連携型認定こども園みどり幼稚園に改組
平成 30 年 (2018)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 60 名→90 名に変更
	3 月	医療ビジネス観光情報専門学校 情報システム学科 廃科 医療ビジネス観光情報専門学校 工業専門課程 廃止
	4 月	湘南医療大学 臨床医学研究所
	7 月	医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科設置及びこれに伴う校名変更認可
	11 月	湘南医療大学 大学院 (保健医療学研究科) 設置認可及びこれに伴う学校法人湘南ふれあい学園寄 附行為変更認可 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科新課程設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附 行為変更認可
	2 月	湘南医療大学薬学部新設のための寄附活動のための寄附行為変更認可
平成 31 年 令和元年 (2019)	4 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科設置 湘南医療大学認定看護研修センターを看護実践教育センターに改称 医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更 介護福祉学科、附帯教育事業 介護福祉士実務者研 修設置
	3 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置申請 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可申請
令和 2 年 (2020)	4 月	下田看護専門学校を湘南医療大学附属下田看護専門学校に名称変更
	10 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置認可 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
令和 3 年 (2021)	4 月	湘南医療大学薬学部設置 湘南医療大学 看護実践教育センターを看護キャリア開発コアセンターに改称
	8 月	湘南医療大学収容定員 (保健医療学部看護学科入学定員 80→140 名) 変更認可
	12 月	湘南医療大学専攻科 (公衆衛生看護学専攻 助産学専攻) 設置認可
令和 4 年 (2022)	4 月	湘南医療大学大学院専門看護師 (がん看護) 養成課程設置
	3 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置申請 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更計画書提出 (35→60 名)

■設置する学校等の概要

【設置する学校】(2022 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部・学科・専攻等 (入学定員)		開設年度
湘南医療大学 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号 学長 大屋敷 英志枝	保健医療学部	看護学科 (140)	平成 27 年度 (2015 年)
		リハビリテーション学科 理学療法専攻 (40)	
		リハビリテーション学科 作業療法専攻 (40)	
	薬学部	医療薬学科 (130)	令和 3 年度 (2021 年)
	大学院	保健医療学研究科	平成 31 年度 (2019 年)
	専攻科	公衆衛生看護学専攻 (20)、助産学専攻 (15)	令和 4 年 (2022 年)

茅ヶ崎看護専門学校 神奈川県茅ヶ崎市今宿 390 番地 学校長 今田 敏夫	看護学科 (80)	平成 6 年度 (1994 年)
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 神奈川県茅ヶ崎市南湖 1 丁目 6 番 11 号 学校長 赤池 信	理学療法学科 (70)	平成 10 年度 (1998 年)
	作業療法学科 (30)	
	言語聴覚学科 (35)	
	付帯教育事業 社会福祉専攻科 (80)	
湘南医療大学附属下田看護専門学校 静岡県下田市柿崎 289 番地 学校長 大石 實	看護学科 (40)	平成 16 年度 (2004 年)
医療ビジネス観光福祉専門学校 神奈川県相模原市南区上鶴間本町 3 丁目 18 番 27 号 学校長 加藤 修一	医療ビジネス学科 (40)	昭和 61 年度 (1986 年)
	観光学科 (60)	
	介護福祉学科 (35)	平成 31 年度 (2019 年)
	付帯教育事業 介護福祉士実務者研修 (30×3)	
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園 神奈川県横浜市戸塚区汲沢 2 丁目 26 番 14 号 園長 入澤 登美子	認定こども園 (218)	平成 29 年度 (2017 年)

【設置する学校等の在籍者数】(2022 年 5 月 1 日現在)

[湘南医療大学]

学部・学科・専攻		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学者 数	2022 年度在籍者数				2022 年度 卒業生
						1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
保健 医療 学部	看護学科	140	—	340	144	144	79	77	85	82
	リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	40	—	160	42	42	42	36	44	40
	リハビリテーション学科 (作業療法専攻)	40	—	160	38	38	40	38	39	36
薬学部	医療薬学科	130	—	130	68	33	68			
大学院	保健医療学研究科	12	—	24	11	11	12			7
専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	—	20	13	13				13
	助産学専攻	15	—	15	14	14				14

【湘南医療大学 収容定員の充足率】

学部・学科	平成 27 年度 (2015) 開学年度	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018) 完成年度	2019 年度 大学院設置	2020 年度	2021 年度 薬学部設置	2022 年度
保健医療学部	1.16	1.08	1.08	1.05	1.05	1.01	1.02	0.99
看護学科	1.25	1.11	1.11	1.06	1.04	1.01	0.99	0.98
リハビリテーション学科	1.08	1.05	1.04	1.03	1.07	1.02	1.05	0.99
薬学部							0.26	0.38
大学院					0.91	0.71	0.71	0.95
専攻科								0.77
公衆衛生看護学専攻								0.65
助産学専攻								0.93

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科	入学定員	収容定員	入学者数	2022 年度在籍者数			2022 年度卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	80	240	80	82	69	74	67

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科	入学定員	収容定員	入学者数	2022 年度在籍者数				2022 年度卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
理学療法学科	70	280	73	76	61	59	68	67
作業療法学科	30	120	22	25	21	21	14	14
言語聴覚学科	35	70	35	35	20			20
社会福祉専攻科 ^{※1}	80	160	65	65	77			68

※1 社会福祉専攻科は1年6ヶ月の通信課程

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

学科	入学定員	収容定員	入学者数	2022 年度在籍者数			2022 年度卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	40	120	37	39	30	24	23

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科	入学定員	収容定員	入学者数	2022 年度在籍者数		2022 年度卒業生
				1 年生	2 年生	
医療ビジネス学科	40	80	29	30	14	13
観光学科	60	120	19	19	33	32
介護福祉学科	35	70	30	30	5	5
介護福祉士実務者研修 ^{※2}	30	30	28	28		27

※2 介護福祉士実務者研修は6ヶ月の通信課程（4月・6月 年2回開講）

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

総定員	入園者数	2022 年度在籍者数					2022 年度卒園生
		1 歳児	2 歳児	年少	年中	年長	
218	65	8	10	56	59	67	66

【法人役員・評議員及び理事会・評議員会の開催状況】

1. 役員・評議員の数（2023年3月31日現在）

役員、評議員	定数	現員
理事	6～8	6
監事	2	2
評議員	13～17	13

2. 役員の概要（理事6名、監事2名 2023年3月31日現在）

役職	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
理事長／常勤	大屋敷 英志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	1994年3月8日
理事／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2006年6月24日（2020年6月24日）
理事／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年6月24日（2020年6月24日）
理事／非常勤	小林 暢比古	神奈川県金属プレス工業会名誉会長	2021年1月1日
理事／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼保健医療学部長	2020年6月24日
理事／非常勤	有坂 健一	税理士	2016年6月24日（2020年6月24日）
監事／非常勤	金井 清吉	弁護士	2001年4月1日（2020年6月24日）
監事／非常勤	竹俣 耕一	公認会計士 税理士	2012年6月24日（2020年6月24日）

3. 評議員の概要（評議員13名 2023年3月31日現在）

	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
評議員／常勤	大屋敷 英志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	2002年7月4日（2020年7月4日）
評議員／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼保健医療学部長	2018年4月1日（2020年7月4日）
評議員／常勤	加藤 尚美	湘南医療大学 大学院教授	2019年6月1日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	赤池 信	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 学校長 兼 康心会汐見台病院 院長	2022年4月20日
評議員／常勤	入澤 登美子	幼保連携型認定こども園みどり幼稚園園長	2010年3月30日（2020年7月4日）
評議員／常勤	加藤 修一	医療ビジネス観光福祉専門学校 学校長	2005年3月30日（2020年7月4日）
評議員／常勤	小野川 敏子	湘南医療大学附属下田看護専門学校 副校長	2011年3月23日（2020年7月4日）
評議員／常勤	小林 勝一郎	湘南ふれあい学園学園本部 部長	2013年3月22日（2020年7月4日）
評議員／常勤	山戸 真実	医療ビジネス観光福祉専門学校事務職員	2018年4月1日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	有坂 健一	税理士	2016年6月24日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	今田 敏夫	茅ヶ崎看護専門学校 学校長 兼 茅ヶ崎中央病院 院長	2019年8月1日（2020年7月4日）
評議員／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年4月10日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2004年7月4日（2020年7月4日）

4. 2022年度 理事会・評議員会開催状況

	開催回数
理事会	8回
評議員会	8回

【設置する学校等の教職員数】

教職員数（2022年5月1日現在）

学校名	教員		職員※2
	専任※1	兼任	
湘南医療大学	100	137	37
茅ヶ崎看護専門学校	18	51	6
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	22	67	11
湘南医療大学附属下田看護専門学校	9	39	5
医療ビジネス観光福祉専門学校	11	26	5
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	22.25※3	1	4
本部事務局（研修センター含む）	2	19	5

※1 専任には、学長、学校長、非常勤契約者を含む ※2 非常勤職員（守衛）含む ※3 非常勤補助者の常勤換算数

教員内訳

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健	看護学科		5	11	0	6	2	5	2	10	0	2	9	34
医療 学部	リハビリテー ション学科	理学療法 学専攻	7	0	1	2	3	0	1	0	0	0	12	2
		作業療法 学専攻	4	1	1	0	3	2	0	0	0	0	8	3
薬学部 医療薬学科			11	2	5	3	5	0	3	1	0	0	24	6
保健医療学研究科＊			0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
専攻科			0	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	7
計			27	17	7	13	13	9	6	13	0	2	53	54

*保健医療学研究科教員で保健医療学部兼任者は再掲しない。

教職員の保有学位や業績については、以下のホームページ上に公開している。

https://sums.ac.jp/html/department/nursing_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/pt_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/ot_teacher.html

<https://sums.ac.jp/html/department/pharmacy/teacher.html>

https://sums.ac.jp/html/graduate_school/teacher/

<https://sums.ac.jp/html/advanced-courses/teacher.html>

II 主要な重点事業報告

1 重点報告の概要

1 学校法人湘南ふれあい学園の教育の質の向上や保証に向けた活動

(1) 学園各校は、教育力を高め、学生の学修力や学力の質保証を達成させると同時に教育研究活動の到達度の確認・点検、実践力強化に向けた指導方法の改善などの発表や、WGする場として、2か月に1回「全体研修会」（専門学校教育部会、大学部会、保育部会）を開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止により、会場を分散、

またはリモートで実施するなど、前年度に引き続き、開催方法に工夫を重ね、予定された FD・SD プログラム（授業方法の改善、個別学習指導、国家試験対策、就職指導、学生募集活動、地域貢献活動など）の目的を達成した。（40～45 ページ 全体研修会プログラム参照）

但し、新型コロナウイルスの影響を受けて、前年度に引き続き、グループ病院施設と連携して実施する「医療・教育研究会」は中止となったが、発表予定原稿を冊子にまとめて配布した。

- (2) 公開講座、学園広報活動、X'mas キャロリングなどの地域貢献活動、認定看護師研修、看護師実習指導者講習会などの現任者研修事業も、新型コロナウイルスの影響により、対面授業のほかに、文科省補助事業を活用したオンラインやオンデマンドなどの遠隔授業方法を取り入れて実施した。

2 全学5つの活動（PDC/全体朝礼/6S/全体研修会/業務改善）

(1) PDC 活動

教育の質の改善、向上させるためのマネジメント手法として、学園全体で取り組んでいる活動である。毎月、①学生募集、②教務・学生支援、③国家試験対策支援、などの項目について、事業計画の重点項目と照らし合わせながらプラン（P）の目標値を決めて、その目標に対するアクション（D）計画を策定して、当月に行った活動内容の結果を検証・分析（C）し、未達成の事項や課題を翌月のプランに反映させて常に目標達成を目指し活動した。

(2) 全体朝礼

毎月1回、全教職員が一堂に会した朝礼を実施し、当月の重点事項を確認した。

(3) 6S 活動

整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の6テーマに沿って、全職員が毎月計画を立てて学内の美化に努めた。

(4) 全体研修会

6 ページ (1) に記載したとおり。（プログラムは 40～45 ページ参照）

(5) 業務改善

教員は、シラバスや授業内容について学生評価アンケートや学生の成績状況、国家試験状況などのアセスメント項目から学生の学修成果を可視化することで、本学の教育成果を測定・評価し、個々の教育内容を改善した。また、職員は、業務の問題点を洗い出し、効率化を図り週 40 時間以内で業務を終えるように努めた。

2022 年度前期授業アンケートについて（保健医療学部）

1. 対象学生 学生 733 名（休学者 15 名は対象外）
2. 対象科目 実習科目を除く 132 科目
3. 使用アンケート Google Forms を用いた集計
4. 設問内容
 - 質問 1a この授業を履修した 1 番強い動機を選択してください。
 - 質問 1b この授業を履修した 2 番強い動機を選択してください。
 - 質問 1c この授業を履修した 3 番強い動機を選択してください。
 1. この授業に関心があったから
 2. シラバスを読んで
 3. 教員に魅力があったから
 4. 自分の専門に関係が深い分野だから
 5. 幅広い教養を身につけるため
 6. 必修だから
 7. 単位が取り易そうだから
 8. その他
 - 質問 2 この授業を意欲的に受講しましたか。
 - 質問 3 この授業の内容を理解できましたか。
 - 質問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか。
 - 質問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか。
 - 質問 6 自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか。
 - 質問 7 教員に熱意は感じられましたか。
 - 質問 8 教え方（教授法）はわかりやすかったですか。
 - 質問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。
 - 質問 10 この授業に対する 1 週間あたりの平均の勉強時間（授業時間を除く）を選択してください。
 1. 3 時間以上
 2. 2～3 時間
 3. 1～2 時間
 4. 30 分～1 時間
 5. 30 分未満
 - 質問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。
 - 質問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。
 - 質問 13 オプション（授業担当教員から指示があります）
 - 質問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。
5. レーダーチャートについて 「学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目」を基に作成したレーダーチャート（質問 2～14、ただし質問 10 は除く）
5. 円グラフについて 1 週間あたりの平均勉強時間をまとめたものである（質問 10）

2022 年度 授業評価アンケート結果

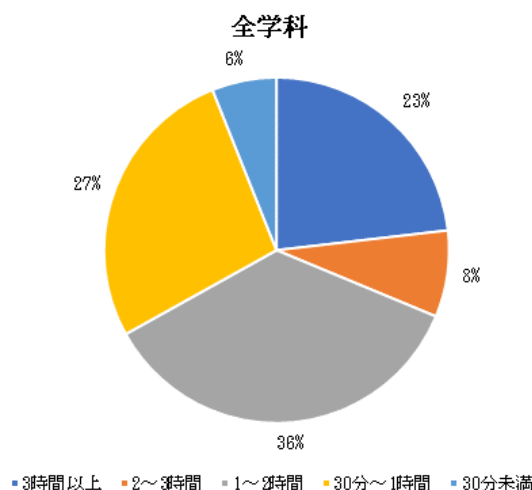
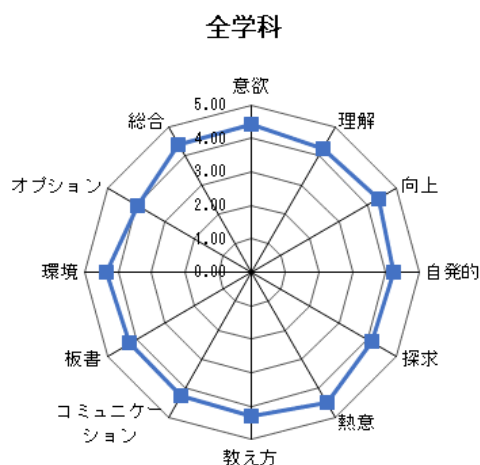
科目名：全科目
担当者：全学科 全専攻

履修の動機

理 由	動機 1	動機 2	動機 3
1) この授業に関心があったから	358	319	364
2) シラバスを読んで	21	69	156
3) 教員に魅力があったから	84	271	270
4) 自分の専門に関係が深い分野だから	73	102	98
5) 幅広い教養を身につけるため	125	510	588
6) 必修だから	1886	379	358
7) 単位が取り易そうだから	68	136	173
8) その他	147	690	431

質 問	平均
質問 2 この授業を意欲的に受講しましたか。	4.43
質問 3 この授業の内容を理解できましたか。	4.26
質問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか。	4.37
質問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか。	4.24
質問 6 自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか。	4.14
質問 7 教員に熱意は感じられましたか。	4.51
質問 8 教え方（教授法）はわかりやすかったですか。	4.28
質問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。	4.25
質問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。	4.24
質問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。	4.37
質問 13 オプション（授業担当教員から指示があります）	3.96
質問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。	4.41

質 問		人数
質問 10 この授業に対する1週間あたりの平均の勉強時間（授業時間を除く）を選択してください。	3 時間以上	639
	2～3 時間	223
	1～2 時間	984
	30 分～1 時間	745
	30 分未満	167



2022 年度 授業評価アンケート結果

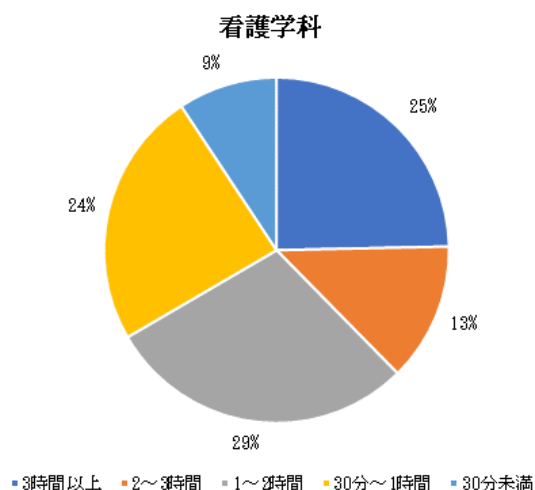
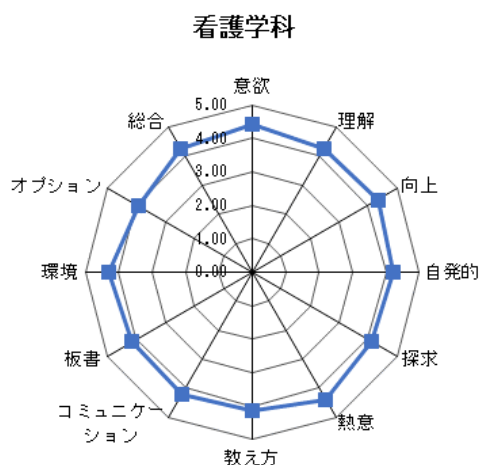
科目名：全科目
担当者：看護学科

履修の動機

理 由	動機 1	動機 2	動機 3
1) この授業に関心があったから	108	127	131
2) シラバスを読んで	4	30	65
3) 教員に魅力があったから	21	107	121
4) 自分の専門に関係が深い分野だから	17	26	35
5) 幅広い教養を身につけるため	37	208	188
6) 必修だから	795	167	167
7) 単位が取り易そうだから	18	45	40
8) その他	44	215	160

質 問	平均
質問 2 この授業を意欲的に受講しましたか。	4.42
質問 3 この授業の内容を理解できましたか。	4.27
質問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか。	4.33
質問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか。	4.22
質問 6 自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか。	4.12
質問 7 教員に熱意は感じられましたか。	4.40
質問 8 教え方（教授法）はわかりやすかったですか。	4.15
質問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。	4.19
質問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。	4.16
質問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。	4.30
質問 13 オプション（授業担当教員から指示があります）	3.93
質問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。	4.26

質 問		人数
質問 10 この授業に対する1週間あたりの平均の勉強時間（授業時間を除く）を選択してください。	3 時間以上	257
	2～3 時間	135
	1～2 時間	302
	30 分～1 時間	251
	30 分未満	97



2022 年度 授業評価アンケート結果

科目名：全科目

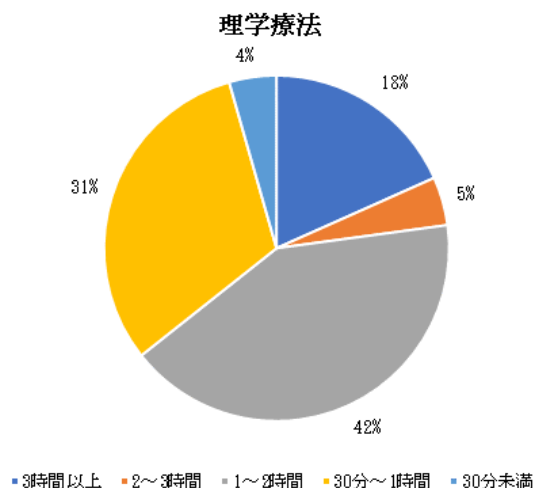
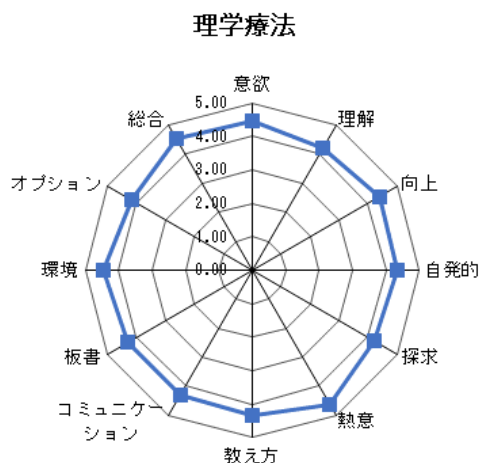
担当者：リハビリテーション学科 理学療法学専攻

履修の動機

理 由	動機 1	動機 2	動機 3
1) この授業に関心があったから	156	129	117
2) シラバスを読んで	11	22	53
3) 教員に魅力があったから	38	105	89
4) 自分の専門に関係が深い分野だから	20	32	29
5) 幅広い教養を身につけるため	48	158	249
6) 必修だから	634	99	81
7) 単位が取り易そうだから	38	46	88
8) その他	50	285	159

質 問	平均
質問 2 この授業を意欲的に受講しましたか。	4.47
質問 3 この授業の内容を理解できましたか。	4.23
質問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか。	4.41
質問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか。	4.32
質問 6 自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか。	4.22
質問 7 教員に熱意は感じられましたか。	4.63
質問 8 教え方（教授法）はわかりやすかったですか。	4.34
質問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。	4.30
質問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。	4.30
質問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。	4.44
質問 13 オプション（授業担当教員から指示があります）	4.18
質問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。	4.52

質 問		人数
質問 10 この授業に対する1週間あたりの平均の勉強時間（授業時間を除く）を選択してください。	3 時間以上	182
	2～3 時間	45
	1～2 時間	412
	30 分～1 時間	310
	30 分未満	44



2022 年度 授業評価アンケート結果

科目名：全科目

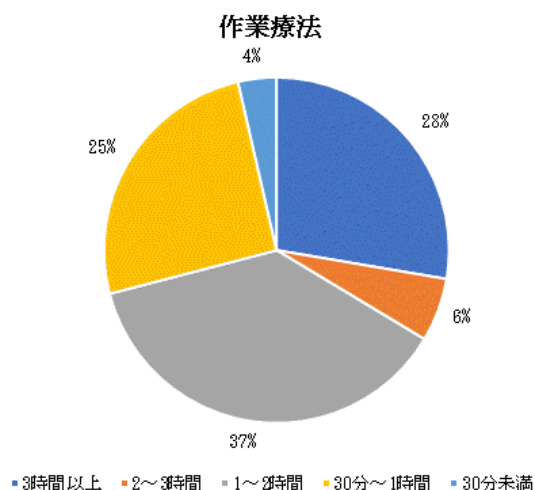
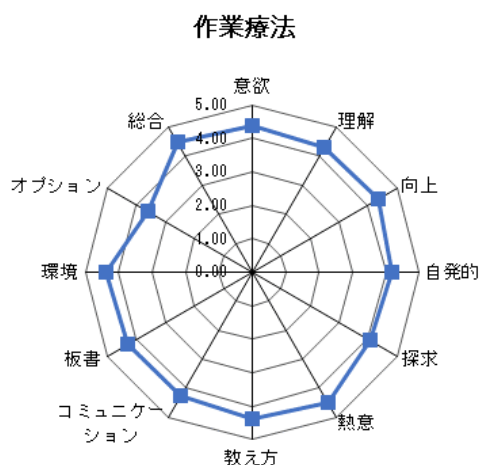
担当者：リハビリテーション学科 作業療法学専攻

履修の動機

理 由	動機 1	動機 2	動機 3
1) この授業に関心があったから	94	63	116
2) シラバスを読んで	6	17	38
3) 教員に魅力があったから	25	59	60
4) 自分の専門に関係が深い分野だから	36	44	34
5) 幅広い教養を身につけるため	40	144	151
6) 必修だから	457	113	110
7) 単位が取り易そうだから	12	45	45
8) その他	53	190	112

質 問	平均
質問 2 この授業を意欲的に受講しましたか。	4.38
質問 3 この授業の内容を理解できましたか。	4.30
質問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか。	4.36
質問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか。	4.16
質問 6 自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか。	4.06
質問 7 教員に熱意は感じられましたか。	4.50
質問 8 教え方（教授法）はわかりやすかったですか。	4.38
質問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。	4.28
質問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。	4.29
質問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。	4.38
質問 13 オプション（授業担当教員から指示があります）	3.61
質問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。	4.47

質 問		人数
質問 10 この授業に対する1週間あたりの平均の勉強時間（授業時間を除く）を選択してください。	3 時間以上	200
	2～3 時間	43
	1～2 時間	270
	30 分～1 時間	184
	30 分未満	26

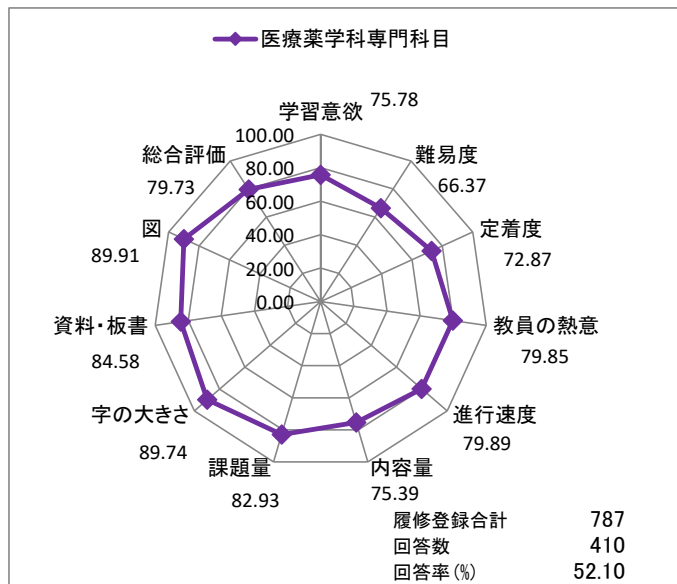
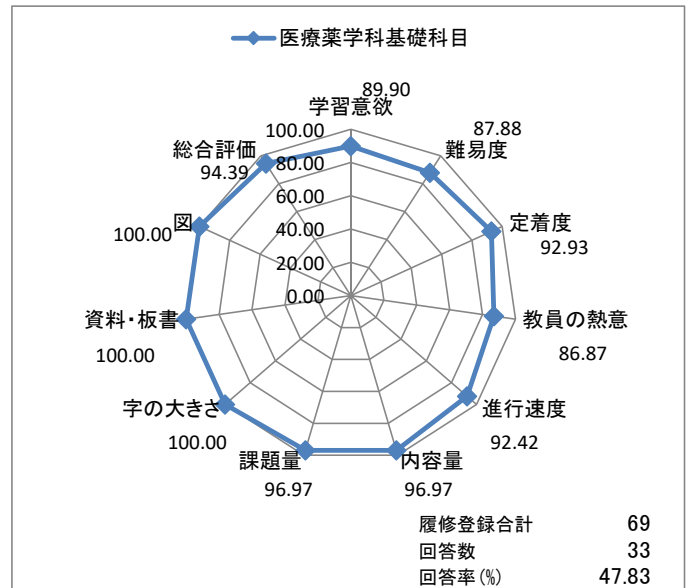
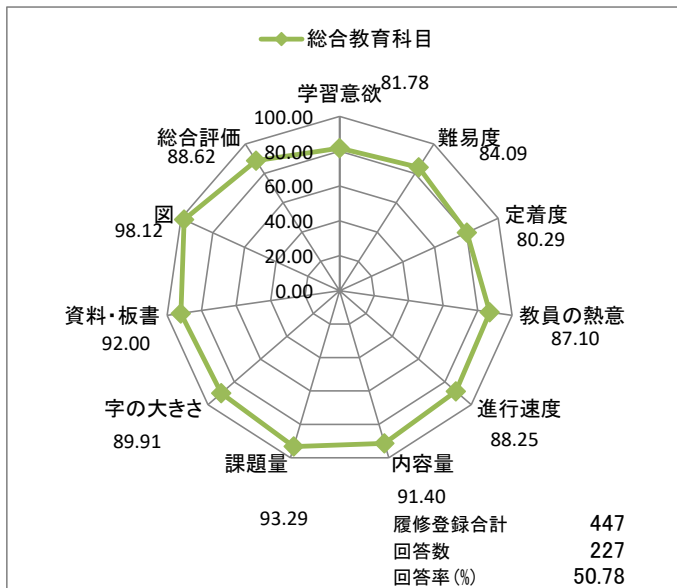


2022 年度前期授業評価アンケートについて（薬学部）

1. 対象学生 学生 98 名（休学者 3 名は対象外）
2. 対象科目 36 科目（学内実習含む）
3. 使用アンケート Google Forms を用いた集計
4. 設問内容
質問 1：この授業をどうして受講しましたか
①必修 ②選択
質問 2：この科目に対する学習意欲はどうでしたか
①意欲的に学習した ②概ね意欲的に学習した
③あまり意欲的でなかった ④全く意欲的でなかった
質問 3：この授業の難易度はどうでしたか
①簡単だった ②やや簡単だった ③ちょうどよかった
④やや難しかった ⑤難しかった
質問 4：この授業の内容は身に付きましたか（到達目標を達成できましたか）
①身についたと思う ②ある程度は身についた
③あまり身についていない ④ほとんど身につかなかった
質問 5：教員に熱意は感じられましたか
①強く感じられた ②感じられた
③あまり感じられなかった ④全く感じられなかった
質問 6：講義の進行速度は適切でしたか
①早かった ②やや早かった ③ちょうどよかった
④やや遅かった ⑤遅かった
質問 7：一回の講義内容の量は適切でしたか
①多かった ②やや多かった ③ちょうどよかった
④やや少なかった ⑤少なかった
質問 8：講義資料（レジュメなど）・板書についてお伺いします
8-1. 字の大きさは適切でしたか
①小さすぎた ②ちょうどよかった ③大きすぎた
8-2. 資料・板書の内容は適切でしたか
①簡単（大雑把）だった ②ちょうどよかった ③詳しすぎた
8-3. 図は適切でしたか
①小さくて見えなかった ②ちょうどよかった ③意味が理解できなかった
質問 9：シラバスを読みましたか
①読んだ ②知っているが読んでいない ③どこにあるか分からない
質問 10：到達目標を理解していましたか
①概ね理解していた ②少し理解していた ③理解していなかった ④説明がなかった
質問 11：評価方法を理解していましたか
①概ね理解していた ②少し理解していた ③理解していなかった ④説明がなかった
質問 12：課題の量は適切でしたか
①少ない ②やや少ない ③ちょうどいい ④やや多い ⑤多い
質問 13：この授業の予習にかけた時間は何時間ですか（1 週間当たり）
①0～1 時間 ②1～2 時間 ③2～3 時間 ④3 時間以上
質問 14：この授業の復習にかかった時間は何時間ですか（1 週間当たり）
①0～1 時間 ②1～2 時間 ③2～3 時間 ④3 時間以上
5. レーダーチャートについて 『学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目』（質問 2、4）
『授業そのものの評価』（質問 3、5～8、12）
を元に作成したレーダーチャート
6. 勉強時間 全開講科目に対する勉強時間の傾向をグラフで示したもの

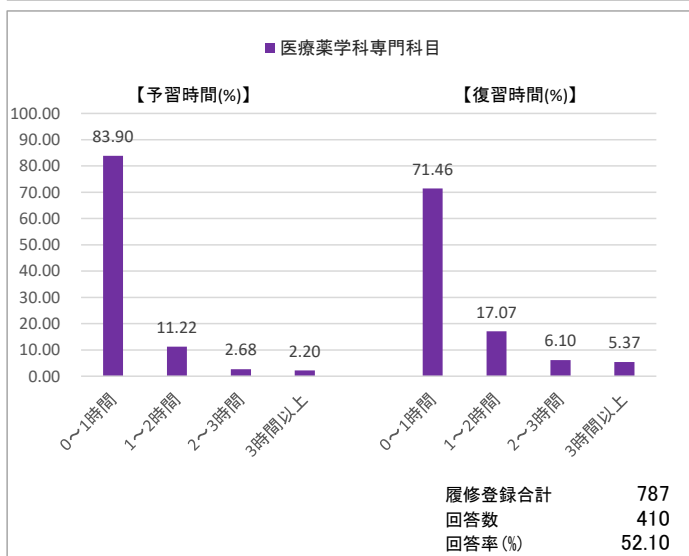
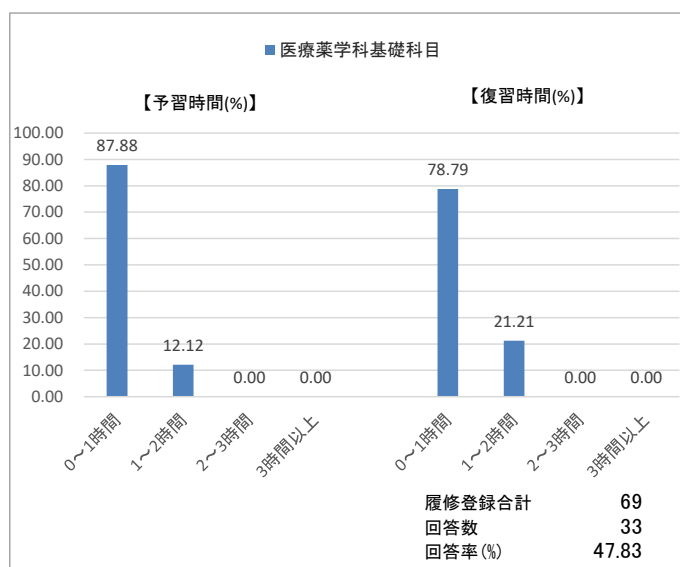
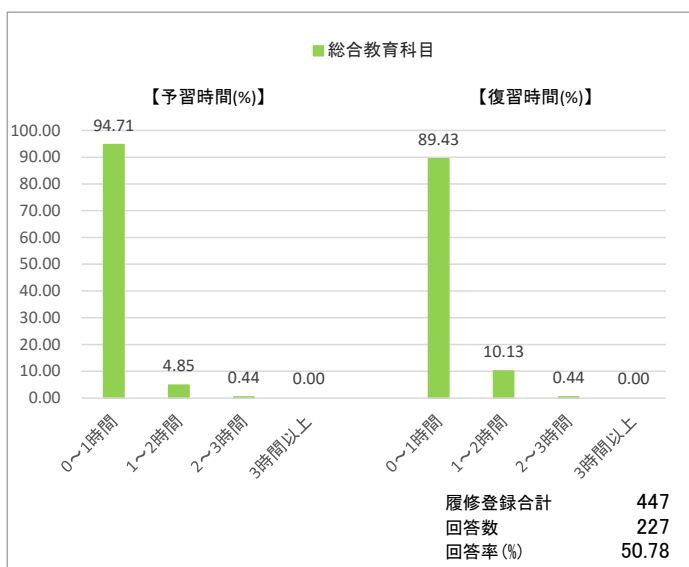
2022年度 授業評価アンケート結果(前期)

科目名	履修合計	回答数	回答率	評定点平均(満点:100)										総合評価
				学習意欲	難易度	定着度	教員の熱意	進行速度	内容量	課題量	字の大きさ	資料・板書	図	
総合教育科目	447	227	50.78	81.78	84.09	80.29	87.10	88.25	91.40	93.29	89.91	92.00	98.12	88.62
1年	401	206	51.37	79.22	81.01	79.28	87.43	89.61	89.64	91.60	90.99	90.45	98.05	87.73
2年	46	21	45.65	89.44	93.33	83.33	86.11	84.17	96.67	98.33	86.67	96.67	98.33	91.31
医療薬学科基礎科目	69	33	47.83	89.90	87.88	92.93	86.87	92.42	96.97	96.97	100.00	100.00	100.00	94.39
1年	69	33	47.83	89.90	87.88	92.93	86.87	92.42	96.97	96.97	100.00	100.00	100.00	94.39
医療薬学科専門科目	787	410	52.10	75.78	66.37	72.87	79.85	79.89	75.39	82.93	89.74	84.58	89.91	79.73
1年	491	215	43.79	78.70	80.59	77.13	85.48	87.65	81.49	90.37	87.89	85.04	93.28	84.76
2年	296	195	65.88	73.52	55.31	69.55	75.48	73.86	70.64	77.14	91.18	84.23	87.28	75.82



2022年度 授業改善アンケート結果(前期) 勉強時間

科目名	予習時間(%)				復習時間(%)			
	0～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上	0～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
総合教育科目	94.71	4.85	0.44	0.00	89.43	10.13	0.44	0.00
1年	96.14	3.38	0.48	0.00	90.34	9.18	0.48	0.00
2年	80.00	20.00	0.00	0.00	80.00	20.00	0.00	0.00
医療薬学科基礎科目	87.88	12.12	0.00	0.00	78.79	21.21	0.00	0.00
1年	87.88	12.12	0.00	0.00	78.79	21.21	0.00	0.00
医療薬学科専門科目	83.90	11.22	2.68	2.20	71.46	17.07	6.10	5.37
1年	89.77	6.98	0.93	2.33	75.81	16.74	5.12	2.33
2年	77.44	15.90	4.62	2.05	66.67	17.44	7.18	8.72

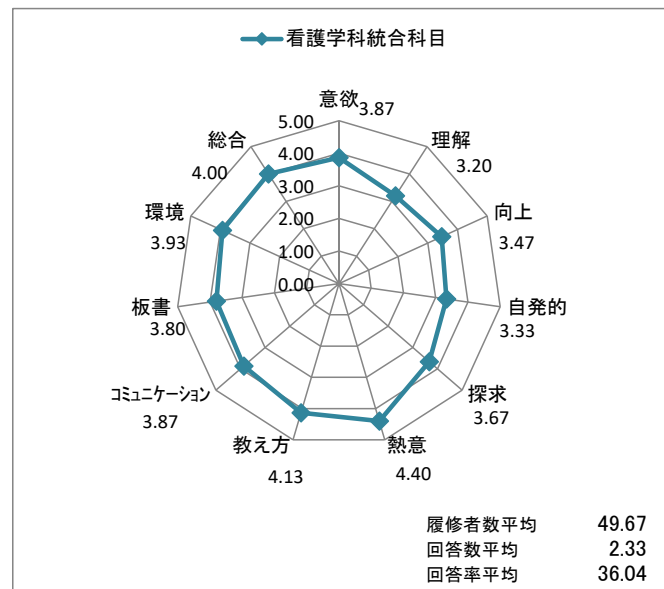
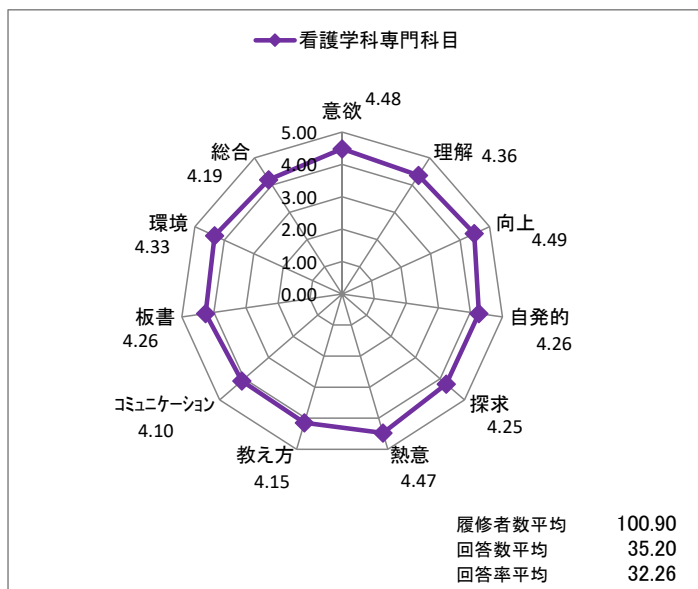
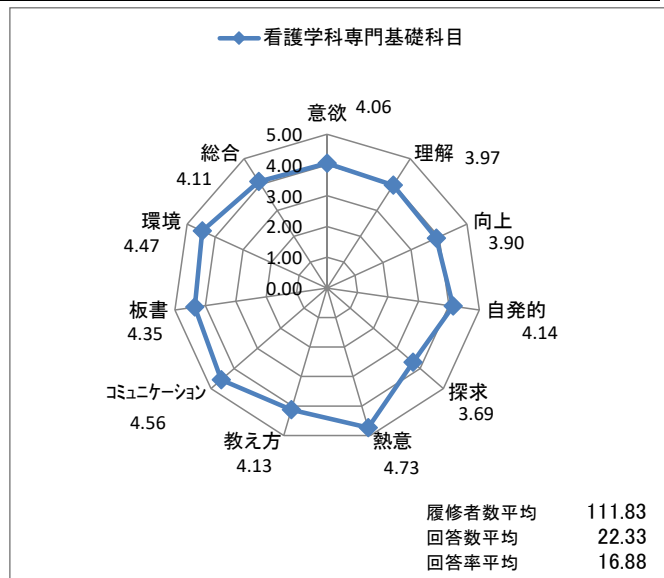
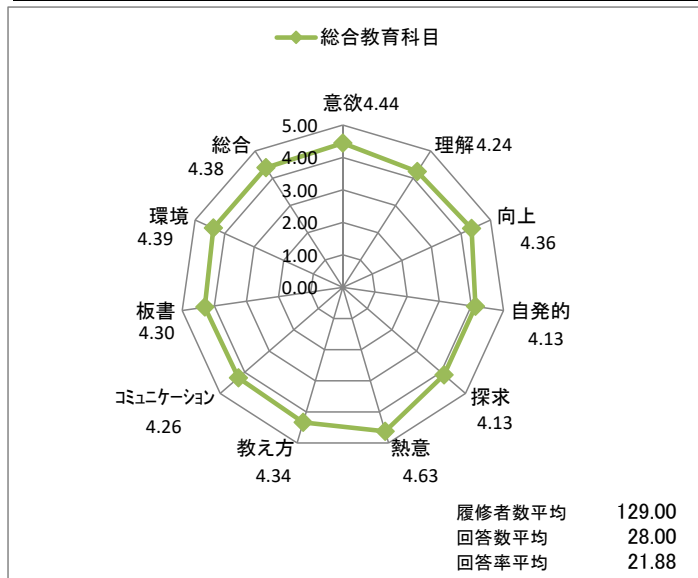


2022 年度後期授業評価アンケートについて（保健医療学部）

1. 対象学生 学生 522 名（休学者 15 名は対象外）
2. 対象科目 実習科目を除く 159 科目
3. 使用アンケート Google Forms を用いた集計
4. 設問内容
 - 質問 1 この授業を履修した動機を選択してください。（上位 3 件を選択）
 1. この授業に関心があったから
 2. シラバスを読んで
 3. 教員に魅力があったから
 4. 自分の専門に関係が深い分野だから
 5. 幅広い教養を身につけるため
 6. 必修だから
 7. 単位が取り易そうだから
 8. その他
 - 質問 2 この授業を意欲的に受講しましたか。
 - 質問 3 この授業の内容を理解できましたか。
 - 質問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか。
 - 質問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか。
 - 質問 6 自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか。
 - 質問 7 教員に熱意は感じられましたか。
 - 質問 8 教え方（教授法）はわかりやすかったですか。
 - 質問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。
 - 質問 10 この授業に対する 1 週間あたりの平均の勉強時間（授業時間を除く）を選択してください。
 1. 3 時間以上
 2. 2～3 時間
 3. 1～2 時間
 4. 30 分～1 時間
 5. 30 分未満
 - 質問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。
 - 質問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。
 - 質問 13 オプション（授業担当教員から指示があります）
 - 質問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。
 - （質問 15～17 は自由記述）
 - 質問 15 この授業で良かったと思う点を書いてください（自由記載）
 - 質問 16 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を詳しく書いてください
 - 質問 17 オプション（担当教員からの自由設問）
5. レーダーチャートについて
 1. 『学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目』を元に作成した三角形のレーダーチャート（質問 4～6）
 2. 『授業そのものの評価』（質問 2～3, 7～14）を元に作成した九角形のレーダーチャート
6. 円グラフについて 1 週間あたりの平均勉強時間をまとめたものである（質問 10）

2022年度 授業改善アンケート結果(後期)

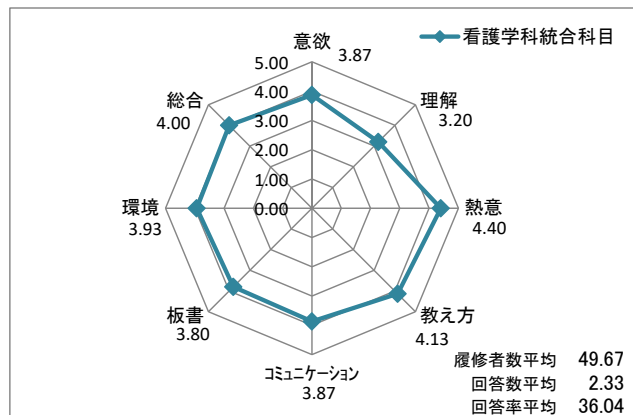
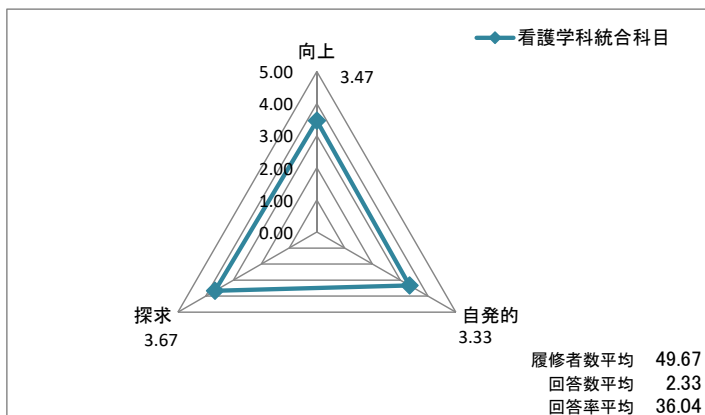
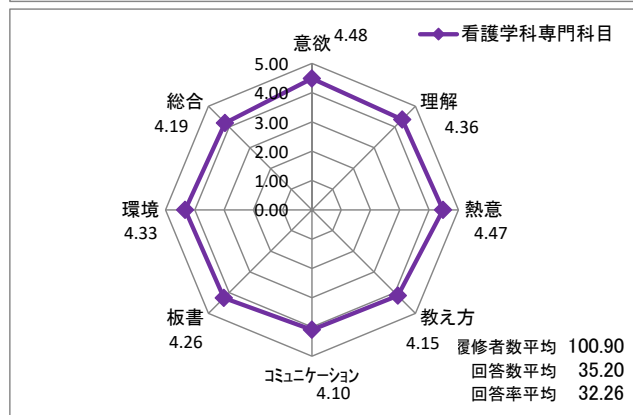
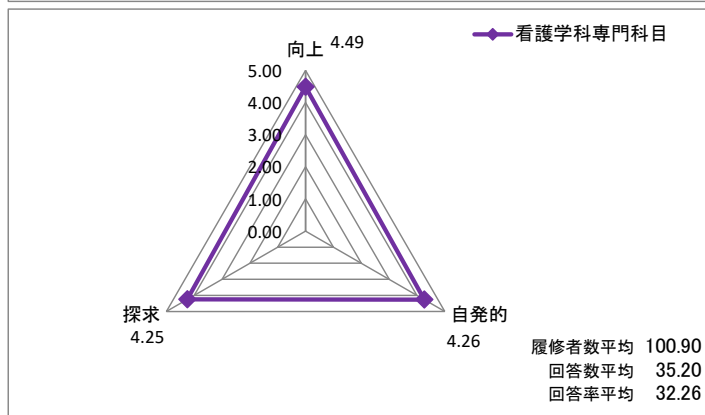
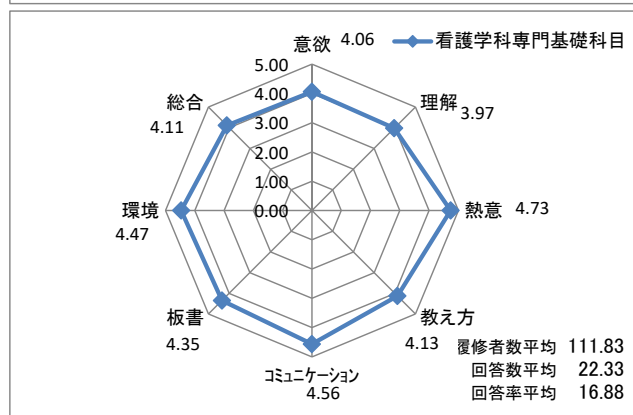
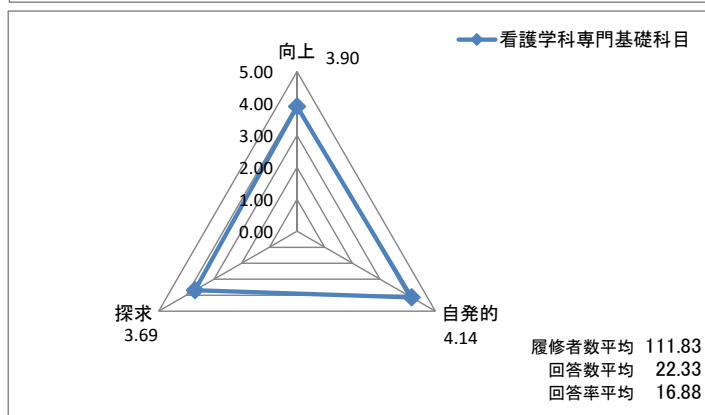
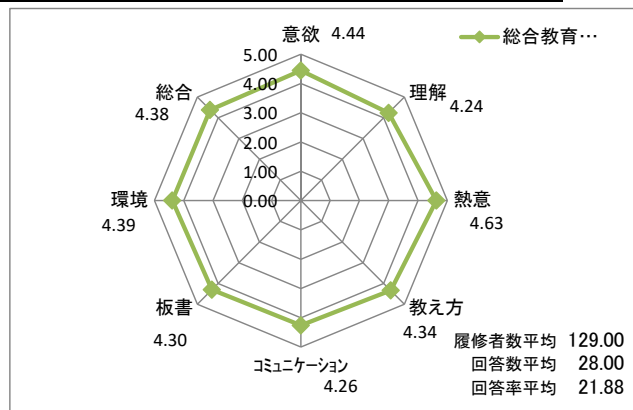
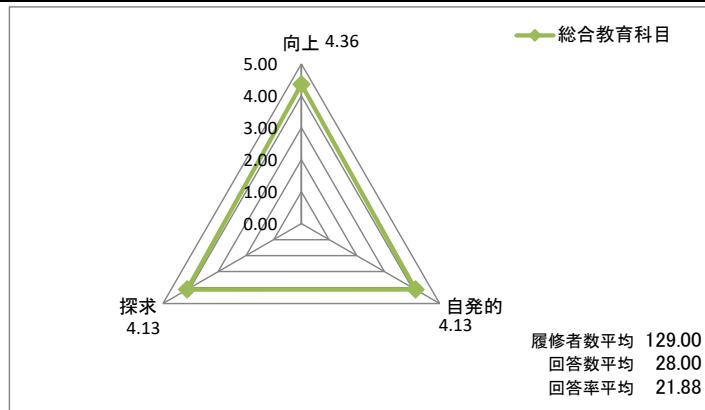
科目名	平均													
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	総合
総合教育科目	129.00	28.00	21.88	4.44	4.24	4.36	4.13	4.13	4.63	4.34	4.26	4.30	4.39	4.38
看護学科専門基礎科目	111.83	22.33	16.88	4.06	3.97	3.90	4.14	3.69	4.73	4.13	4.56	4.35	4.47	4.11
看護学科専門科目	100.90	35.20	32.26	4.48	4.36	4.49	4.26	4.25	4.47	4.15	4.10	4.26	4.33	4.19
看護学科統合科目	49.67	2.33	36.04	3.87	3.20	3.47	3.33	3.67	4.40	4.13	3.87	3.80	3.93	4.00



2022年度 授業改善アンケート結果(後期)

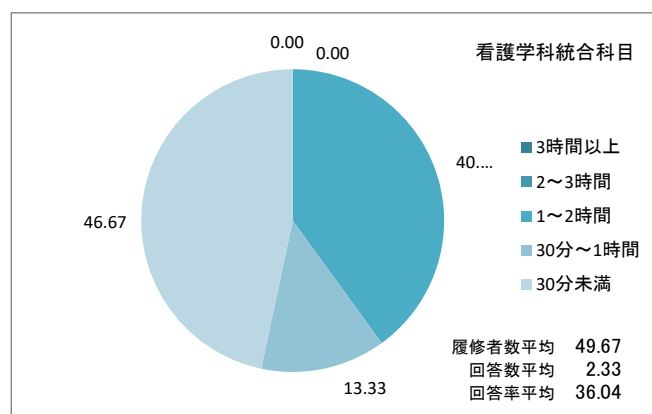
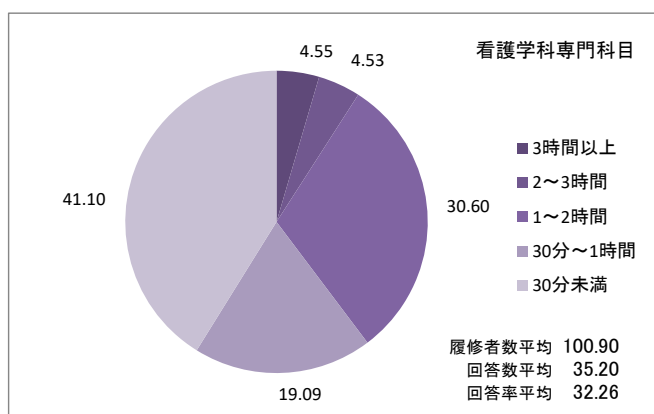
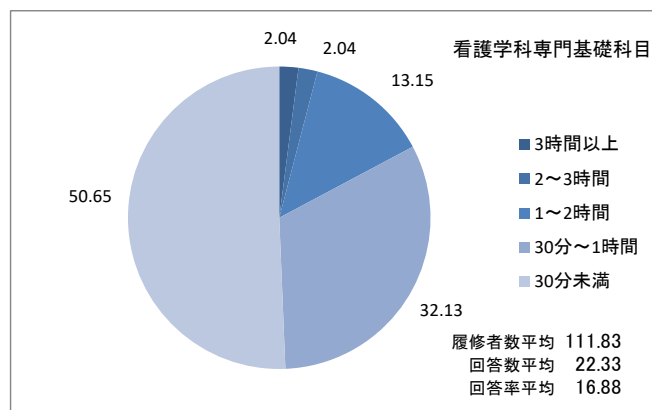
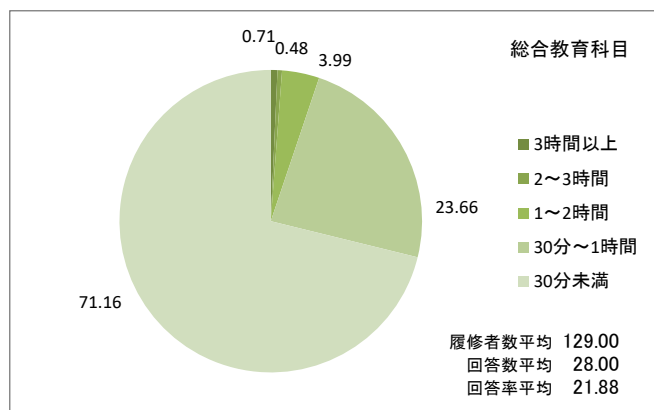
※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価

科目名	平均													
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	総合
総合教育科目	129.00	28.00	21.88	4.44	4.24	4.36	4.13	4.13	4.63	4.34	4.26	4.30	4.39	4.38
看護学科専門基礎科目	111.83	22.33	16.88	4.06	3.97	3.90	4.14	3.69	4.73	4.13	4.56	4.35	4.47	4.11
看護学科専門科目	100.90	35.20	32.26	4.48	4.36	4.49	4.26	4.25	4.47	4.15	4.10	4.26	4.33	4.19
看護学科統合科目	49.67	2.33	36.04	3.87	3.20	3.47	3.33	3.67	4.40	4.13	3.87	3.80	3.93	4.00



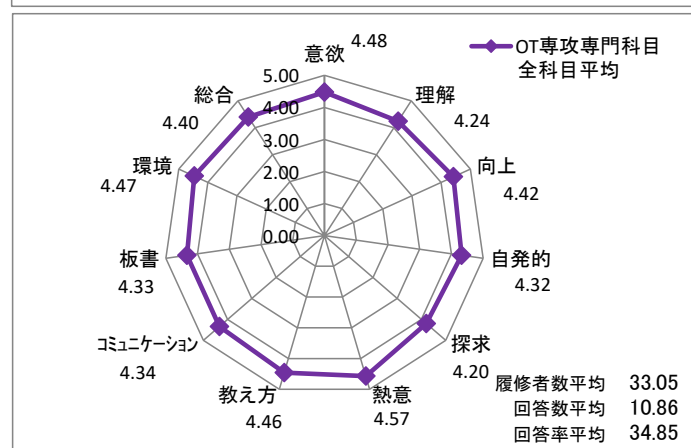
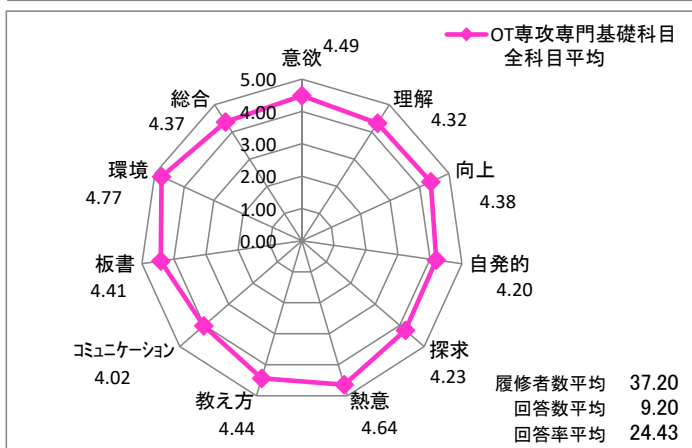
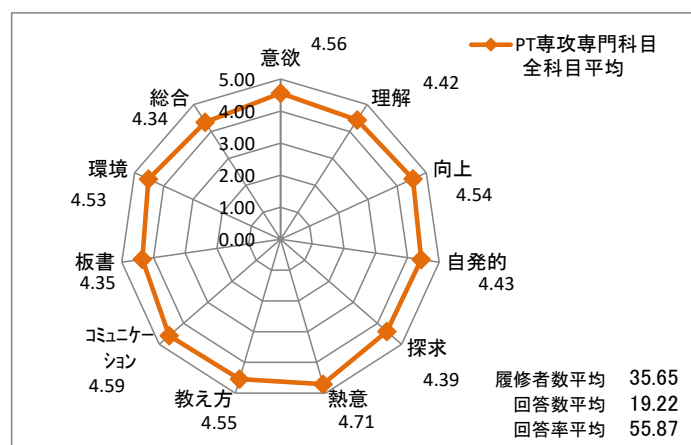
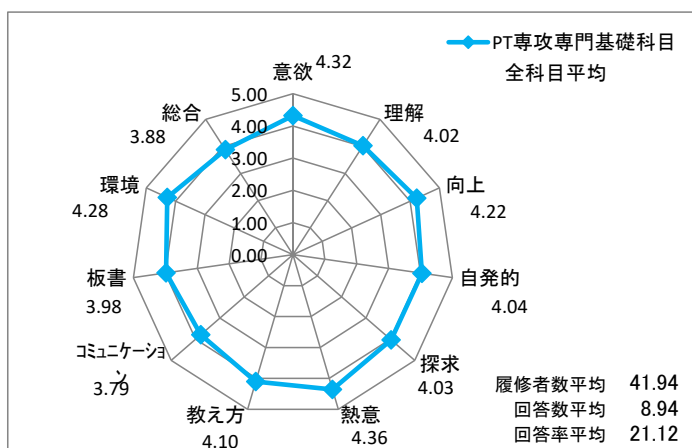
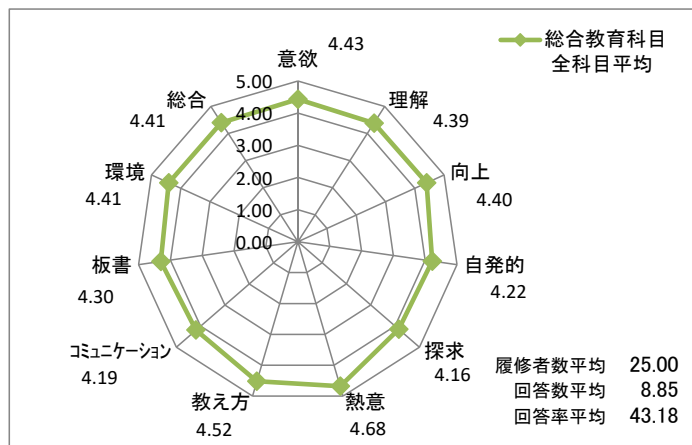
2022年度 授業改善アンケート結果(後期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	0.71	0.48	3.99	23.66	71.16
看護学科専門基礎科目	2.04	2.04	13.15	32.13	50.65
看護学科専門科目	4.55	4.53	30.60	19.09	41.10
看護学科統合科目	0.00	0.00	40.00	13.33	46.67



2022年度 授業改善アンケート結果(後期)

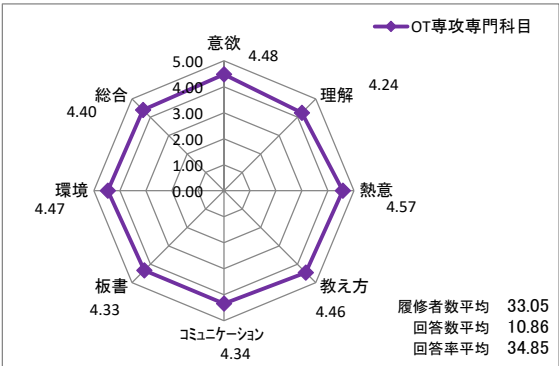
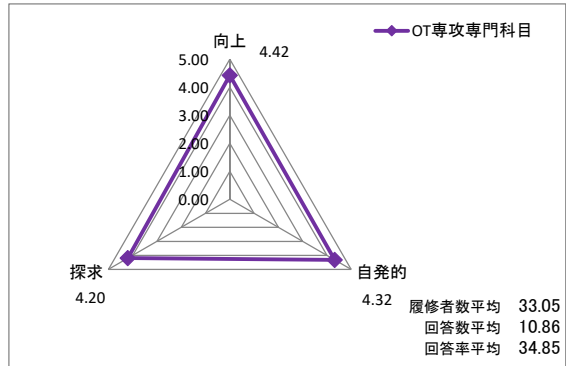
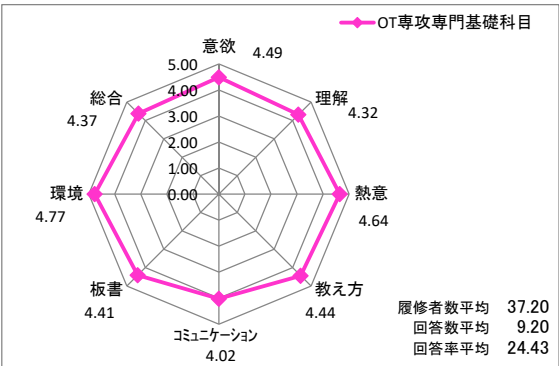
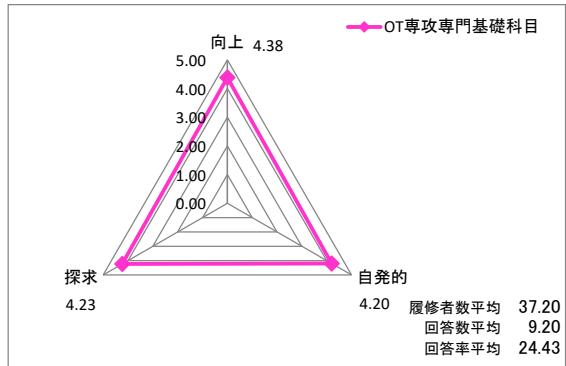
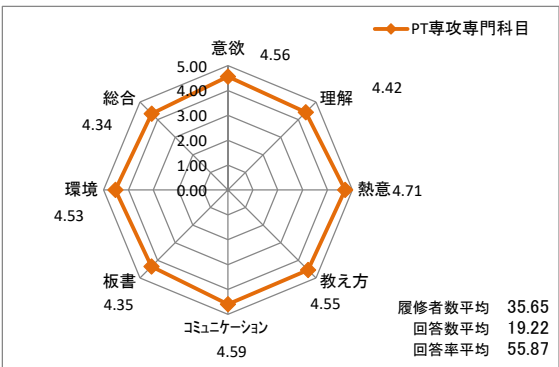
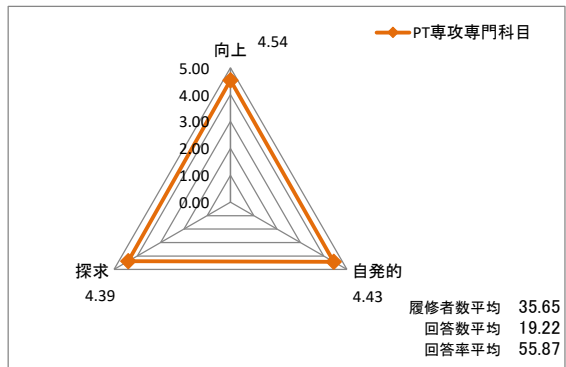
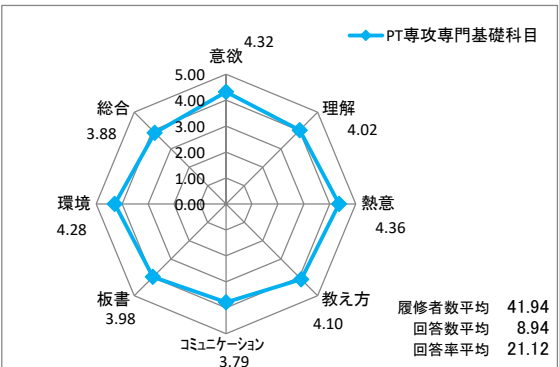
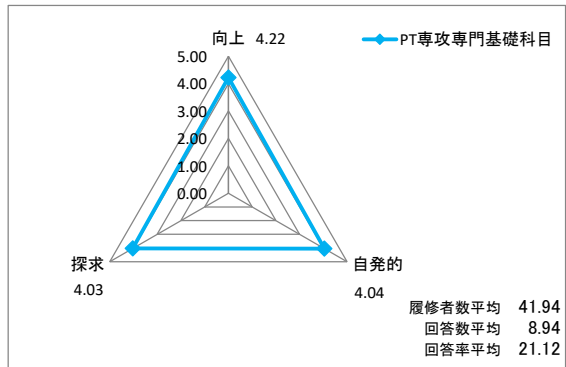
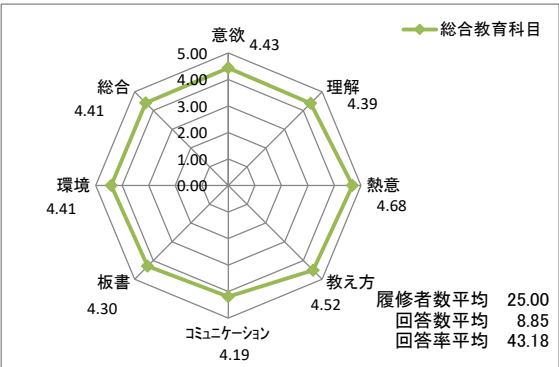
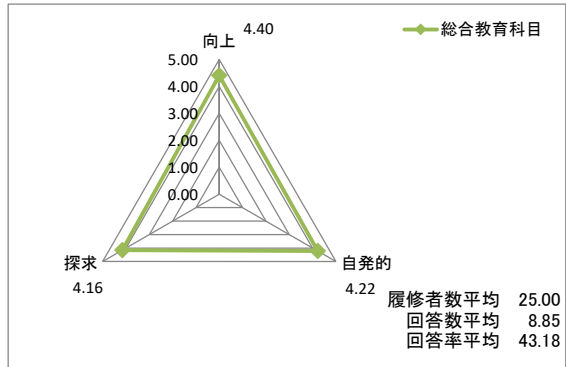
科目名	平均													
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	総合
総合教育科目	25.00	8.85	43.18	4.43	4.39	4.40	4.22	4.16	4.68	4.52	4.19	4.30	4.41	4.41
理学療法学専攻専門基礎科目	41.94	8.94	21.12	4.32	4.02	4.22	4.04	4.03	4.36	4.10	3.79	3.98	4.28	3.88
理学療法学専攻専門科目	35.65	19.22	55.87	4.56	4.42	4.54	4.43	4.39	4.71	4.55	4.59	4.35	4.53	4.34
作業療法学専攻専門基礎科目	37.20	9.20	24.43	4.49	4.32	4.38	4.20	4.23	4.64	4.44	4.02	4.41	4.77	4.37
作業療法学専攻専門科目	33.05	10.86	34.85	4.48	4.24	4.42	4.32	4.20	4.57	4.46	4.34	4.33	4.47	4.40



2022年度 授業改善アンケート結果(後期)

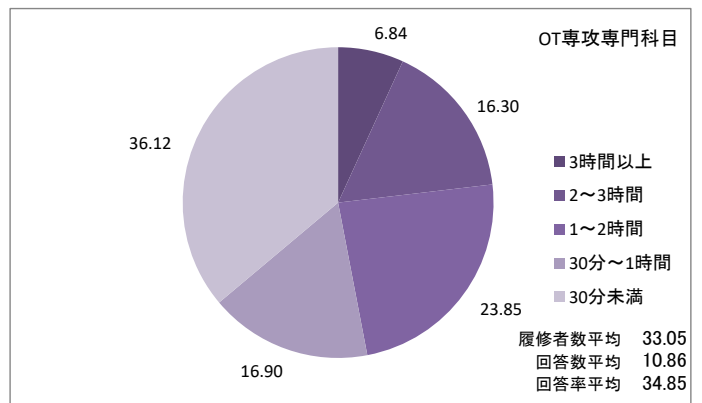
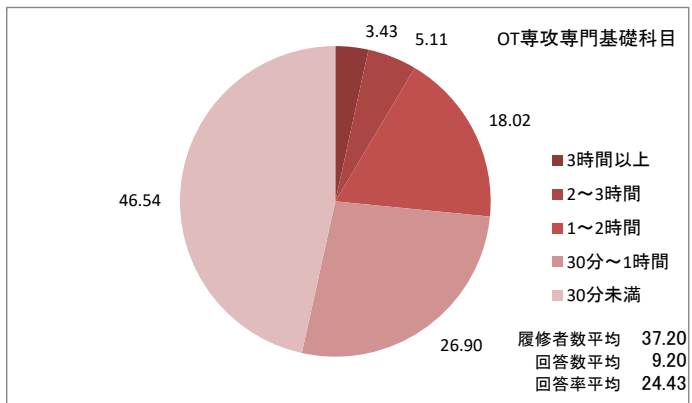
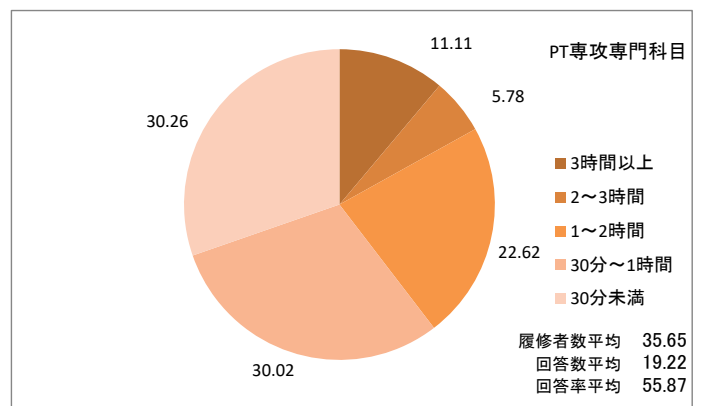
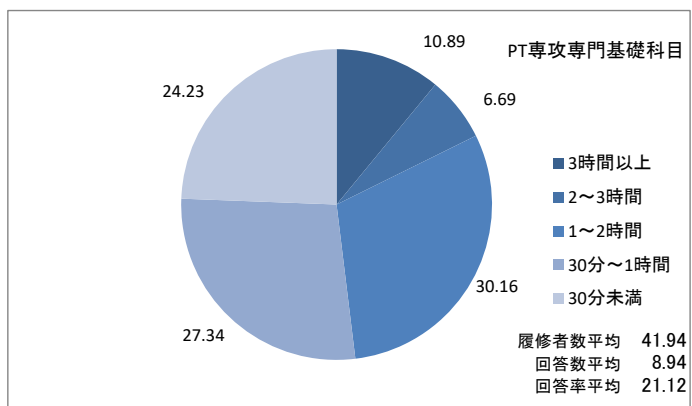
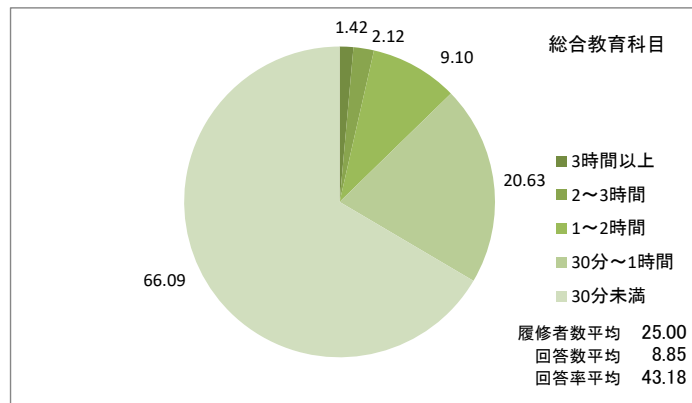
※レーダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レーダーチャート(右)は学生による教員の評価

科目名	平均													
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	総合
総合教育科目	25.00	8.85	43.18	4.43	4.39	4.40	4.22	4.16	4.68	4.52	4.19	4.30	4.41	4.41
理学療法学専攻専門基礎科目	41.94	8.94	21.12	4.32	4.02	4.22	4.04	4.03	4.36	4.10	3.79	3.98	4.28	3.88
理学療法学専攻専門科目	35.65	19.22	55.87	4.56	4.42	4.54	4.43	4.39	4.71	4.55	4.59	4.35	4.53	4.34
作業療法学専攻専門基礎科目	37.20	9.20	24.43	4.49	4.32	4.38	4.20	4.23	4.64	4.44	4.02	4.41	4.77	4.37
作業療法学専攻専門科目	33.05	10.86	34.85	4.48	4.24	4.42	4.32	4.20	4.57	4.46	4.34	4.33	4.47	4.40



2022年度 授業改善アンケート結果(後期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	1.42	2.12	9.10	20.63	66.09
理学療法学専攻専門基礎科目	10.89	6.69	30.16	27.34	24.23
理学療法学専攻専門科目	11.11	5.78	22.62	30.02	30.26
作業療法学専攻専門基礎科目	3.43	5.11	18.02	26.90	46.54
作業療法学専攻専門科目	6.84	16.30	23.85	16.90	36.12

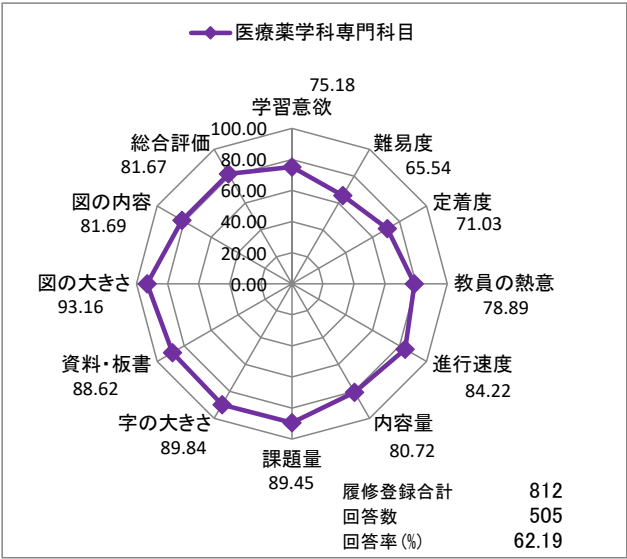
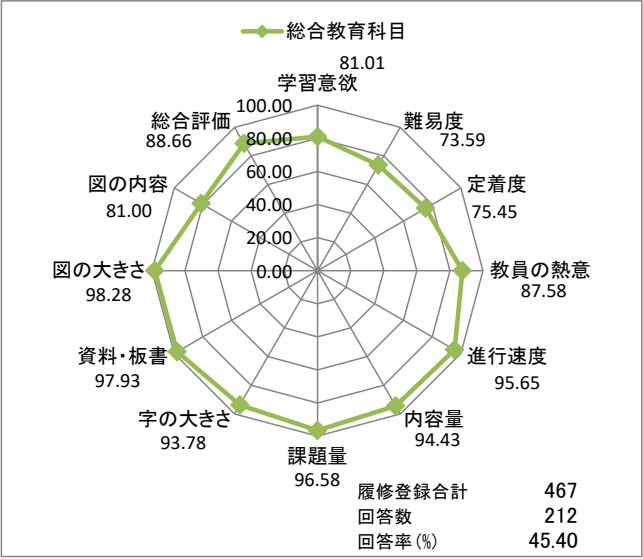


2022 年度後期授業評価アンケートについて（薬学部）

1. 対象学生 学生 94 名（休学者 3 名は対象外）
2. 対象科目 33 科目（学内実習含む）
3. 使用アンケート Google Forms を用いた集計
4. 設問内容
 - 質問 1：この科目に関する学修意欲はどうでしたか
1～5 段階評価（5 が高評価）
 - 質問 2：この授業の難易度はどうでしたか
1. 簡単 2. やや簡単 3. ちょうどよい 4. やや難しい 5. 難しい
 - 質問 3：この授業の内容は身に付きましたか（到達目標を達成できましたか）
1～5 段階評価（5 が高評価）
 - 質問 4：教員に熱意は感じられましたか
1～5 段階評価（5 が高評価）
 - 質問 5：講義の進行速度は適切でしたか
1. 遅い 2. やや遅い 3. ちょうどよい 4. やや速い 5. 速い
 - 質問 6：一回の講義内容の量は適切でしたか
1. 少ない 2. やや少ない 3. ちょうどよい 4. やや多い 5. 多い
 - 質問 7：課題の量は適切でしたか
1. 少ない 2. やや少ない 3. ちょうどよい 4. やや多い 5. 多い
 - 質問 8：字の大きさは適切でしたか
1. 小さい 2. やや小さい 3. ちょうどよい 4. やや大きい 5. 大きい
 - 質問 9：資料・板書の内容は適切でしたか
1. 不足していた 2. やや不足していた 3. ちょうどよい
4. やや詳しすぎた 5. 詳しすぎた
 - 質問 10：図の大きさは適切でしたか
1. 小さい 2. やや小さい 3. ちょうどよい 4. やや大きい 5. 大きい
 - 質問 11：図の内容は適切でしたか
1. 小さい 2. やや小さい 3. ちょうどよい 4. やや大きい 5. 大きい
 - 質問 12：自由記述（よかったところ、面白かったところ、難しかったところ、資料や板書の改善点、学修意欲が上がらなかった理由など）
 - 質問 13～17：自由記述（オプション：科目独自の質問内容）
5. レーダーチャートについて『学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目』（質問 3）
『授業そのものの評価』（質問 1～2、4～9）
を元に作成したレーダーチャート
6. 採点方法について 全てが最も評価の高い回答だった場合を 100 点とし、それに対する得点率で表示した。
質問 1、3、4 … 5 を高評価とする。
質問 2、5～10 … 「3. ちょうどよい」を高評価とする。

2022年度 授業評価アンケート結果(後期)

科目名	履修合計	回答数	回答率	評定点平均(満点:100)											
				学習意欲	難易度	定着度	教員の熱意	進行速度	内容量	課題量	字の大きさ	資料・板書	図の大きさ	図の内容	総合評価
総合教育科目平均	467	212	45.40	81.01	73.59	75.45	87.58	95.65	94.43	96.58	93.78	97.93	98.28	81.00	88.66
1年	405	189	46.67	83.02	72.90	76.69	88.14	96.53	95.03	97.99	94.34	97.69	98.50	79.92	89.16
2年	62	23	37.10	63.93	79.46	64.91	82.77	88.17	89.29	84.60	89.06	100.00	96.43	90.18	84.44
医療薬学科専門科目平均	812	505	62.19	75.18	65.54	71.03	78.89	84.22	80.72	89.45	89.84	88.62	93.16	81.69	81.67
1年	447	274	61.30	74.91	67.20	70.80	80.99	81.80	77.12	91.15	93.20	88.72	95.07	80.15	81.92
2年	365	231	63.29	75.33	64.58	71.17	77.67	85.63	82.83	88.46	87.88	88.56	92.05	82.59	81.52



3 地域連携活動及び研究推進活動

(1) 地域連携活動

①公開講座の実施（45 ページ参照）

②自治体等との連携活動は、神奈川県生涯学習フェアに参加し、横浜市民向けに対面・オンライン併用の公開講座を神奈川県立図書館にて実施した。

(2) 研究推進活動

①個人研究の推進

個人研究計画に基づき研究活動を行った。（46～77 ページ 教員の研究活動参照）

②公的研究の推進

科研費等競争的研究資金の獲得状況（73～77 ページ参照）

科研費応募のための学内助成、学会発表などに対する旅費の助成を実施。また、科研費応募学内説明会を実施。その他、研究不正防止研修の実施、研究倫理教育研修（オンデマンド）を実施した。

③共同研究の推進（継続）

コロナ禍でもあり、大学組織として、グループ病院との連携、臨床医学研究所との連携した共同研究は、大きな進展は見られない困難な状況でした。

④ブランディング研究（継続）

薬学部では、フレイルの研究を、保健医療学部では、高齢者、認知症患者の歩行訓練などが研究テーマとして挙がっていたものの、進展を図ることができなかった。

4 チーム医療教育の実践（継続）

湘南医療大学は、チーム医療に貢献できる人材を養成するために、全学部の授業科目に「チーム医療」を設置している。また、大学院では、「多職種協働・地域連携特論」を配置している。学部学科を超えて、グループ演習形式で、臨床現場でのチーム医療を意識した症例研究を基に講義・演習を展開し、コミュニケーション能力の高い人材の養成に努めた。

また、学園医療系専門学校においても、グループ病院と実習指導を通じた連携を図り、実習指導教育の内容の改善に努め、学生が臨床現場で即戦力として対応できるように努めている。また、臨床現場のチーム医療に参画できるように、多職種及び患者とのコミュニケーション能力の向上に努めました。

5 アクティブ・ラーニングの活用等特色ある教育

・湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科4年次生は、学生同士が積極的に意見を出し合いながら進める授業を実施し、学生が主体的に卒業研究テーマを決めた上で、討論などを通して医療に必要な専門的知識・技術を深めるゼミ授業を導入している。

・学習支援システム「manaba」を全校（付帯教育事業含め）に導入し、ICTを活用した教育を展開した。

・SNS 時代における著作権の問題の理解、情報活用や論文作成能力の取得や向上に資するため、各校は、図書館を活用して、図書館の有効な使い方、データベースの利用法など情報リテラシー教育に力を注いだ。なお、大学では、初年次に情報リテラシー教育を教育課程の必修科目としています。

6 グループ施設などと連携した学生支援

(1) ふれあいグループ奨学金による学生支援（2022 年度実績）

有為な人材の育成と教育研究の振興のための「ふれあいグループ奨学金制度」は、社会的価値の向上に貢献する制度です。2022 年度、湘南医療大学 118 人、茅ヶ崎看護専門学校 105 人、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 39 人、湘南医療大学附属下田看護専門学校 27 人、医療ビジネス観光福祉専門学校 5 人 計 294 人が奨学金を受給し、経済的な不安なく学業を継続しました。

(2) 地域医療に貢献する就職支援

2022 年度湘南医療大学卒業生の主な就職先は下表の通り。

看護学科 卒業生 82 名		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 卒業生 40 名		リハビリテーション学科 作業療法学専攻 卒業生 36 名	
ふれあいグループ	21	ふれあいグループ	26	ふれあいグループ	15
神奈川県内病院・クリニック・行政（保健師）	44	神奈川県内病院・クリニック	9	神奈川県内病院・クリニック	11
神奈川県外病院	13	神奈川県外病院	4	神奈川県外病院	4
進学	3	その他	1	その他	6
その他	1				

尚、学園のキャリア支援教育は、就職活動支援のほかに国家試験対策支援を行っています。チューター制度により、オフィスアワーの時間などを活用し、教員が就職相談を行い、また、授業時間外に国家試験対策補講や個別学習指導などを行った。

(3) 専門学校と大学の教員による相互授業支援

大学教員が医療系専門学校の授業を担当し、また、専門学校教員が、大学キャリア開発コアセンターの看護系研修や研修センターでの現任者研修事業の講義を担当するなど教員相互出張授業を行った。

(4) 在学生及び卒業生による課外連携活動

2022 年度の学生間の課外活動は、コロナ禍であったため、活動は縮小された。

7 国家試験の状況

2022 年度の各校の国家試験合格率(新卒)は、下表の通りの結果である。湘南医療大学は、看護学科(97.6%)を除いたすべての学科、専攻科、領域で 100%の結果となった。茅ヶ崎看護専門学校は 92.4%、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校は言語聴覚学科 100%、理学療法学科 92.5%、作業療法学科 71.4%、社会福祉専攻科 69.4%、湘南医療大学附属下田看護専門学校は 73.9%、医療ビジネス観光福祉専門学校は 100%であった。2023 年度の国家試験に向けて、各校とも全員合格させることが出来るように学修指導を充実させる方針である。

学校名		学科名	年度	新卒				既卒			資格名
				受験者数	合格者数	合格率	全国平均 (新卒)	受験者数	合格者数	合格率	
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科(看護師)	令和4年度	82	80	97.6%	95.5%	4	3	75.0%	看護師
		看護学科(保健師)		14	14	100.0%	96.8%	0	0	—	保健師
		理学療法学専攻		39	39	100.0%	94.9%	1	1	100.0%	理学療法士
		作業療法学専攻		30	30	100.0%	83.8%	7	1	14.3%	作業療法士
	保健医療学研究科	助産学領域	令和4年度	4	4	100.0%	95.9%	—	—	—	助産師
	専攻科	公衆衛生看護学専攻	令和4年度	13	13	100.0%	96.8%				保健師
		助産学専攻	令和4年度	14	14	100.0%	95.9%				助産師
茅ヶ崎看護専門学校		看護学科	令和4年度	66	61	92.4%	95.5%	—	—	—	看護師
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校		理学療法学科	令和4年度	67	62	92.5%	94.9%	17	7	41.2%	理学療法士
		作業療法学科	令和4年度	14	10	71.4%	91.3%	3	0	0.0%	作業療法士
		言語聴覚学科	令和4年度	20	20	100.0%	81.6%	3	1	33.3%	言語聴覚士
		社会福祉専攻科 (通信課程)	令和4年度	63	44	69.8%	44.2%	65	21	32.3%	社会福祉士
湘南医療大学附属 下田看護専門学校		看護学科	令和4年度	23	17	73.9%	95.5%	17	5	29.4%	看護師
医療ビジネス 観光福祉専門学校		介護福祉学科	令和4年度	5	5	100.0%	97.3%	5	5	100.0%	介護福祉士
		介護福祉士実務者研修 (通信課程)	令和4年度	18	18	100.0%	84.3%	14	14	100.0%	

8 退学者の状況

2022年度の各校の退学者数の状況は、以下の通りである。

大幅に改善がみられた設置校もあるが、2022年度も各校目標未達成となった。成績不振者への学習支援、進路変更にみられる入学前のマッチングエラーを減少させるなど、担任やチューターが責任を持ち次年度は休退学者を減少できるように指導する。

学校名	退学者数 (除籍含む)	2022 年度	2021 年度	対比	2022 年度 退学率
湘南医療大学		28	20	8	3.3%
茅ヶ崎看護専門学校		11	20	△9	4.8%
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校		41	38	3	10.2%
湘南医療大学附属下田看護専門学校		4	7	△3	4.2%
医療ビジネス観光福祉専門学校		10	47	△37	7.6%

9 募集・広報

1) 各校の定員確保の状況 (2023 年度入学生)

1 募集定員の 100%確保

2023 年 4 月 1 日現在の入学定員充足率は、湘南医療大学保健医療学部は 100%以上、薬学部は 60%、大学院は 33%。茅ヶ崎看護専門学校は 90%、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校は 82%、湘南医療大学附属下田看護専門学校は 65%、医療ビジネス観光福祉専門学校は 43%の結果であった。

18 歳人口の減少や景気の悪化、新型コロナウイルス禍でのオンライン型の学校説明会やオープンキャンパスの実施により、各校とも学生確保に苦慮し、入学定員未充足の専門学校が増加した。この厳しい状況下において、改善するには、従来の教育内容を柔軟に変化させて、時代のニーズに合わせて見直すことが重要であると考えている。またリカレント教育を拡充させ、20 歳以上の人口の入学者を取り込む対策も必要であると考えており、2024 年度に向けて、本学園の強みを強化し、大学と専門学校及びふれあいグループと協働してリソースを適切に共有して学生の確保に努めていく。

2 0 2 3 年度学生募集

			入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員 充足率
湘南医療 大学	保健医療 学部	看護学科	140	510	494	190	140	100.0%
		リハビ ^レ テーション学科	80	239	231	106	84	105.0%
		理学療法学専攻	40	177	172	56	43	107.5%
		作業療法学専攻	40	62	59	50	41	102.5%
	薬学部	医療薬学科	130	240	227	193	78	60.0%
		編入	－	3	3	3	1	－
	大学院	保健医療学研究科	12	6	5	4	4	33.3%
	専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	51	50	21	20	100.0%
		助産学専攻	15	54	41	19	15	100.0%
茅ヶ崎看護専門学校		看護学科	80	98	96	94	72	90.0%
茅ヶ崎リハビ ^レ テーション 専門学校	理学療法学科		70	80	80	66	62	88.6%
	作業療法学科		30	27	27	26	22	73.3%
	言語聴覚学科		35	37	37	34	27	77.1%
湘南医療大学附属下田看護専門学校		看護学科	40	43	43	36	26	65.0%
医療ビジネス観光福 祉専門学校	医療ビジネス学科		40	19	19	19	18	45.0%
	観光学科		40	19	19	19	18	45.0%
	介護福祉学科		35	27	27	26	22	62.9%

2) 2022 年度の広報活動

- ・各校、高校教員向け学校説明会を1～3回程度行い、各校の魅力や特色を説明した。
- ・スマートフォン・ホームページに、受験生に有益になるような教育活動の内容、トピックス、入試情報、コロナ情報などの最新情報の更新を積極的に努めた。
- ・コロナ禍でのオンライン説明会、相談会と並行して、昨年度は、人数制限、時間制限や衛生環境に配慮した対面でのオープンキャンパスをできる限り実施した。
- ・「ふれあいグループ奨学金制度」を前面にPRした広報活動を行った。
- ・学園とグループ17病院・51施設と連携した教育・就職活動を紹介した。
- ・豊富な症例検討と、全教職員が参加する「チーム医療教育」を紹介した。
- ・学士課程教育から卒後教育（大学院、専攻科）・現任者教育（各種講習会）を通して地域貢献する教育を紹介した。
- ・臨床実践に必要なコミュニケーション能力が身につく「臨床実習」を紹介した。
- ・教員や学生の研究活動を積極的にホームページに掲載した。

10 人事計画及び組織

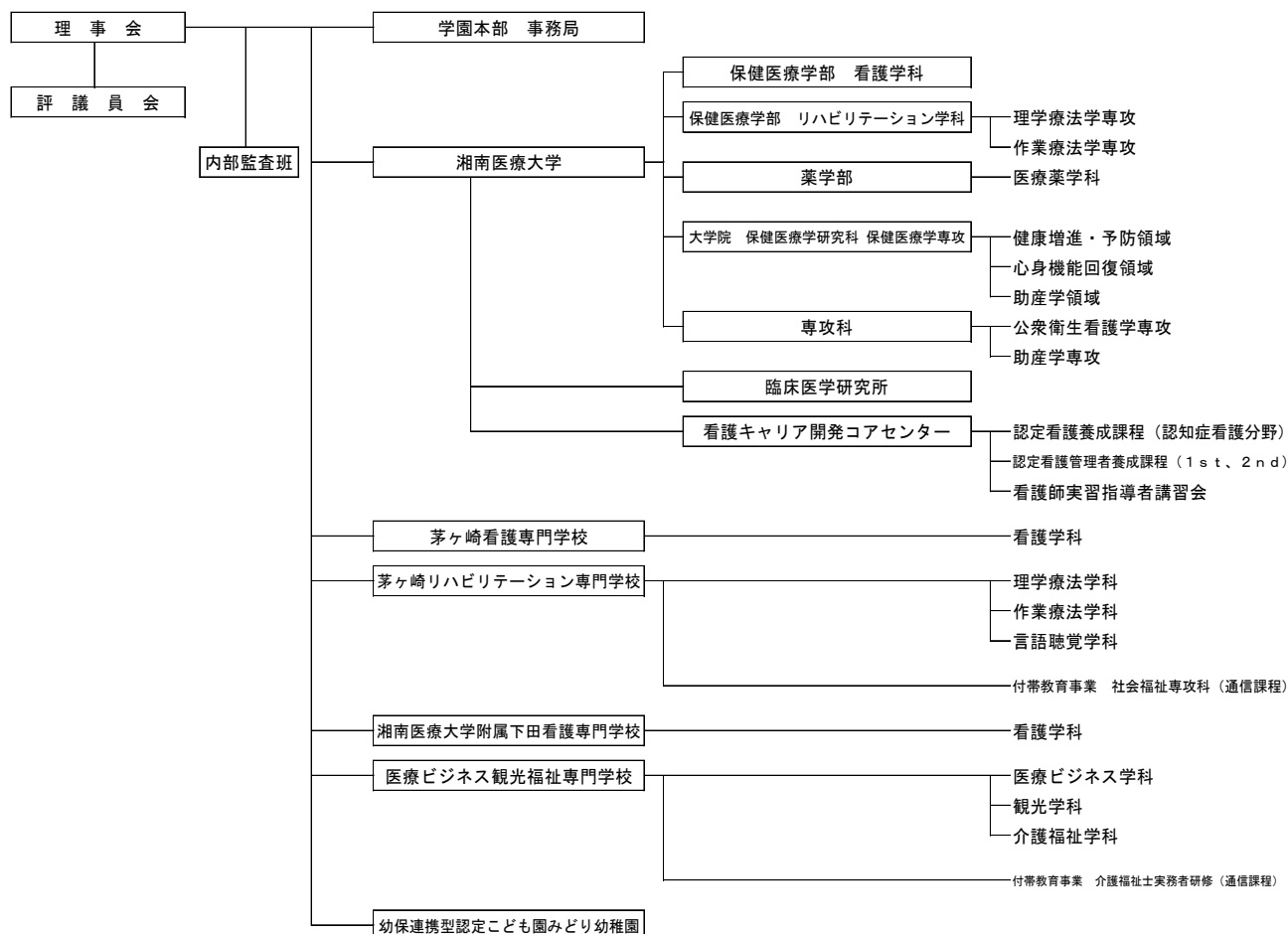
(1) 人事計画

2022 年度、湘南医療大学保健医療学部看護学科は、入学定員増（80 名→140 名）があり、2 キャンパス運営が始まったため、専任教員及び助手を含めて 43 名まで増員した。また薬学部は、専任教員の段階的配置計画を踏まえ、教員 30 名となり、大学全体教員数及び教授数の変更に対応した。

なお、認定こども園みどり幼稚園及び湘南医療大学附属下田看護専門学校は、慢性的に教員の確保が必要であったため、教員募集サイトの活用及び教員派遣会社への登録を行い、教員の確保に努めた。

(2) 組織

学校法人湘南ふれあい学園 組織図(2022年度)



1.1 コンプライアンスの徹底（継続）

・学園の規程に則り、理事会、評議員会を実施した。また、各校園での会議、委員会も予定通り開催し、学校運営の充実を図った。

・2021年に法令に基づく、第三者評価により大学機関別認証評価を受け、大学評価基準を満たしていると認定された。しかしながら、利益相反事項など、改善を要する点もあり、2022年度は、法令遵守を徹底した。また、薬学部の中間認証評価（自己点検評価）が2025年度に予定されているため、その準備に向けて、2022年度時点で自己評価により達成されていない事項を洗い出して対策を検討することになった。また、各専門学校においては、神奈川県専修学校各種学校協会の自己点検評価項目に沿って実施し、ホームページに評価結果を公表した。

・教職員ハンドブックや職員手帳に基づき、全教職員の入職時に学園の行動指針や行動規範を説明し、コンプライアンスの意識を高めた。

・学園本部職員（内部監査班の職員）による内部監査を実施した。及び監事による業務監査及び会計監査を実施した。

・近年SNSによる誹謗中傷のニュースを目の当たりにする機会が増え、本学園でも引き続き、学生教職員に注意指導を行い、倫理教育の徹底を図っている。

1.2 規程の整備

2022年度に施行した学園の規程は1件、大学院に就学する学校法人の教員を支援する貸付に関する規程である。今後は、2023年5月に公布、2025（令和7）年4月に施行される私立学校法の改正に合わせ、大幅な寄附行為の改正などが予定される。

III 中長期計画における重点報告の概要 ※詳細は、法人のホームページに公開

ア 湘南医療大学保健医療学部看護学科定員変更（80名から140名）

2022年4月より入学定員が80名から140名に変更になった。2022年4月入学者志願数としては前年度を下回ったが、初年度より140名定員を充足させることができた。

イ 湘南医療大学横浜山手キャンパス及び、薬学部校舎運用開始

看護学科は、東戸塚校舎と横浜山手校舎の2キャンパスでの学科運営となった。横浜山手校舎は、保健医療学看護学科1、2年生用のキャンパスであり、特に今年度は、看護学科1年生140名と専攻科のみの運営であったため、独立性が高かった。しかし、遠隔授業や会議等で必要な場合には、TV会議システムやZOOMなどの通信ネットワークが整備されており、看護学科教員は、迅速に連携を図れる体制であった。加えて、学科長が、週一回横浜山手校舎に赴き、課題解決にむけてリーダーシップを発揮した。

薬学部は、校舎が竣工し、2学年で新校舎を使用開始した。

ウ 湘南医療大学専攻科（公衆衛生看護学専攻・助産学専攻）開設

専攻科（公衆衛生看護学専攻・助産学専攻）が横浜山手校舎に設置され、初年度は、公衆衛生看護学13名、助産学専攻14名を受け入れた。コロナ禍であったが、演習、実習等を含め定められた課程を全員が修了し、国家試験合格率100%であった。

エ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科 高度実践看護師教育課程（がん看護分野）開設

2022年度に設置された高度実践看護師教育課程 がん看護学（がん看護専門看護師）では1名を受け入れ、地域医療に貢献できる人材の育成に努めている。

オ 湘南医療大学茅ヶ崎保健医療学部（仮称）設置準備

対象となる茅ヶ崎看護専門学校及び茅ヶ崎リハビリテーション専門学校から準備委員を選出し、準備室会議を開始した。2024年度設置に向け、申請準備を進める。

カ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科（博士後期課程）設置準備

2023年1月に理事会において、湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程の課程変更認可申請に関し、審議され、それから文部科学省との相談を経て、3月に申請書を提出した。

キ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科（修士課程）に「医療経営管理学領域」設置準備

当該領域の専門の教員の紹介を受け、教育課程の準備に着手した。

ク 湘南医療大学キャリア開発コアセンター事業（認定看護、専門看護）

認定看護養成課程（認知症看護分野）は、第5期生12名を受け入れ、前年に引き続き、manabaシステムを活用した授業を実施した。新型コロナウイルス流行が減少傾向に入り、ふれあいグループ施設での実習も展開できた。

また、認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）は、9名を受け入れ、全員が修了した。

看護師実習指導者講習会は、2022年7月～11月にかけて8期生25名が講座に参加した。eラーニングを60時間分、また、zoomでの遠隔授業を24時間分実施した。受講生の評価は高く、25名全員が修了となった。

IV 監事監査方針及び報告

2022年度は、下記の監査対象校の内部監査及び監事監査を以下の通り実施した。

【業務監査】

監査対象校	内部監査	監事監査	結果
湘南医療大学	2022年 10月27日	2023年 3月29日	適性な運営であることが確認された。
医療ビジネス観光福祉専門学校	2022年 8月26日	2023年 3月29日	適性な運営であることが確認された。

※コロナ禍を鑑み、監事監査はオンラインにて実施した。

【会計監査】

2023年5月16日 公認会計士より監事2名が2022年度の予算執行状況等の説明を受け、適切な運営であることが説明された。

V 各学校の事業報告

1) 湘南医療大学

(1) 理念の実践

全体研修、教授会、その他委員会等各種会議をととして、全教職員、学生に対して「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念を礎とする、思いやりのある教育活動を実践することを確認し、行動した。

(2) 教育活動の実践

令和3年に引き続き、新型コロナウイルス感染対策として様々な方法で授業運営、学習支援、大学の活動を展開してきた。インターネットを活用した課題や授業を行い、対面式授業では間隔をあけた座席配置、飛沫感染防止アクリル板などを用いた対策を講じた。また、実習施設での実習を確保するため、抗原検査キットの導入やワクチン接種の依頼、一斉接種をグループ病院と協力して行った。その結果、実習施設での実習を行うことが出来、技術取得など専門職業人の育成のため、教育活動に努力した。

薬学部は設置2年目を迎え、2期生66名を迎え、教育活動を開始した。

新たに「専攻科」を設置し、横浜山手キャンパスで授業を開始した。新入生は公衆衛生看護学13名、助産学専攻14名の合計27名となった。

また、新型コロナウイルス対策を講じ、令和4年度入学式を実施し、令和4年度学位記授与式とともに茅ヶ崎市民文化会館を利用し、保健医療学部、大学院の学位記授与式を挙行了。また、専攻科の1期生27名を送り出した。

ア) 学修指導

オリエンテーションガイダンスを通じて、保健医療学部、薬学部の設置趣旨の理解促進、及び学生便覧、シラバス等により 4 年または 6 年間にわたる系統的な学習計画の指導・説明を実施した。

イ) 入学前教育の実施

看護学科、リハビリテーション学科では、総合型選抜入試入学者は 12 月後半から、推薦入試入学者に対しては 1 月より、入学前課題を出題した。パソコン・スマートフォン・タブレット等を使ってインターネット上で行うウェブ課題形式で、基礎学力・数学・物理・化学・生物等の課題を出題した。

医療薬学科は入学予定者に対し、リメディアル教育を大学内で行い、入学前までの土曜日を中心に集中講義を実施した。遠方の入学予定者は web を利用した講義を視聴し、課題対応を行わせるなど基礎学力向上を図った。

ウ) オフィスアワーの実施

学生が主体性を持って自主的に学習計画を進めるにあたり、オフィスアワーを活用できる環境を整備し、オリエンテーションガイダンス、授業概要誌面上の周知、教員研究室前の掲示等を活用して、学生のオフィスアワーの活用を促す取り組みを促進した。また、シラバス上にオフィスアワーを明記し、教員の連絡先を併記し、環境整備を実施した。

エ) 国家試験結果と実施した対策

国家試験結果は以下の通りの結果となった。2021 年度の結果を踏まえ、全学科 100%合格を目指し、国家試験対策を強化し、個別指導を展開した。その結果、保健師、理学療法士、作業療法士国家試験における新卒者合格率は 100%合格となり、理学療法学専攻は 2 年連続新卒者 100%合格を達成した。看護学科は 96.5%と全国平均を上回る結果となり、全学科、専攻で全国平均を上回る結果となった。

□看護師保健師助産師国家試験

新卒者の合格率 97.6%(80/82 名)【全国平均 95.5%】、既卒者を含む合格率 96.5%(83/86 名)【全国平均 90.8%】、保健師については、新卒者の合格率 100%(14/14 名)【全国平均 93.7%】、専攻科を含む合格率も 100%(27/27 名)【全国平均 93.7%】となった。

助産師については 100% (4/4 名)【全国平均 95.6%】となった。

□理学療法士国家試験

新卒者の合格率 100% (39/39 名)【全国平均 94.9%】、既卒者を含む合格率 100% (40/40 名)【全国平均 87.4%】

□作業療法士国家試験

新卒者の合格率 100%(30/30 名)【全国平均 91.3%】、既卒者を含む合格率 77.5%(31/40 名)【全国平均 88.8%】となった。

看護学科は、チューター制を活用し、個人指導を徹底し、対面方式にて支援を行う。①受験にむけたガイダンスを行い、受験にむけた動機づけを行い、業者によるガイダンスを通じ、今後の国家試験対策スケジュールや学習方法について説明を実施。②昨年の国家試験問題を含む業者模試を計画し、計 11 回計画・実施し、校内模試 3 回実施した。③学生が苦手としている「人体の機能と構造 (解剖・生理学)」については、学内外の講師に特別講座を依頼し、夏季休暇を利用した補講を 6 回実施した。④、各領域の先生方に依頼し、10 月～12 月の期間に 14 回実施した。⑤10 月 20 日から翌年 2 月 10 日までの期間、自己学習室を設置し学習環境を整えた。特に、もう二踏ん張りグループ (要支援学生) は、原則毎日登校するように指導し、特別学習支援企画を 11 月から 1 月末日まで実施した。manaba を使って過去問題から厳選した小テストを実施した。

リハビリテーション学科は長期休暇を活用し、補講、個別指導を徹底的に行い、学力低迷者支援を強化した。理学療法学専攻 2021 年度新卒者 100%合格を達成した試験対策方法を両学科で共有し、国家試験結果分析、不合格者の傾向について特徴をつかみ、指導を行った。また、朝学習として補講を実施し、学習習慣の醸成を形成するよう支援した。4 年早々にやった模試から成績低迷群を抜きだし、個別学習と支援を行うこととした。特に力を入れたのは相互学修支援体制を強化した。

理学療法学専攻では、4 年生の臨床実習終了後、9 月に集中講座を受講し、業者による模試 2 回を実施し、成績不良者に対しての指導を強化した。

作業療法学専攻では、4 学年の実習中に大学内に戻って学内学習ができるように設定し、基礎医学 3 科目（解剖・生理・運動学）の最も弱い科目を集中的に 1 日 10 問の反復問題を取り組みませた。また、夏季集中合宿を全学生に課して、継続学習を行わせた。業者模試、校内模試（過去問等）を 10 回実施し、ゼミ単位で学習フォローを行った。成績不良者には夏季集中講座を実施し、8 時より口座を実施し対応した。

オ) 就職支援

グループの就職説明会を両学科実施し、学内で 8 月に選考試験を実施した。グループ内定は看護学科 22 名、理学療法学専攻 26 名、作業療法学専攻 14 名の計 66 名となった。

(3) FD活動

教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント（FD）の取り組みの一環として、FD委員会を実施し、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、新任教員を対象とした教育方法・学生指導に関する研修会を企画実施した。なお、本年度より各学部、学科、専攻で実施することとなった。

ア) 学生による授業評価アンケート

前年まで使用していた「FDネットワークつばさ」の授業評価アンケートを基に独自授業評価アンケートを manaba に作成し、インターネット上での回答ができるように変更を行った。質問内容は経年変化を見る為、内容変更はせず、前後期に実施した。

アンケート結果は、授業科目ごとにデータ化するとともに授業科目群別のレダーチャートを作成、科目担当教員に渡すと同時に、今後の授業改善内容を記す「リフレクション・ペーパー」の作成を行い、提出するようにした。また、ティーチングポートフォリオの作成に向けて検討に入った。

なお、授業評価アンケートから、授業科目の評価が著しく低い教員については、当該授業科目の今後の取り組みについても明記し、提出を依頼している。

イ) 教員相互授業参観と自己評価

効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、各学科前後期に分かれて各 2 科目を対象として授業参観を実施した。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、教員個々の授業運営への活用や、今後の授業参観の運営方法に関する改善点等について意見交換と情報収集を行った。

ウ) 教育方法改善検討会

他大学の教育方法の伝達研修にあわせて、大学の相互研究として授業参観などを検討した。

エ) 臨床実習指導方法に関する講習会

両学部・専攻ともに実習指導者及び学内教員に対して臨床実習指導法について研修を実施した。

オ) 実習評価に関する研修

両学部・専攻ともに学内教員に対して実習評価について研修を実施した。

カ) 休退学防止への取り組み

学生のモチベーション向上、学習不安、学力低迷者に対する支援策について、学科専攻ごとに事例発表を

行い、検討を行った。

(4) 私立大学等改革総合支援事業

令和4年度申請539校中 選定102校(選定率20%)95点満点中採択選定基準69点以上となった。また、採点内容も変化し、基準が上がったため、本学は31点となり、前年より4点低下し、採択とはならなかった。2023年度は基準項目のうちIRに関する内容が多いため、事業計画に基づき、重点項目を設定し、指数化できるもの、大学で対応可能なものを年間を通じて分析・公表を行っていく。

(5) 学生募集活動

薬学部定員達成に向けて、学生募集をおこなったものの最終的に78名の入学者となった。オープンキャンパスでは2021年を上回る312名(前年比172%)が来校し、うち受験対象来場者152名のうち59名が出願し、出願率42%となった。入試区分で看護学科は定員を増員した2年目の中、昨年を上回る510名の出願(前年350名)、140名の入学者確保に至った。しかし、リハビリテーション学科2専攻は出願者が昨年以下回り、両専攻とも定員確保に至ったが、2023年度の募集活動が苦戦することが予想されるため、2022年同様、総合型選抜・学校推薦型選抜の年内入試で定員の半数以上をきちんと確保することが定員充足するための方法といえる。

薬学部の定員確保は2023年度の最重要課題である。まずは本学薬学部の認知を増やし、オープンキャンパス始め本学薬学部に来場することを第一にしていく。また、出願率を高める工夫として実験や演習を多く取り入れ、体験型説明を実施する。

(6) 地域交流活動

市民公開講座を対面方式で実施し、6日程13講座を開催した。2022年度は大学祭開催に伴い、学祭企画として3講座を実施した。なお、7、8月の公開講座は戸塚区の協賛があり、広報だよりに掲載された。

また、神奈川県生涯学習フェアでは薬学部加藤裕久教授による「知って得する薬の知識」という題目で横浜市民向けに対面・オンライン併用の公開講座を神奈川県立図書館にて実施した。

2023年度は戸塚区役所より一般市民向け講座、神奈川県生涯学習センターより公開講座の依頼があり、本学教員により講座を実施していく。

(7) 大学院教育の充実

2022年度は1年11名、研究生1名を迎え、2年12名と併せて24名在籍した。2022年度より高度実践看護師教育課程 がん看護学(がん看護専門看護師)を新たに設置し、研究を重ねている。2023年より感染看護学を展開し、地域医療に貢献できる人材の育成に努める。2023年は4名の1年生を迎え、新年度を開始した。

(8) 認定看護師養成課程(認知症看護分野)

第5期生12名を受け入れ、前年に引き続き、manabaシステムを活用した授業を実施したが、新型コロナウイルス流行が減少傾向に入り、ふれあいグループ施設での実習を展開した。修了生12名を輩出した。

(9) 認定看護管理者教育課程(ファーストレベル)

29名受入、全員が修了式迄到達し、修了した。

(10) 実習指導者講習会

2022年7月～11月にかけて8期生25名が講座に参加した。2022年度はeラーニングを活用し、60時間実施し、また、zoomを用いた遠隔授業を24時間実施した。これにより業務への負担軽減がなされ、受講生の評価は高かった。25名全員が修了となった。

(11) 特定行為研修制度

2022 年に開講した講座で 2 名の受講生で研修開始となった。2022 年度実施した OSCE から得た評価を用いて個別指導を中心に実地試験、講義を行った。2023 年も継続して実施する予定である。

2) 茅ヶ崎看護専門学校

2022 年度最重要課題としては①看護師国家試験合格率 100%②休退学者ゼロ③学生募集における定員 80 名確保を掲げていた。学内の学生状況を安定させ、「資格が取れる学校」を PR し、地域医療に貢献できる人材の育成を行う学校として認知を広めるよう努力した。

1) 国家試験結果

昨年度は全国平均を上回る国家試験合格率、全員国家試験合格を目指して、知識の定着と技術の習得、朝学習の徹底(毎朝 5 分間テスト)、長期休暇時の補講などを行い、看護師としての態度を修得することを目指して授業を行った。

今年度も引き続き、国家試験全員合格を目指し取り組んできたのだが、結果としては、2022 年度看護師国家試験合格率 92.4% 必修問題学内平均 45.5 点、一般・状況学内平均 178.0 点(全国平均 90.8%(新卒 95.5%。必修 40 点/50 点満点、一般状況 152 点/249 点)と全国平均を上回る結果にはなったが 100%達成とはならなかった。

2) 休退学防止

昨年度は退学者 20 名(1 年 10 名、2 年 6 名、3 年 4 名)の学生が進退に関する決断をすることとなった。卒業学年の退学者の傾向として、実習不合格に伴う実習不安であった。また、他学年の学生については、適応障害を含む疾病や、学習不安、学力低迷が起因していた。そのため、本試験での合格が難しく、再試験による合格が多くなり、次に向かうための準備を含め学習時間、実習対応時間が削られたことが要因であった。今年度は原級留置き者を出さないことを目標に取り組んだ。結果として退学者 11 名

(1 年 7 名、2 年 4 名、3 年 0 名)、と昨年よりも少ない退学者となった。以下の点が退学の理由である。

(1)進路変更

1 年生の 7 名のうち、4 名が進路変更での退学であった。入学前とのイメージの違い、他分野への進路変更が主な理由である。

2 年生の 4 名のうち、2 名が進路変更での退学であった。職業理解を促してきたが、他分野への進路をあきらめきれない。職業に適応できないとの理由で進路変更した。

(2)基礎学力の不足

1 年生の 7 名のうち、1 名が基礎学力に不安を持ち、入学後の基礎力テストでも低い点数であった。そのため、学習についていけず、遅刻、無断欠席などが発生し、教員から指導を受けるものの意欲が低下し、最終的に長期無断欠席となり、本人とは連絡が取れず、保護者を介して退学を選択するという流れになった。

(3)適応障害を含む疾病による退学

どの学年においても(1 年生 2 名、2 年生 1 名)、適応障害などの症状により登校不可となる学生が見受けられた。

(4)家庭事情による退学

2 年生の 4 名のうち、1 名が親の介護のための退学であった。休学することをすすめ半年間休学したが、状況は変わらず退学となった。

上記の通り、従来のような看護師になるという強い職業意識を持てないまま入学してしまったことによる退学者は減少傾向にある。今後も、入試での見極め、更には学校説明会において、動機づけを維持していくような取り組みを継続していくことで、動機づけが低下していく休退学者は減らしていけると推測する。学生本人に視点を移した場合、一つの躓きがあつという間に大きくなり、更に自分だけで解決しようとする傾

向は依然として強い部分もあり、面談を行った際にはすでに結論が出ていることもあるため、事前に問題に気付く解決する関わり方も再度徹底していく。

3) 志願者・入学者の確保

2022年度の募集活動の課題としては、出願者を確保し、選考する人材を数多くそろえ、国家試験合格できる基礎的能力を持つ人材を80名確保する、を目指した。

社会人による資料請求が昨年は減少していたことが一因であることから、今年度は社会人の出願を増加するため、社会人入試を2回実施した。社会人出願者は社会情勢に左右され、景気の動向により出願者数が変動する。そのため、景気回復が見込まれ、社会人出願者が減少することが推測されていた。社会人出願者は減少したが、ふれあいグループ勤務者と関係者を対象にした「ふれあい特別推薦入試」を実施。12月に告知・募集を始めたが3名受験、3名入学された。今後も医療関係者として資格取得希望者など潜在的にいる対象者に募集活動を行っていく。

また、高校生は看護系希望者が大学への進学希望が増えており、少子化が進み高校の統廃合も行われるなかで、今までの重点高校だけではなく指定校の高校を増やすことや、通信制・定時制の高校などにも、高校訪問先の拡大を行う必要がある。

AO入試はエントリーが昨年の33名から31名、指定校推薦が14名から10名と減少傾向となった。最終的に98名(昨年102名)の出願があったが、合格辞退者が昨年より22名(昨年7名)と多く、入学生の定員確保ができなかった。

(1) 既卒者の状況

2021年度は社会人入試を撤廃していたが、急遽行った特別社会人入試にて13名受験、11名入学となったため、今年度も社会人出願者を見込み2回実施した。総出願数98名中36名が既卒者であり、昨年総出願102名中既卒者35名からは1名増加している。また、受験者における割合としては昨年度34.3%から36.7%と微増している。

(2) 入試受験者減少

指定校推薦入試出願者数が昨年14名から今年は10名の出願と減少ではあり、推薦入試、一般入試ともに例年と比較して受験者は減少傾向にある。進路決定の早期化は変わらない傾向であるものの、特に指定校推薦の出願数が減少していることは、出願者の確保という目標達成においては大きな問題である。追加のAO入試を行ったところ、出願5名、入学者5名確保できた。今後も専願の学生を早期に受験できるような入試区分を検討する必要がある。高校生確保のために、今年度も高校訪問による教員との連携強化の効果を増やすべく、次年度も広報による高校訪問を強化していく必要がある。

(3) 入学試験科目の検討

①近隣競合校の入学試験科目と比較すると、AO入試において筆記試験と2日間の試験を実施しているのは、近隣においては本校のみといった状況である。

②近年の受験希望者の傾向として、入学試験の難易度によって進学先を決定する状況が見受けられる。特に出願要件の内容や筆記試験が敬遠されていることは、高校・予備校訪問による聞き取りによっても確認されている。

以上の状況から、本校においても入学試験科目の検討が必要であり、次年度の入学試験においても受験者の確保に向けて、入学試験・出願要件内容の刷新を図っていく。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

2022年度も新型コロナウイルスが様々な学校運営に影響を与えた。学内授業は前・後期を通して原則、通常通りの対面授業を実施することができたが、一方、クラスターが発生した病院・施設もあり、当該施設における実習を学内実習に置き換えるケースも存在した。また、球技大会、学園祭の中止に加え、サークル活動の制限など学生の課外活動はほとんど実施できない状況に変わりはなかった。そのような状況の中、本

校の「目指す教育」に示されている理念、基本方針に沿った教育の実践に向けて可能な限りの対応を行った。以下に、事業計画の達成状況を報告する。

① 休・退学防止

退学者は理学療法学科および作業療法学科はともに1年生、2年生が目立って多く、言語聴覚学科は例年通り1年生だけであった。3学科合計で在校生の10.3%と2016年度以来最多を記録した。一方、休学者は全体の1.8%（ここ数年の平均は2～3%）と昨年に続き減少傾向を示しており、学業に行き詰まった場合は休学より退学を選択するケースが多くなっていることが読み取れる。何としても、特に理学・作業療法学科の1,2年生の退学者を減らすために、新年度では新たな対策を計画、実行する必要がある。

② 国家試験合格率

言語聴覚学科はつねに全国平均を上回っていたが、今回は創設以来初の合格率100%を達成できた。理学療法学科は全国平均に受験者1名分の合格が足らなかったものの、67名という創設以来最多の卒業生であったことを踏まえると、昨年からの復活がある程度なされたものと考えられる。作業療法学科は今回も全国平均を大きく下回った。入試での全入という不利な状況はあるものの、目標達成には強い危機感と責任感、具体的な対策と教員の意識に変革が求められる。

③ 学生募集の強化

コンタクト者数は前年とほぼ同じであったが、説明会への来校者数は昨年比で大きく下回った。来校者からの出願率は昨年を大きく上回り、過去5年でも最高値を示した（学校説明会の質は向上しているといえる）が、出願者の絶対数は過去最低。その結果、慢性的に定員割れのOT学科、隔年で定員割れのST学科に加え、PT学科も定員割れを起こす結果となった。3学科ともに定員確保に向けたさらなる工夫と努力が必要となる。

④ 就職指導（グループへの就職希望者の増大、グループとの連携強化）

3学科合わせて過去最多の84名（卒業生の約83%）がふれあいグループへ就職を希望（内定）し、結果的に73名の国試合格者を就職させることで、グループとの連携に貢献出来た。特にPT学科は卒業生（67名）とグループ就職者（内定62名）は創設以来過去最多であった。また、ST学科もグループ就職率は40%で過去最多。次年度以降も更なる取り組みで数を増やしていきたい。

4) 湘南医療大学附属下田看護専門学校

① 入学試験状況 入学者 26（定員充足率 65.0%） 出願者数 43

定員未達となった主な要因は、高校生の志望校選定の主な理由の3つのうち2つが適応していない為と考える。その理由とは、①学費および諸費用が少ない学校、②自宅から通える学校、③気に入った雰囲気のある学校の3点。但し、伊豆半島の高校生は、②が東京や神奈川に進学したいという希望となる。静岡県下の3年過程看護師養成所の16校の中で最も高い学費であり、伊豆半島地域以外からは通学不能であると同時に伊豆半島の学生は、東京、神奈川への進学を希望するという状況下での学生募集は、大変厳しかった。

静岡県の人口減・少子化、伊豆半島の過疎化はすすみ、高校の進学指導も大学中心の流れは大きくなる一方であった。特に私立高校の大学進学実績が私立高校の入学者（PR）に直結する為、かつて当校に進学者を輩出した私立高校は軒並み受験生が減少している。今後のターゲットは、定時制高校、通信高校といった形態の学校と一部の県立高校となる。

入学者数は、定員の7割に届かず、令和2年以降4年連続の未達の中、最小の入学生の数となった。

② 実習施設との連携

臨地実習指導者会議を活用し、学生のレジネスを共有化し、実習目標の確認・指導要領の確認ができた。同時に、前年度の実習評価から発生した課題への指導方法の確認をすることで、連続性と統一性をもって実

習の指導が実施できた。

また、実際の実習においては、学習目標達成に向けた資料提供を通し、学生の学習に寄与し、双方からの確認で、学習状況を把握し、不足事項の指導内容の共有化がはかれた。さらに、学生の健康状態の確認と学習への影響の有無についての情報提供により、適切な指導に結びついたと考える。学生自身にも実習の中で、個人情報の保護に意識を持たせ、情報の保全と漏えい防止の指導を実施できた。ただし、数名の学生については、及第点の当落に係る追加の指導や学内学習を、実習施設との連携の上、実施した。

今年度も、コロナ禍に伴う、患者・利用者の健康をおよび学生への感染防止も鑑みて、実習実施のため、各施設との密な連携を図り、当校の学生から罹患者を出すことなく実習を終えることができた。

③ 国家試験の合格率向上(90%以上)を目指す

目標達成は未達となった。

例年同様に教材の十分な活用と学内模試試験を活用したが、合格に至らない学生が6名いた。さらに、そのうち1名は准看護師の試験も不合格となり、無資格者を1名排出することとなった。

④ 休退学の防止

休退学を未然に防ぎ、全員卒業を目指していたが、令和4年度は、退学者4名が発生し、目標達成は未達となった。

実習、学習の躓きが主な理由となるが、踏みとどまれない原因に人間関係の構築が不得手で、クラスで孤立しがちな状況があった。クラスでの居場所がつかれず、成績も向上しない中、本人がギブアップしてしまい退学となる。

今年度は、クラスで孤立した学生の問題が退学に直結する例年にない状況となった。この状況は本年度だけの特殊な例なのか、今後の潮流を示す始りなのか、不安が残る。

学習意欲や理解力、知識吸収力は、厳しい学生が増加してきており、その対応に追われている中、クラスになじめない学生が増えるとそこまで対応できるか不安がある。

⑤ ふれあいグループへの就職の促進

今年度は、21名/23(91%)がふれあいグループへの入職となった。
ふれあいグループへの就職率は、目標達成できた。

⑥ 医療人としての道徳、マナー教育の充実

医療人としての社会常識を身に付け、モラルの高い人材となるよう指導した。
日常生活の中であいさつや整容の徹底については、今後も指導を重ねていく。
(各行事等外来者対応時、実習施設)

⑦ 研究活動の実施

全体研修会において、課題への取り組み状況や解決方法を発表するべく、学内で研究と分析を行った。その中で、より良い教育の一助となるような提案を行えた。

5) 医療ビジネス観光福祉専門学校

① ふれあいグループに有益な人材の供給

すべての学科からグループへ人材を供給することができた。留学生クラスを除く50名のうち9名がグループに入職しており、就職希望者に対して18.0%となった。

2022年度 ふれあいグループへの就職

介護福祉学科	5名中	1名
医療ビジネス学科 医療事務コース	9名中	7名
観光学科 ホテル・ブライダルコース	15名中	1名

介護福祉学科では介護福祉士として1名、医療ビジネス学科では7名（医事課5名、診療支援課1名、介

看護職1名)、観光学科から1名(介護職)合計9名の学生がふれあいグループ入職を果たした。

次年度も引き続き、各学科とも以下の通りグループへの人材供給を目指す。

介護福祉学科では技術力と実践力を現場実習で磨き、患者・利用者に信頼される介護福祉士の養成を目指す。

医療ビジネス学科では必備資格と検定の保有数を増やし、即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。観

光学科では福祉科目の充実を図り、グループの関連企業に応えられる人材の育成を目指す。

② 休学者・退学者の撲滅

休退学者を出さないために入学前から卒業まで「進学相談」「生活指導」「学習指導」「キャリア指導」を継続的かつタイムリーに実施したが、完全な撲滅には至らなかった。

2022年度 休退学者

2年生 年度当初 52名 退学除籍 2名(うち留学生1名) 退学除籍率 4.0%

1年生 年度当初 79名 退学除籍 8名(うち留学生2名) 退学除籍率 10.1%

全体の退学除籍率: 7.6%(2021年度: 25.8%)

全退学除籍者(1, 2年合計) 10名のうち留学生の退学除籍者が2名、1.5%であった。

(2021年度 36名、77%) 留学生自体入学者が少なかったこともあるが昨年と比べても退学除籍者を大幅に減少できた。次年度も引き続き日本人及び留学生に対して徹底した対策を実施する。

③ 魅力ある学校づくり～国家試験、民間資格取得に向けた取り組み

2020年度から引き続き、合格率向上を目標として、ゼミ授業や検定対策及び日々の補習授業や資格直前対策期間を設け、集中的に授業を実施した。その結果、各学科・専攻の一人あたりの平均資格取得数と介護福祉試験結果は以下の通りとなった。

学科別平均資格取得数

医療ビジネス学科 医療事務コース 2年 8.2個(前年 11.8個) / 1年 6.8個(前年 4.9個)

メディカルITコース 2年 5.6個(前年 5.2個) / 1年 3.4個(前年 4.8個)

観光学科 ホテル・ブライダルコース 2年 12.4個(前年 10.2個) / 1年 7.1個(前年 7.4個)

国際観光コース 2年 日本語能力試験N3 取得者 29.0%(前年 45.0%)

日本語能力試験 N2 取得者 29.0%(前年 45.0%)

介護福祉学科 介護福祉士試験(国) 5名中 5名合格(合格率 100%)

医療ビジネス学科では、昨年度診療報酬請求事務能力認定試験の合格者はでなかったが、今年度1名の合格者を出すことができた。観光学科ホテルブライダルコースでは一人当たりの取得資格数が 12.4個(昨年 10.2個)と増した。介護福祉学科では、国家試験の結果は5名全員が合格となり正式に介護福祉士となった。

④ 実習施設との連携

広報活動における施設見学は、進路を決める高校生にとってのイメージアップと将来像につながる好企画であるため、継続して実施する予定であったが、新型コロナの影響で施設見学を実施することはできなかった。ただし、介護福祉学科の施設実習、医療ビジネス学科の病院実習では、多くの施設と連携を取ることができ、それがグループ施設への入職にも結び付いたと思料される。

介護福祉学科 連携施設 15施設

特別養護老人ホーム ふれあいの森、ふれあいの麗寿、ふれあいの泉(3施設)

介護老人保健施設 ヒルズ東戸塚、ふれあいの桜、ふれあいの町田、ふれあいの百合

湘南シルバーガーデン(5施設)

訪問介護 ふれあい横浜 HP、元町ケアセンター(2施設)

通所リハビリ ふれあいの桜、ふれあいの渚(2施設)

通所介護 ふれあいの泉、ふれあいの森、元町ケアセンター(3施設)

医療ビジネス学科 連携施設 12 施設

湘南東部総合病院、茅ヶ崎中央病院、ふれあい東戸塚ホスピタル、ふれあい横浜ホスピタル、ふれあい鶴見ホスピタル、ふれあい平塚ホスピタル、ふれあい鎌倉ホスピタル、さがみ野中央病院、ふれあい町田ホスピタル、湘南さくら病院、康心会汐見台病院、大和成和病院

⑤ カリキュラム再編と指導力向上

全員就職を目標に、エンプロイアビリティを学生に身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業～就職活動～卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。

- ・自立した社会人に必要とされる専門スキルと社会人基礎力向上を図り、グループ理念の実践者になるための教育指導を展開した。
- ・学生各人の能力に応じた指導目標を設定し、個別にキャリアカウンセリングを行った上で、就職に活かせる専門技術を身につけさせた。
- ・医療従事者をはじめとする各学科における専門性を身につけるためのカリキュラムと指導を展開し、資格取得対策に力を注いだ。
- ・グループ施設と連携を取り、カリキュラム再編の参考とした。また、指導内容に反映させた。
- ・技術及び能力の顕在化を図った（資格取得、就職先内定など）。

上記5項目を学生が実感できる力を養うべく、各種行事や授業などを実践的に取組んだ。その結果として、依然続くコロナ禍にもかかわらず、全学科（日本人）の就職率は就職希望者 31 名に対し、内定者 29 名で 93.5%（2021 年度 87.0%、2020 年度 97.8%、2019 年度 95.1%、2018 年度 96.1%）となった。

6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

教育の概要

○健康

（健康で安全な生活を作り出す視点から捉え、いろいろな状況に思い巡らせ心や体を働かせる）の目標は達成した。いろいろな遊びを行い、十分に体を動かす。身の回りを清潔にして衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要なことを年齢や成長に合わせて自分で行う。

食育を考え、食育活動を行い、保育者やともだちと一緒に食べることを楽しむ。健康である為には栄養・睡眠・運動のバランスが取れた生活を続けることが大切である。体育講師による運動全般の指導を受ける。年齢に合わせた活動を次に繋げることも今後の課題である。

○人間関係

（自立心を育て、人と関わる視点から捉え、他の人々と親しみ思いを巡らせ支えあって生活する）年齢に合わせた取り組みを行った。自分で出来ることは自分です。自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見だし、工夫や協力をするなど経験、体験を通して養っていった。

○環境

（周囲の環境に好奇心や探究心を持って関わり、生活に取り入れていこうとする視点から捉え、考えたり扱ったりする）身近な物や遊具に興味を持ってかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。身近な物を大切にする。

自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。など毎日の保育活動で保育者や友だちの影響を受けて習得することができた。

○言葉

（言葉に対する感覚や言葉で表現する視点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現する）保育者やともだちの言葉、話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。生活の中で必要な言葉が分かり、使うことができる。親しみを持って日常の挨拶をする。絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。などは日々の園生活の中で培われていった。今後も年齢にあった関わりを行っていく。

○表現

(豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする視点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現する)生活の中で様々な音・色・形・手触り・動きなどを感じて楽しむ。いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。歌を歌う、簡単なリズム楽器を使うなど楽しさを味わう。描いたり作ることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする。発表会、作品展などを通して、成果を見ることが出来た。一人ひとりの個性が発揮できて成長を感じた。

(乳児)

乳児一人ひとりの発育及び発達の状態や健康状態について適切に判断し対応した。保護者と連絡帳や保育活動の状況を伝え、安心して園生活が送れるよう配慮した。基本的生活習慣の自立を目指し、毎日取り組んだ。一人ひとりの能力にあわせて目標達成に繋げた。安全で安心して様々な遊びができるよう配慮し、活動しやすい環境を整えてきた。

(幼児)

コロナ禍で合同保育や異年齢の交流など、学年を超えた保育に取り組むことが出来なかった。当番活動を通して、責任をもって行う、協力する、手伝うなど経験する。外遊びや運動を多く取り入れ、健康でのびのびとした活動を行っていく。一日の保育活動の中に絵本読み聞かせを取り入れる。誕生児を祝い、成長を共に喜ぶ。(月一回の誕生会を開催する)などは工夫して行うことができた。

(教職員)

湘南医療大学の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てた。コロナ禍により短時間での対応となった。教職員・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努めた。園内の整理・整頓・清潔・清掃を心がける。特に新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し手洗い、うがい、手指消毒を励行し、習慣づけた。2ヶ月に一回、避難訓練を行う(地震・不審者・火災など)非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合い、研修などで確認した。ふれあい全体研修会保育部会に参加、専門的知識のスキルアップ、乳幼児の健康管理の対応など再確認、知識を深めた。

VI. 大学部会、教育部会、保育部会 2022年度 研修会プログラム

【大学部会】

月	内容	発表者
4.5月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	《FD・SD研修①：大学の理念・教育目標》 新任教員及びその他の教員に対する教育方法 ①大学の理念・目的、教育と研究のありかたー教育理念と3つのポリシー、研究の実態と科研費の採択状況 ②「各学科の教育方法と学生支援」 - 各学科の学生が、授業のための事前の準備、事後の展開など主体的に学ぶために必要な教員の取り組み - 教員個人の教育活動履歴(ティーチングポートフォリオ)の作成 - オフィスパワーの活用 ③5つの活動の実践・超過勤務の削減・業務改善、危機管理・防災計画、全体研修会・朝礼・6S活動 ④教員の教育・研究紹介	寺本副学長 川本看護学科長 鶴見リハ学科長 定本薬学部副学部長 前川職員
	FD研修 休退学者を減少させるための学生指導教育 国家試験結果と今年度の対策について 国家試験結果から見えた課題 不得意科目、躓きやすい科目への対応	GW 国試委員
	SD研修 薬学部、保健医療学部入学定員を必ず充足するための学生募集 ①2021年度の募集活動分析データと2022年度の募集活動方針 ②2021年度の反省と2022年度の改善・対策 大学の事務業務と事務各部署のデータ管理	藤井職員 前川職員、尾平職員

月	内容	発表者
6 月	2022年度専門部会別研修会 ・今年度の研修会の目的 ・部門PDC（各学科の教育改善） ・個人PDC（個人の授業方法改善） ・業務改善 ・朝礼、全体朝礼の発表 ・6S活動の報告 ・自律的な学生を育てるための取り組み ・休退学者の減少につながる教育への取り組み ・今年度の「チーム医療教育」について	小林部会長 小林教授、中尾准教授、 加賀谷教授、諸橋職員 田中教授、須鎌講師、 石田准教授、尾平職員 前川職員 前川職員 渡部（李）助教、土田 助教、片川准教授 牛田教授、田島教授、 加藤准教授 渡部（李）助教、森尾 教授、石橋教授 寺本副学長
月	内容	発表者
9.10 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	部門PDC（学科専攻別事例発表） ■ 大学 看護学科、PT学専攻、OT学専攻、薬学部、事務部	川本看護学科長、坂上 PT 専攻長、鶴見OT 専攻 長、鈴木薬学部長、前川 課長
	個人PDC 資質向上 ■ 大学(事務) ■ 下田看護専門学校（教員）	西田（耕）ブロック長 下田看護教員（DVD）
	業務改善	三橋ブロック長
	6 S活動	倉持部長、前川課長
	法令遵守・服務規律	人事部
	安全管理・感染防止対策	看護部
月	内容	発表者
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	部門PDC(学科専攻別事例発表) ■ 大学 看護学科、PT学専攻、OT学専攻、薬学部、事務部	川本看護学科長、坂上 PT 専攻長、鶴見OT 専 攻長、鈴木薬学部長、 前川課長
	個人PDCの必要性 事業計画達成に向けた個人PDCについて	前川課長
	業務改善 大学の課業表 超過勤務削減への取り組み	山田副主任
	6 S活動	倉持部長
	法令遵守・服務規律	人事部
	安全管理・感染防止対策	看護部
月	内容	発表者
2 月	第 19 回ふれあいグループ医療教育研究会（新型コロナウイルス感染拡大のため集合研修中止）	
月	内容	発表者
3 月	部門PDC(学科専攻別事例発表) ■ 大学 看護学科、PT 学専攻、OT 学専攻、薬学部、事務部	川本看護学科長、坂上PT 専 攻長、鶴見OT 専攻長、鈴木 薬学部長、前川課長

	業務改善	三橋ブロック長
	法令遵守・服務規律	人事部
	6S活動の推進状況と好事例	倉持部長
	安全管理・感染防止対策	看護部

【教育部会】

月	内容	発表者
4.5 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	学校長・副学校長講話 今年度に徹底すること	学校長、副校長
	全職員参加の5つの活動について 個人PDC	事務責任者
	学校の魅力づくり研修 本年度の事業計画について	事務責任者
	SD研修 学生募集活動	広報担当者
	看護校 ◆FD研修 国家試験対策 「2022年度出題基準改正から国家試験対策へつなげる」 2022年度と2021年度の比較を領域別に実施する ◆各校・学科別プログラム 模擬授業 基礎看護学	教職員
	リハ校 ◆FD研修 「昨年度の反省及び今年度の計画」(国家試験対策) ◆模擬授業「歩行分析」(PT教員)、「評価法技術演習」(OT教員)	教職員
	下田校 ◆FD研修① 国家試験対策 昨年度の反省及び今年度の計画 ◆模擬授業 小児看護学 「虐待とヤングケアラー」	教職員
6 月	医士校 ◆FD研修 「昨年度の反省及び今年度の計画」(国家試験対策) ◆模擬授業の実施 「日本人と留学生に対しての授業と進行・内容の違い」(日本地理)	教職員
	2022年度専門部会別研修会	加藤部会長
	本研修会の目的	柳職員、菊地職員、増田
	「部門PDC」について	教員、高橋教員
	「個人PDC」について	藤田職員、柳職員、町田
	業務改善について	職員、川脇教員、山崎教員
	6S活動報告	柳職員、山田職員、府川
	朝礼実施状況報告(全体朝礼と毎日の朝礼)	職員、菊地職員
7.8 月	「コロナ感染者や濃厚接触者への授業支援」について	山田職員、矢崎職員、久保田職員、小島職員、遠藤教員
	模擬授業①&ディスカッション	岩淵教員、高橋教員、岩淵教員、柳職員、坂田教員
		岩淵教員、石井教員、岡崎教員、竹村教員、福島教員
		相川教員、板橋教員、扇谷教員
月	内容	発表者
7.8 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	部門PDC(領域別事例発表)	教職員

	個人PDC(専門部会別教育計画)	教職員
	業務改善	教職員
	6 S活動	教職員
	法令遵守・服従規律	教職員
	安全管理・感染防止対策	教職員
月	内容	発表者
9.10 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	部門 PDC の例 (解説) ・事務部門 PDC ・教育部門 PDC	藤田、菊地、岡崎
	個人 PDC 教員個人 PDC の例 (解説) ・事務職員個人 PDC ・教育職員個人 PDC	加藤、山田、柳
	業務改善	三橋ブロック長
	6 S活動	倉持部長
	法令遵守・服従規律	人事部
	安全管理・感染防止対策	看護部
月	内容	発表者
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	部門 PDC	福島、川脇、久保田、高橋
	個人 PDC	増田、櫻井
	業務改善	渡辺
	6 S活動	倉持部長
	法令遵守・服従規律	人事部
	安全管理・感染防止対策	看護部
2 月	第 19 回ふれあいグループ医療教育研究会 (新型コロナウイルス感染拡大のため集合研修中止)	
月	内容	発表者
1.3 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	部門 PDC	矢崎、柴田、福島、増田、加藤
	業務改善	三橋ブロック長
	法令遵守・服従規律	人事部
	6 S 活動の推進状況と好事例	倉持部長
	安全管理・感染防止対策	看護部

【保育部会】

月	内容	発表者
4.5 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 英志枝
	乳幼児突然死症候群への対応策	} DVD
	保育所における感染症対策改訂のポイント	
	環境整備と衛生管理	
	保育所における感染症拡大防止策	
	食物アレルギー対応	
	各クラスの園児対応について	各学年担任
	年間行事計画の検証	教職員
	保護者対応について	教職員
	保育内容の検証	教職員
	6S 活動について	教職員

月	内容	発表者
6 月	2022 年度専門部会別研修会 模倣と自立 言葉と自我 年間事業計画を踏まえて部門 PDC の理解を深める 個人 PDC を確認し、取り組みを検証する 感染症拡大防止対策についての取り組み方の検証 環境整備と衛生管理（事故防止対策） 業務改善について 毎日の朝礼の事例から取り組みを検証する チーム医療について（園医との関わり方） 6S 活動について日々の取り組みを確認する	DVD DVD 入澤部会長 教員 教員 教員 教員 教員 職員 教員
月	内容	発表者
7.8 月	ふれあいグループが目指すもの 業務改善 PDC の検証 さくらんぼ坊や・3（言葉と自我） 保育所における感染症対策改訂のポイント 環境整備と衛生管理 保育所における感染拡大防止策 関わりの難しい子への対応 園児募集について 2 学期の行事確認（コロナ禍での活動）	大屋敷 英志枝 教職員 教職員 DVD DVD クラス担任 教職員 教職員 教職員 教職員
月	内容	発表者
9.10 月	ふれあいグループが目指すもの 業務改善 6S 活動 部門 PDC について さくらんぼ坊や・4（4 歳と仲間） さくらんぼ坊や・5（5 歳と仲間） 一次救命の大切さ 乳児に対する心肺蘇生法 小児に対する心肺蘇生法（実際編・解説編） 新型コロナ感染防止対策について 園児募集について	大屋敷 英志枝 教職員 教職員 教職員 DVD DVD DVD DVD 教職員 教職員
月	内容	発表者
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの 業務改善 課業表 年間行事計画の検証 さくらんぼ坊や6 乳幼児突然死症候群への対応 食物アレルギー対応 保育活動・園児の関わり方を振り返る 研修報告「こども中心の保育とその実践」	大屋敷 英志枝 教職員 教職員 教職員 DVD DVD DVD 教職員 教職員
2 月	第 18 回ふれあいグループ医療教育研究会（新型コロナウイルス感染拡大のため集合研修中止）	

月	内容	発表者
1.3月	ふれあいグループが目指すもの 業務改善 課業表について 保育園・こども園の感染予防対策 保育所における感染対策改訂のポイント 乳幼児突然死症候群への対応策と子育て環境 生命・いのちの安全教育 主体性のある保育活動について さくらんぼ坊や6 関わりの難しい子への対応	大屋敷 英志枝 教職員 教職員 DVD DVD DVD DVD 教職員 DVD 教職員

VII 地域連携・交流活動

2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった催しがいくつか発生した。

2022（令和4）年度地域連携活動実施状況は以下のとおりである。

1. 市民公開講座

回	日にち	テーマ	講師	参加人数
1	7月9日（土）	『私、今、めまい、したわ』を勉強しよう	喜多村 健 副学長	2名
2	7月23日（土）	知っていて損のない病院と健診のつきあい方	若山 恵 教授	6名
		音楽を聴いて体感、目で実感！～感情を数字で見よう～	倉橋 悠子 助教	15名
3	8月27日（土）	脳機能とリハビリテーション	増田 雄亮 講師	3名
		「がん」について、大切な人と話してみませんか？	岡 多恵 講師	4名
		認知症の予防改善～特に芳香療法による～	塩田 清二 教授	5名
4	10月29日（土）	「行動を変えたいあなたに贈る処方箋～日常生活に活かす行動理論～」	小林 和彦 教授	6名
		放射線のこと～身近な放射線から医療・エネルギー利用まで～	加藤 英明 准教授	5名
5	11月19日（土）	タンパク質の老化と病気	高橋 央宜 教授	10名
		コロナ渦だからこそ 見直そう手指衛生	渡部 節子 教授	10名
		こころの健康と作業療法	三川 年正 准教授	15名
6	3月25日（土）	脳卒中になっても歩くためのコツ	大村 優慈 講師	0名
		関節の痛みと疾患～誰でも可能性がある変形関節症～	定本 清美 教授	3名

VIII 湘南医療大学 研究業績

(1) 著書

書名	発行所	発行月	著者
Tumor Angiogenesis in Pituitary Adenoma : in Tumor Angiogenesis and Modulators, edited by Ke Xu, pp.25-31	IntechOpen(London)	Online (発行月無し) , 2022	Yoshida D & Teramoto A
小児科診療ガイドライン-最新の診療指針-第5版	総合医学社	2023年1月25日	喜多村 健(分担執筆)
応用心理学ハンドブック	福村出版株式会社	2022年9月30日	藤田主一他編(第10章川本利恵子)
看護師が高齢がん患者の意思決定支援を実践するうえで押さえておきたいポイント	メジカルフレンド社	(執筆担当) 33-38, 68 (10) 2022年9月	渡邊眞理
看護技術, 68巻10号, 「患者と家族の意思が異なるケース, 家族のサポートが望めないケースでの意思決定支援」	看護技術, メジカルフレンド社	2022年9月	清水奈緒美
第III章 高齢者の生活と看護-加齢変化とフィジカルアセスメントの技術, 4 排泄, pp65-84, 看護学テキスト NiCE 老年看護学技術(改訂第4版) 最後までその人らしく生きることを支援する	南江堂	2023年3月	東村志保, 松本勝, 大江真琴, 真田弘美
第IV章 高齢者に特徴的な症状と看護-老年症候群, 9 尿失禁, pp251-259, 看護学テキスト NiCE 老年看護学技術(改訂第4版) 最後までその人らしく生きることを支援する	南江堂	2023年3月	東村志保, 真田弘美
第V章 高齢者に特徴的な疾患と看護-事例による展開, 5 認知機能障害の看護(アルツハイマー病), pp395-411, 看護学テキスト NiCE 老年看護学技術(改訂第4版) 最後までその人らしく生きることを支援する	南江堂	2023年3月	東村志保, 大江真琴, 真田弘美
【依頼原稿・執筆済】プラクシスコースを受けて	NPO ニューマン理論・研究・実践研究会ニュースレター, 第7号	in press	倉橋悠子
“つかいやすさ”の定量評価と製品設計への落とし込み方, 第13章 介護・医療における使いやすさ評価と製品開発への活用, 第5節 運動機能、感覚機能、脳機能に着目した福祉機器開発, pp592-603	技術情報協会	2023年3月	吉武良治, 居原範道, 定本清美, 中田雄一郎, 森尾裕志, ほか71名
理学療法検査・測定ガイド	文光堂	2023年2月	編集 内山靖 他共著者
脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ 第2版, 【症例提示】Kernohan 切痕による病巣側の麻痺	メジカルビュー	2022年9月29日	大村優慈(著) 脳機能とリハビリテーション研究会(編)
毒と薬	新星出版社	2022.4	鈴木 勉

書名	発行所	発行月	著者
Q&A でわかるがん疼痛緩和ケア第2版	じほう	2023 年 2 月	的場元弘 加賀谷肇 編著
臨床薬理学 第2版	じほう	2022 年 9 月	加藤裕久ら
G-CSF 適正使用ガイドライン 2022 年 10 月改訂 第2版	金原出版社	2022 年 10 月	加藤裕久ら
「使いやすさの定量評価と製品設計への落としこみ方」 第1 章第1 節医薬品の使用性を評価する対象や項目 p551—564	技術情報協会	2023 年 3 月 31 日	定本清美
アロマセラピー標準テキスト	丸善出版	2022 年 8 月	塩田 清二（監修） 他 11 名
非腫瘍性疾患病理アトラス 肺	文光堂	2022 年 4 月	若山 恵（共著）
医薬品登録販売者試験対策テキスト 2023	株式会社 じほう	4 月	寺島朝子、他（編集協力）
医薬品登録販売者過去問題集 2023	株式会社 じほう	4 月	寺島朝子、他（編集協力）
薬物依存・薬害・副作用学(3 版)	南山堂	2023 年 4 月	川西，正祐，小野， 秀樹，賀川，義之， 曾川甲子郎 他
新体系看護学全書母性看護学① 母性看護学概論／ウィメンズヘル スと看護	メヂカルフレンド社	2022 年 11 月	編集：渡邊浩子、板 倉敦夫、松崎政代 分担執筆：山崎圭子 他
標準保健師講座① 公衆衛生看護 学概論 （6 章 C・D）	医学書院	2023 年 2 月	標美奈子ほか（分 担）
“使いやすさ”の定量評価と製品設計への落とし込み方	技術情報協会，東京	2023 年 3 月	定本清美，浦 裕之
ダヴィンチ導入完全マニュアル	メジカルビュー社	2023.3	中山祐次郎編、湘南 東部総合病院
技術認定医試験突破のためのラパS	メジカルビュー社	2023.3	中山祐次郎

(2)学術論文(原著)

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Pathology of Crooke Cells in the Human Pituitaries : A Timely Review	Immunohistochem Mol Morphol (on line)	on line, 2022	Osamura RY, Inomoto C, Tahara S, Oyama K, Matsuno A, Teramoto A
オマリズマブを使用した重症スギ花粉症 20 例の臨床的検討	日耳鼻会報	2022 年 5 月	吉川沙耶花、峯川 明、家坂辰弥、浜島智秀、石田克紀、喜多村 健
システムティックレビューに基づいた新人看護職のメンタルヘルスに係るメンタルヘルス支援プログラムの開発	インターナショナル Nursing Care Research 21 (1)	令和 4 (2022) 年	片山 典子 川本 利恵子 渡部 李菜 陶山 克洋 大胡 晴香

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
システマティックレビューに基づいた新人看護職のメンタルヘルス支援プログラムの開発	インターナショナル Nursing Care Research 第 21 巻 1 号 (P31-40)	令和 4 年 4 月	片山典子、川本利恵子 渡部李菜、陶山克洋 大胡晴香
高齢者虐待の共依存ケースへの援助の実際 —高齢者虐待に対応する援助職へのインタビュー調査から—	日本アディクション看護学会誌 第 19 巻 2 号 (P22-39)	令和 4 年 10 月	松下年子 片山典子 片山直子
思春期における社会的ひきこもり傾向とインターネット依存の関連	日本アディクション看護学会誌 第 19 巻 2 号 (P10-21)	令和 4 年 10 月	玉田聡史 片山典子
WOC 領域における看護専門外来の現状と将来展望	日本創傷・オストミー失禁管理学会誌	2022 年 11 月	土田敏江・田中秀子・飯坂真司
我が国の感染症看護専門看護師および感染管理認定看護師の地域における感染対策活動とそのネットワークに関する文献検討	日本健康医学会誌	31(2)、123-129, 2022 年 7 月	野口京子, 鈴木佳奈, 渡部節子
訪問看護を利用する要介護高齢在宅療養者の認知機能、家族の負担感に配慮した口腔ケアの方法の検討—デルファイ法を用いた調査—	日本看護科学会誌	42、186-195 2022 年 10 月	野口京子, 落合亮太, 渡部節子
Analysis of COVID-19 mortality in patients with comorbidities in Cote d'Ivoire	Journal of Public Health in Africa	13(3), 2022 年 10 月	碓井瑠衣, 金森将吾, 青盛真紀, 渡部節子
システマティックレビューに基づいた新人看護職のメンタルヘルス支援プログラムの開発 (査読付き)	インターナショナル Nursing Care Research, 21(1), pp31-40	2022 年 4 月 1 日	片山典子, 川本利恵子, 渡部李菜, 陶山克洋, 大胡晴香
Examination of the Usefulness of a Mental Health Support Program for New Nurses Impacted by COVID-19	Journal of International Nursing Research	in press	Katayama Noriko, Kawamoto Rieko, Suyama Katsuhiro, Watanabe Rina, Ogo Haruka
都市在住の後期高齢者における介護予防と社会参加に対する興味・関心(原著論文)	保健の科学	64 巻 9 号 Page641-64	塚原ゆかり、菊池有紀、岡多恵
みなし指定訪問看護事業所を利用する在宅看護学実習における学び(原著論文)	日本看護学教育学会誌	32 巻 1 号 Page103-111	菊池有紀、塚原ゆかり
訪問看護を利用する要介護高齢在宅療養者の認知機能や家族の負担感に配慮した口腔ケア方法の検討—デルファイ法を用いた調査—	日本看護科学会誌 42 186-195	10 月	野口 京子, 落合 亮太, 大橋 伸英, 渡部 節子
訪問看護を利用する高齢在宅療養者と家族が抱える口腔ケアの困難感に関する質問紙調査	日本健康医学会雑誌 31(1) 13-22	8 月	野口 京子, 落合 亮太, 渡部 節子
コロナ禍における学校救急看護に対する養護教諭の困難観に関する研究(中間報告)—養護教諭の職務上の「困難観」の定義の検討—	日本学校救急看護学会, 学校救急看護研究 16(1), 47-51,	2023, 3	稲垣尚美, 工藤宣子, 進藤浩子, 鈴木秀樹
治療中止と同時に療養の場を選択する進行がん患者とその家族へのがん看護専門看護師による相談支援の実際	日本がん看護学会誌	査読依頼中	三堀いずみ 林ゑり子 菅野 雄介 玉井 奈緒 渡邊 眞理 赤瀬 智子

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
知識構成型ジグソー法による学習と動機付けの変化－理学療法士国家試験の学習における成績層ごとの特徴－	理学療法科学	37 (5) : 489－494, 2022	中村壽志、大森圭貢、下田栄次、坂上昇
知識構成型ジグソー法による学習と動機付けの変化－理学療法士国家試験の学習における成績層ごとの特徴	理学療法科学	2022 年 10 月	中村壽志、大森圭貢、下田栄次、坂上昇
Relationship between cognitive decline and daily life gait among elderly people living in the community: A preliminary report	Dementia and Geriatric Cognitive Disorders EXTRA	2023 年 3 月	Tetsuya Yamagami, Shigeya Tanaka, Saori Anzai, Takuya Ueda, Yoshitsugu Omori, Chika Tanaka, Yoshitaka Shiba
荷重による足部の回内が方向転換時の側方への動的安定性に及ぼす影響	バイオメカニズム学会誌	2023 年 3 月	渡邊 美幸、石井 慎一郎、櫻井 好美、山本 澄子
A macroscopic anatomical study of the appropriate palpation zone of the gluteus medius muscle	The Journal of Physical Therapy Science	2022 年 8 月	Masayuki Tsuchida, Masakazu Shibata, Akira Iimura, Takeshi Oguchi, SungHyek Kim, Yoko Nakao, Hisashi Nakamura
Construction of a support system for people requiring special care at evacuation shelters using Geographical Information System (GIS)	Japanese Journal of Disaster Medicine	28 (1), p12-18, 2023	Eiji Shimoda
COVID-19 第6波に対する神奈川県湘南西部圏域における保健所支援活動報告	理学療法 - 技術と研究-	51, p71-77, 2023.	下田栄次
知識構成型ジグソー法による学習と動機付けの変化－理学療法士国家試験の学習における成績層ごとの特徴－	理学療法科学	37(5): 489-494, 2022.	中村壽志、大森圭貢、下田栄次、坂上昇
避難所および福祉避難所における整備状況と災害時要配慮者の受け入れに関する調査	総合危機管理	6, p53-63, 2022.	下田栄次、五十嵐 仁、戸田和之
知識構成型ジグソー法による学習と動機付けの変化：理学療法士国家試験の学習における成績層ごとの特徴	理学療法科学 37 (5)	2022 年 10 月	中村壽志、大森圭貢、下田栄次、坂上昇
A macroscopic anatomical study of the appropriate palpation zone of the gluteus medius muscle	Journal of Physical Therapy Science	8 月	Masayuki Tsuchida, Masakazu Shibata, Akira Iimura, Takeshi Oguchi, SungHyek Kim, Yoko Nakao, Hisashi Nakamura
Dystonia and Pre/Post-Performance Body Maintenance Among High-Speed Stringed Instrument Players – A Pilot Study	International Journal of Science and Research Archive7(2), pp.87-91	2022 年 11 月	Hirofumi Tanabe, Hiroshi tanabe, Toshimasa Mikawa.
New “iPARKO” finger extensor facilitation training device for chronic hemiplegic hand after stroke: Development and verification of its effectiveness in healthy individuals	ROBOMECH Journal, pp.624-630	2022 年 11 月	Ai Nakamura, Yoshifumi Morita, Hirofumi tanabe,

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Efficacy of lower limb CI therapy for hemiplegia in stroke patients during maintenance period	Integrative Journal of Medical Sciences : 1-6	2022 年 12 月	Hirofumi Tanabe, Hiroshi tanabe, Toshimasa Mikaw,
Relationship between Metacarpophalangeal Joint Angle and Muscle Activity of Healthy Persons while Using the Finger Extensor Facilitation Training Device “iPARKO”	ICORR pp. 1-6	2022 年 7 月	Ai Nakamura, Shota Ishigaki, Yoshifumi Morita, and Hirofumi Tanabe
Validation Study of Muscle Activity Induced by Finger Extensor Facilitation Training Device “iPARKO” for Hemiplegic Stroke Survivors	Japan-Poland International Workshop on Technologies supporting rehabilitation and medical services	2022 年 11 月	Ai Nakamura, Reika Yokoyama, Ryuji Iio, Igor Zubrycki, Hirofumi Tanabe, Yoshifumi Morita
Validation of Finger Extensor Facilitation Training Device “iPARKO” for hemiplegic person	International Conference on Control, Automation and Systems	2022 年 11 月	Ai Nakamura, Reika Yokoyama, Yoshifumi Morita, Hirofumi Tanabe, Igor Zubrycki, Ryuji Iio
障害を持った人の役割獲得に向けた支援方法についての一考察 一障害経験を活かした役割を持つ人へのインタビューを通じて一	リハビリテーション科学	2022 年 6 月	神田太一、田島明子
パーキンソン病在宅療養者の災害準備の現状と課題：個別インタビュー調査結果からの考察	難病と在宅ケア	2023 年 2 月	田島明子、國塚裕太、今福恵子
Preliminary Survey of Factors Associated with Promoting Evidence-Based Practice Among Occupational Therapists Working in Convalescent Rehabilitation Wards	Asian Journal of Occupational Therapy 19(1): 1-7	2023 年 1 月	Yusuke Masuda Jun Yaeda Tamami Aida
作業療法士のための新しい Evidence-Based Practice 自己評価尺度 (EBPSA) の開発	作業療法 42(1) : 68-79	2023 年 2 月	増田雄亮 八重田淳 會田玉美
Efficacy of lower limb constraint-induced therapy for hemiplegia in stroke patients during the maintenance period	Integrative Journal of Medical Sciences Vol9.Dec.2022	令和 4 年 11 月 27 日 (2022)	Hirofumi Tanabe, Hiroshi Tanabe, Toshimasa Mikawa, Yuichi Takata
作業療法学生に保持されている認知症患者に対する潜在的認知	作業療法 41(5) 542-550	2022 年 10 月	黒川喬介,板倉麻紀,久保田智洋,神山真美, ○岡本絵里加,西田典史,堀本ゆかり
A questionnaire-based study on the “Dame. Zettai. (Never. Ever) drug abuse prevention campaign and the medical use of narcotic agents.	Jpn. J. Pharm. Palliat. Care Sci.	15: 121-128	T. Suzuki, S. Hasegawa, Y. Koretaka, H. Mishima, H. Tanaka and H. Kagaya
Development of novel small molecules with PD-1/PD-L1 binding inhibition and potent antitumor effects in humanized mouse	Anticancer Resarch	42, 5233-5247 (2022)	Akiyama Y, Ashizawa T, Iizuka A, Ando T, Ishikawa Y, Kondou R, Miyata H, Maeda C, Kanematsu A, Sugino T, Yamaguchi K.
Structural basis for peptide recognition by archaeal oligopeptide permease A	PROTEINS	90, 1434-1442 (2022)	Yokoyama H, Kamei N, Konishi K, Hara K, Ishikawa Y, Matsui I, Forterre P, Hashimoto H

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Computational quantitation of the aldehyde forms of aldohexoses and disaccharides composed of d-glucose: predictions of their reactivities in the Maillard reaction	Comput. Theor. Chem.	1209, 113605 (2022)	Kato K, Shinohara Y, Nakayoshi T, Kurimoto E, Oda A, Ishikawa Y.
Benzophenone glucosides and B-type proanthocyanidins dimer from Zambian <i>Cassia abbreviata</i> and their trypanocidal activities	J. Nat. Prod.	85, 91–104 (2022)	Munsimbwe L, Suganuma K, Ishikawa Y, Choongo K, Kikuchi T, Shirakura I, Murata T.
吃逆に対する柿蒂湯の効果-柿蒂エキスの抗けいれん作用の検討-	応用薬理 Oyo Yakuri Pharmacometrics 102 (3/4) 69–73	2022 年 5 月	野澤 (石井) 玲子 馬場正樹 岡田嘉仁 加賀谷肇
A Questionnaire-Based Study on the “Dame.Zettai. (Never.Ever.)” Drug Abuse Prevention Campaign and てえ Medical Use of Narcotic Agents	Jpn. J. Pharm. Palliat. Care Sci. 15 : 121–128	2022 年 8 月	Tsutomu SUZUKI Shinji HASEGAWA Yuichi KORETAKA Hirokazu MISHIMA Hiroyuki TANAKA Hajime KAGAYA
High concentration of oxaliplatin may be a risk factor for vascular pain.	J Clin Pharm Ther	2022 Apr;47(4):462–468	Matsunuma S, Handa S, Yamamoto H, Okuyama K, Yoshimoto K, Kato Y
Protective effect of teriparatide against vancomycin-induced cytotoxicity in osteoblasts.	J Orthopae Sci	In Press	Tsuji K, Kimura S, Tateda K, Takahashi H
Jagged-1 reduces Th2 inflammation and memory cell expansion in allergic airway disease.	ImmunoHorizons	7: 168–176, 2023	Kimura S, Dupee Z, Lima F, Allen R, Kazmi S, Diodati N, Lukacs N, Kunkel S, Schaller M
Apoptosis inhibitor of macrophages contributes to the chronicity of <i>Mycobacterium avium</i> infection by promoting foamy macrophage formation.	J Immunol	210: 1–10, 2023	Kajiwarra C, Shiozawa A, Urabe N, Yamaguchi T, Kimura S, Akasaka Y, Ishii Y, Tateda K
PreQ1 Facilitates DNA Strand Invasion by PNA	Peptide Science 2021	2022, 111–112	Moriya S, Yoneta Y, Kuwata K, Imamura Y, Demizu Y, Kurihara M, Kittaka A, Sugiyama T
Bis(nitrato-κ O)(1,4,8,11-tetra-aza-cyclo-tetra-decane-κ 4 N)zinc(II) methanol monosolvate.	PMC	2022 Aug 31	Ichimaru Y, Kato K, Kurihara M, Jin W, Koike T, Kurosaki H.
Evaluation of newly designed blister packs for easier handling to prevent pill dropping	Patient Preference and Adherence	2022.12	Kiyomi Sadamoto
Usability study of alminum pouch of PTP(Press Through Package) among patients and pharmacists	IAPRI 23th world packaging conference proceedin	2022.6	Kiyomi Sadamoto
Feasibility of Child-Resistant and Senior-Friendly Press Through Packages: Potential of Different Material	Pharmaceutics	2023, 3, 7	Kiyomi Sadamoto

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Molecular and Physiological Functions of PACAP in Sweat Secretion.	International Journal of Molecular Sciences	24:4572, 2023	Yamashita M, Shibato J, Rakwal R, Nonaka N, Hirabayashi T, Harvey BJ, Shioda S.
Ontogenetic development of the water channel protein AQP5 in mouse salivary gland tissue.	Cell and Tissue Research	in press., 2023, doi:10.1007/s00441-023-03762-w.	Matsuyama K, Fujikawa K, Matsuki-Fukushima M, Shibato J, Kimura A, Yamashita M, Takenoya F, Rakwal R, Shioda S, Nonaka N.
OMICS Analyses Unraveling Related Gene and Protein-Driven Molecular Mechanisms Underlying PACAP 38-Induced Neurite Outgrowth in PC12 Cells.	International Journal of Molecular Sciences	24:4169, 2023	Shibato J, Takenoya F, Yamashita M, Gupta R, Min CW, Kim ST, Kimura A, Takasaki I, Hori M, Shioda S, Rakwal R.
Examining the Effect of Notocactus ottonis Cold Vacuum Isolated Plant Cell Extract on Hair Growth in C57BL/6 Mice Using a Combination of Physiological and OMICS Analyses.	Molecules	28:1565, 2023	Shibato J, Takenoya F, Kimura A, Min CW, Yamashita M, Gupta R, Kim ST, Rakwal R, Shioda S.
Clinical trial to evaluate if balenine, a major component of whale meat extract, improves cognitive function in subjects with symptoms of increasing forgetfulness.	Biomedical Journal of Scientific & Technical Research	49:007766, 2023	Hirabayashi T, Shiobato J, Kimura A, Yamashita M, Takenoya F, Shioda S.
ペパーミントおよびジンジャー精油暴露におけるラット視床下部摂食調節ニューロンの組織学的観察	日本アロマセラピー学会誌	21 : 40-48, 2022	竹ノ谷 文子、山下 道生、柴藤 淳子、木村 愛、千葉義彦、平林 敬浩、塩田 清二
危険ドラッグの依存性	精神科	41: 239-247, 2022.	船田正彦
海外の大麻規制変遷から考える国内の大麻規制再構築の意義	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス	54: 36-42, 2023.	船田正彦
Hyperoxidized Peroxiredoxin 2 Is a Possible Biomarker for the Diagnosis of Obstructive Sleep Apnea	Antioxidants	12 月	Koike S, Sudo H, Turudome S, Ueyama M, Tanaka Y, Kimura H, Ishida YI, Ogasawara Y.
慢性腎臓病患者向け病院食における造血に必要な栄養成分値の調査～一般常食とたんぱく制限食の比較～	医薬品相互作用研究 Vol46, No2 (2022) P11～18	8 月	寺島朝子、五十嵐哲太、宮本大介、榎本博美、白田有希、林朝子、室谷典義、佐藤信範
Chronic pain recruits hypothalamic dynorphin/kappa opioid receptor signalling to promote wakefulness and vigilance	Brain	146(3):1186-1199, 2023.	Ito H, Navratilova E, Vagnerova B, Watanabe M, Kopruszinski C, Moreira de Souza LH, Yue X, Ikegami D, Moutal A, Patwardhan A, Khanna R, Yamazaki M, Guerrero M, Rosen H, Roberts E, Neugebauer V, Dodick DW, Porreca F.

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Watanabe M, Kopruszinski CM, Moutal A, Ikegami D, Khanna R, Chen Y, Ross S, Mackenzie K, Stratton J, Dodick DW, Navratilova E, Porreca F.	Brain	145(8);2894–2909, 2022.	Watanabe M, Kopruszinski CM, Moutal A, Ikegami D, Khanna R, Chen Y, Ross S, Mackenzie K, Stratton J, Dodick DW, Navratilova E, Porreca F.
Bis(nitrato- κ O)(1,4,8,11-tetraaza-cyclotetradecane- κ 4N)zinc(II) methanol monosolvate	IUCrData	7(8);2022	Y. Ichimaru, K. Kato, M. Kurihara, W. Jin, T. Koike, H. Kurosaki
Characterization of Zinc(II) Complex of 1,4,7,10-Tetrazacyclododecane and Deprotonated 5-Fluorouracil (FU) in Crystalline/Solution States and Evaluation of Anticancer Activity: Approach for Improving the Anticancer Activity of FU	Inorganic Chemistry Communications	147,110221;2022	Y. Ichimaru, K. Kato, R. Nakatani, K. Sugiyama, H. Mizutani, E. Kinoshita-Kikuta, T. Koike, W. Jin, M. Imai, H. Kurosaki
Difference in the Inhibitory Effect of Thiol Compounds and Demetallation Rates from the Zn(II) Active Site of Metallo- β -lactamases (IMP-1 and IMP-6) Associated with a Single Amino Acid Substitution	ACS Infectious Diseases	9(1);65;2022	Y. Yamaguchi, K. Kato, Y. Ichimaru, Y. Uenosono, S. Tawara, R. Ito, N. Matsuse, J. Wachino, S. Toma-Fukai, W. Jin, Y. Arakawa, M. Otsuka, M. Fujita, N. Fukuishi, K. Sugiyama, M. Imai, H. Kurosaki
Mirogabalin improves cancer-associated pain but increases the risk of malignancy in mice with pancreatic cancer	Pain	2022	T. Itaya, M. Sano, I. Kajiwara, Y. Oshima, T. Kuramochi, J. Kim, Y. Ichimaru, O. Kitajima, A. Masamune, H. Ijichi, Y. Ishii, T. Suzuki
Synthesis of 1-O-acyl- and 1-oxo-kamebanin analogues and their cytotoxic activity	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	129149;2023	Y. Aoyagi, K. Tomita, A. Kobayashi, A. Nakamura, Y. Fujii, M. Yagi, Y. Ichimaru, K. Ozawa, H. Park, H. Fukaya, R. Yano, T. Hasuda, K. Takeya, Y. Hitotsuyanagi, M. Gui, Y. Jin, X. Li
Bis(nitrato- κ O)(1,4,8,11-tetraazacyclotetradecane- κ 4N)zinc(II) methanol monosolvate	IUCrData	7, x220854, 2022	Yoshimi Ichimaru, Koichi Kato, Masaaki Kurihara, Wanchun Jin, Toru Koike, Hiromasa Kurosaki
Potential Anti-allergic Effects of Bibenzyl Derivatives from Liverworts, <i>Radula perrottetii</i> .	Planta Medica	88, 1069–1077, 2022	Haruka Asai, Koichi Kato, Moe Suzuki, Mirei Takahashi, Erika Miyata, Moeka Aoi, Reika Kumazawa, Fuminori Nagashima, Hiromasa Kurosaki, Yutaka Aoyagi, Nobuyuki Fukuishi.
Structural investigation of pathogenic variants in dihydropyrimidinase using molecular dynamics simulations.	Journal of Molecular Graphics and Modelling	117, 108288, 2022	Koichi Kato, Tomoki Nakayoshi, Ayuka Nagura, Eiji Hishinuma, Masahira Hiratsuka, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Difference in the Inhibitory Effect of Thiol Compounds and Demetallation Rates from the Zn(II) Active Site of Metallo- β -lactamases (IMP-1 and IMP-6) Associated with a Single Amino Acid Substitution.	ACS Infectious Diseases	9, 65–78, 2022	Yoshihiro Yamaguchi, Koichi Kato, Yoshimi Ichimaru, Yuya Uenosono, Sakiko Tawara, Rio Ito, Natsuki Matsuse, Jun-ichi Wachino, Sachiko Toma-Fukai, Wanchun Jin, Yoshichika Arakawa, Masami Otsuka, Mikako Fujita, Nobuyuki Fukuishi, Kirara Sugiura, Masanori Imai, Hiromasa Kurosaki
Characterization of Zinc(II) Complex of 1,4,7,10-Tetrazacyclododecane and Deprotonated 5-Fluorouracil (FU) in Crystalline/Solution States and Evaluation of Anticancer Activity: Approach for Improving the Anticancer Activity of FU.	Inorganic Chemistry Communications	147, 110221, 2023	Yoshimi Ichimaru, Koichi Kato, Rina Nakatani, Kirara Sugiura, Hideki Mizutani, Emiko Kinoshita-Kikuta, Tohru Koike, Wanchun Jin, Masanori Imai, Hiromasa Kurosaki.
Effect of the Addition of the Fifth Amino Acid to [GADV]-Protein on the Three-Dimensional Structure.	Life	13, 246, 2023	Koichi Kato, Tomoki Nakayoshi, Ryota Oyaizu, Natsuko Noda, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda.
Involvement of a Cluster of Basic Amino Acids in Phosphorylation-Dependent Functional Repression of the Ceramide Transport Protein CERT	Int J Mol Sci.	2022.8	Asako Goto, Daichi Egawa, Nario Tomishige, Toshiyuki Yamaji, Kentaro Shimasaki, Keigo Kumagai, Kentaro Hanada
Covalent Modifier Discovery Using Hydrogen/Deuterium Exchange-Mass Spectrometry	J Med Chem.	2023.3	Hiroyuki Kojima, Ryota Yanagi, Eri Higuchi, Mami Yoshizawa, Tomoyuki Shimodaira, Misaki Kumagai, Tatsuhiro Kyoya, Miyu Sekine, Daichi Egawa, Nami Ohashi, Hiroaki Ishida, Keiko Yamamoto, and Toshimasa Itoh
Hyperoxidized Peroxiredoxin 2 Is a Possible Biomarker for the Diagnosis of Obstructive Sleep Apnea	Antioxidants (Basel)	11:2486, 2022	Shin Koike, Haruka Sudo, Satori Turudome, Masako Ueyama, Yoshiaki Tanaka, Hiroshi Kimura, Yo-Ichi Ishida, Yuki Ogasawara
The effects of continuous exposure to low-dose chlorine dioxide gas on the characteristics of induced pluripotent stem cells	Regenerative Therapy	2022 年 12 月	Ryoma Okawa, Koushirou Sogawa, Kenji Yachiku, Motoko Shiozaki, Takanori Miura, Hiroshi Takayanagi, Takashi Shibata, Sachiko Ezoe
横抱き授乳における姿勢アライメント、肩凝りの自覚および筋硬度の経時的変化と姿勢の良否における比較検討	母性衛生	63(1), 112–120, 2022	大崎愛、松岡あやか、金子政時、山崎圭子

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Nerve decompression surgery suppresses TNF- α expression and T cell infiltration in a rat sciatic nerve chronic constriction injury model	J Orthop Res	2022 Nov	Mukai M, Uchida K, Inoue G, Satoh M, Miyagi M, Yokozeaki Y, Hiroseawa N, Matsuura Y, Ohtori S, Takaso M
Effect of Bone Morphogenetic Protein-2 (BMP-2)/Hydroxyapatite/In Situ-Formed Hyaluronan Hydrogel Composites on Bone Formation in a Murine Model of Posterolateral Lumbar Fusion	Cureus	2022 May	Kuroda A, Saito W, Inoue G, Miyagi M, Shoji S, Sekiguchi H, Takaso M, Uchida K.
Effect of spheroid size on gene expression profiles of a mouse mesenchymal stem cell line in spheroid culture	Biomed Mater Eng	2023	Kuroda A, Mineo A, Shoji S, Inoue G, Saito W, Sekiguchi H, Takaso M, Uchida K.
Frozen vein wrapping for chronic nerve constriction injury reduces sciatic nerve allodynia in a rat model	BMC Neurosci	2022 Jun	Mukai M, Uchida K, Hiroseawa N, Murakami K, Inoue G, Miyagi M, Shiga Y, Sekiguchi H, Inage K, Orita S, Suzuki T, Matsuura Y, Takaso M, Ohtori S.
Increased NMUR1 Expression in Mast Cells in the Synovial Membrane of Obese Osteoarthritis Patients	Int J Mol Sci	2022 Sep	Tsukada A, Takata K, Takano S, Ohashi Y, Mukai M, Aikawa J, Iwase D, Inoue G, Takaso M, Uchida K.
Effect of low body mass index on clinical recovery after fusion surgery for osteoporotic vertebral fracture: A retrospective, multicenter study of 237 cases	Medicine (Baltimore)	2022 Dec	Inoue G, Miyagi M, Saito W, Shirasawa E, Uchida K, Hosogane N, Watanabe K, Katsumi K, Kaito T, Yamashita T, Fujiwara H, Nagamoto Y, Nojiri K, Suzuki S, Okada E, Ueda S, Hikata T, Shiono Y, Watanabe K, Terai H, Tamai K, Matsuoka Y, Suzuki H, Nishimura H, Tagami A, Yamada S, Adachi S, Ohtori S, Furuya T, Orita S, Inage K, Yoshii T, Ushio S, Funao H, Isogai N, Harimaya K, Okada S, Kawaguchi K, Yokoyama N, Oishi H, Doi T, Kiyasu K, Imagama S, Ando K, Kobayashi K, Sakai D, Tanaka M, Kimura A, Inoue H, Nakano A, Ikegami S, Shimizu M, Futatsugi T, Kakutani K, Yurube T, Nakanishi K, Oshima M, Uei H, Aoki Y, Takahata M, Iwata A, Endo H, Seki S, Murakami H, Kato S, Yoshioka K, Hongo M, Abe T, Tsukanishi T, Takaso M, Ishii K.

論文タイトル	誌名	掲載月	著者
Jietacin Derivative Inhibits TNF- α -Mediated Inflammatory Cytokines Production via Suppression of the NF- κ B Pathway in Synovial Cells	Pharmaceuticals (Basel)	2022 Dec	Muneshige K, Inahashi Y, Itakura M, Iwatsuki M, Hirose T, Inoue G, Takaso M, Sunazuka T, Ohashi Y, Ohta E, Uchida K.
Effect of Bone Morphogenetic Protein-2 (BMP-2)/Hydroxyapatite/In Situ-Formed Hyaluronan Hydrogel Composites on Bone Formation in a Murine Model of Posterolateral Lumbar Fusion	Cureus	2022 May	Kuroda A, Saito W, Inoue G, Miyagi M, Shoji S, Sekiguchi H, Takaso M, Uchida K.
Effect of spheroid size on gene expression profiles of a mouse mesenchymal stem cell line in spheroid culture	Biomed Mater Eng	2023	Kuroda A, Mineo A, Shoji S, Inoue G, Saito W, Sekiguchi H, Takaso M, Uchida K.
Frozen vein wrapping for chronic nerve constriction injury reduces sciatic nerve allodynia in a rat model	BMC Neurosci	2022 Jun	Mukai M, Uchida K, Hirokawa N, Murakami K, Inoue G, Miyagi M, Shiga Y, Sekiguchi H, Inage K, Orita S, Suzuki T, Matsuura Y, Takaso M, Ohtori S.
Feasibility of Child-Resistant and Senior-Friendly Press-Through Packages: Potential of Different Materials.	Pharmaceutics 15(3), 890(pp.1-12)	2023 年 3 月	Sadamoto, K., Ura, H., Murata, M., Hayashi, M., Kubota, K.

(3) その他の学術論文

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
トラウマインフォームドケアの必要性	月刊 精神科看護 2023 年 2 月号 Vol.50	令和 5 年 1 月	片山典子
救急・集中治療領域における COVID-19 患者の終末期及び死亡宣告時の家族面会の実態と看護師・感染管理者の意識調査	日本クリティカルケア看護学会誌	2022 年 18 巻 p. 81-91	立野 淳子, 山本 小奈実, 山勢 博彰, 藤本 理恵, 大野 美香, 岡林 志穂, 小島 朗, 芝田 里花, 中谷 美紀子, 福島 綾子, ...
日中の感染看護交流促進への期待	日中医学	37(1) 、 2 , 39 2022 年 5 月	渡部節子
看護学科における看護師国家試験対策講座の取り組み ー2019～2021 年度の講座系の活動と学生アンケート結果からー	淑徳大学高等教育研究開発センター年報 第 9 号 2022	第 9 号 2022 年 10 月	篠原良子、伊藤ふみ子、佐藤睦子、牧 野美幸、佐佐木智絵
わが国の感染症看護専門看護師および感染管理認定看護師の地域における感染対策活動とそのネットワークに関する文献検討	日本健康医学会雑誌 31(2) 123-129	10 月	野口京子, 鈴木佳奈, 渡部節子
臨床に役立つアプリケーション活用術：動画活用と編集	理学療法ジャーナル第 57 巻: 346-347	2023 年 2 月	森尾裕志, 関根悟
COVID-19 クラスター発生によるリハビリテーション医療やセラピストの業務変遷と患者における	総合リハビリテーション 50, 1433-1437	2022 年 12 月 10 日	二瓶太志, 岸下垂希子, 大村優慈, 酒向正春.

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
ADL の変化			
評価と脳画像から見た歩行能力の 予後予測	日本義肢装具学会誌 38, 194-198	2022 年 7 月 1 日	大村優慈
書評 三井さよ著『ケアと支援と 「社会」の発見：個のむこうにあ るもの』	障害学研究	2023 年 2 月	田島明子
植物由来芳香成分が脳神経系に与 える作用の評価法	日本アロマセラピー学会誌	21:5-14, 2022	平林 敬浩、山下 道生、 木村 愛、柴藤 淳子、山 田 啓司、竹ノ谷 文子、 塩田 清二
ペプチドによるドライアイ症候群 の予防・治療法の開発	アグリバイオ	6:724-728, 2022	塩田 清二、平林 敬浩、 柴藤 淳子、竹ノ谷 文 子
PACAP によるドライアイ症候群 の予防・改善効果について	アレルギーの臨床	42:748-788, 2022	塩田 清二、平林 敬浩、 柴藤 淳子、竹ノ谷 文 子
神経ペプチド PACAP による涙液 分泌とドライアイの予防・改善に ついて	アレルギーの臨床	42:966-970, 2022	塩田 清二、平林 敬浩、 柴藤 淳子、竹ノ谷 文 子
鯨由来油脂の健康機能に果たす役 割	フードケミカル	38:80-84, 2022	塩田 清二、平林 敬浩、 平子 哲史、竹ノ谷 文 子
頭頸部領域の感染症の病理 ―真 菌感染を中心に―	耳鼻咽喉科	1(5): 579-584, 2022	若山 恵、栃木直文
糸状菌感染症の病理学的側面	真菌誌	64: 17-23, 2023	若山 恵、定本聡太
(コラム)留学体験記 世界の薬学現 場から、海外留学大問題体験記	ファルマシア	Vol.58, No.10, 2022.	池上大悟
抗菌薬の処方動向から推定する神 奈川の水環境汚染に関する調査	神奈川県公衆衛生学会誌	2022 年 10 月	曾川甲子郎、加藤英明
母子保健コーディネーターが捉え る母親達の悩みの実態	南九州看護研究誌	21(1):9-16, 2023	山下華歩、山崎圭子、松 岡あやか、金子政時
電子添文の活用と課題-ユーザー サイドより-	日本包装学会誌 31(2), 79-84	2022 年 4 月	浦 裕之

(4) 報告書

論文タイトル	掲載誌	掲載月	氏名
新型コロナウイルスの影響に係る看護 職員卒後フォローアップ研修事業	神奈川県委託研究事業	令和 5 年 3 月	川本利恵子 片山典子 陶山克洋 大胡晴香 渡部李菜
介護支援専門員の多職種連携における 「協働的能力」に関する研究	科学研究費助成事業 研究成果報告書 (Web 掲載)	令和 5 年 1 月 公開	小林紀明
中小規模病院のキャリア中期看護師の 実践知獲得に向けたキャリアプロモー ション支援システム開発	ダイオーズ記念財団	2023 年 1 月	本田芳香

論文タイトル	掲載誌	掲載月	氏名
患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究ー多職種による高齢がん患者の教育プログラムの評価ー	厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）「患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究」班報告書	2023 年 3 月	渡 邊 眞 理 （分担研究者）
湘南医療大学 FD 研修会報告書	湘南医療大学 FD 研修会報告書	2023 年 3 月	本田芳香 松月みどり 伊藤ふみ子 松島泰恵 稲垣尚美
福祉・医療の現場から コロナ禍を生きる都市部在住高齢者の社会的サポート・ネットワークと主体的活動の変化	地域ケアリング	1345-0123)24 巻 8 号 Page44-45	菊池有紀、塚 原ゆかり
2022 年度 FD 研修会報告書	湘南医療大学保健医療学部看護学科 FD 委員会	2023, 2	本田芳香, 松 月みどり, 伊 藤ふみ子, 松 島泰恵, 稲垣 尚美
【取材記事】「うたと音楽」の効果 数字で明らかに 湘南医療大学で市民公開講座	音健協通信,32 号,4 面 https://sums.ac.jp/pdf/topics/topics20221128_03.pdf	2022	倉橋悠子, 大 胡晴香, 斉藤 琴子, 養田恵 美子, 岡崎寛 治, 山岸利英
新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒後フォローアップ研修事業	神奈川県委託研究事業	2023 年 3 月	川本利恵子, 片山典子, 陶 山克洋, 大胡 晴香, 渡部李 菜
（公社）神奈川県理学療法士会 第 10 回災害対策研修会が開催されました。	（公社）神奈川県理学療法士会ニュース	2022 年 4 月	下田栄次
災害対策委員会活動報告 COVID-19 次期感染拡大期に向かった保健医療体制に対する会議に参加しました。	（公社）神奈川県理学療法士会ニュース	2022 年 7 月	下田栄次
感染症に対応した避難所の運営について	（公社）神奈川県理学療法士会ニュース	2023 年 1 月	下田栄次
2021 年度 実施状況報告書	科研費ウェブサイト	2022 年 8 月	田島明子
作業療法学生を対象とした認知症教育プログラムオンライン版の実践ーCOVID-19 下におけるオンライン教育の取り組みー	東京家政大学生生活科学研究所研究報告 第 45 集	2022 年 7 月	○ 岡本 絵 里 加, 井上 薫, 佐々木千寿, 石橋裕, 塩路 理恵子
危険ドラッグと関連代謝物のインシリコによる活性予測法の開発	令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金「指定薬物の指定に係わる試験法の評価検証に資する研究」 分担研究報告書	令和 5 年 4 月	栗原正明
危険ドラッグと関連代謝物のインシリコによる活性予測法の開発	令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金「危険ドラッグと関連代謝物の有害作用評価と乱用実態把握に関する研究」分担研究報告書	令和 5 年 3 月	栗原正明
19k12904 基盤研究 C 医薬品の適正使用に貢献するユニバーサルデザイン医薬品包装の開発	科研費報告	2022.1	定本清美
アロマセラピー標準テキストを発刊してー監修者としてー	日本アロマセラピー学会誌	42:57, 2022	塩田 清二

論文タイトル	掲載誌	掲載月	氏名
神奈川県における BMI および生活習慣に関する調査-特定健康診査に基づく解析-	神奈川県公衆衛生学会誌	68:38-40,2022.	加藤英明、曾川甲子郎
抗菌薬の処方動向から推定する神奈川の水環境汚染に関する調査	神奈川県公衆衛生学会誌	68:22-23,2022.	曾川甲子郎、加藤英明
コレステロール胆石症発症性差の解明	科研費 基盤 (C) 中間報告書	2022 年 5 月	山崎 泰広
「産後の疲労感」のセルフモニタリングによるセルフコントロールと抑うつ状態の評価	科学研究費助成事業データベース	2023 年 6 月	山崎圭子

(5) 学会発表

演題	学会名	発表月	氏名
China-Japan Friendship Neurosurgical Symposium in My Life	The 2nd HandiXiadu(Harbin) Acadmic Forum on Brain Tumors	11 月 12 日	寺本 明
内視鏡下経鼻手術が有用であった第3脳室の首座する頭蓋咽頭腫の1例	第95回日本内分泌学会	6月2日	中里一郎、寺本 明、他9名
難治性機能性下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻頭蓋底手術の有用性	第95回日本内分泌学会	6月2日	大山健一、寺本 明、他4名
Combined transorbital and endonasal approach が有用であった再発頭蓋底髄膜腫の一例	第27回日本脳腫瘍の外科学会	10月14日	中里一郎、寺本 明、他5名
経鼻内視鏡手術合併症と対策	第27回日本脳腫瘍の外科学会	10月14日	田原重志、寺本 明、他7名
松果体部 germinoma の一例	第26回日本臨床内分泌病理学会	10月28日	中里一郎、寺本 明、他7名
Long-term Outcomes of Bone-Anchored Hearing Aids: A 20-Year Experience in Tokyo Medical and Dental University.	7th East Asian Symposium on Otology	2022年3月24~26日	Kawashima Y, Kitamura K, Noguchi Y, Tsutsumi T
当科における慢性穿孔性中耳炎に対する最近の術式選択について	第199回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会学術講演会	2022年6月25日	峯川 明、家坂 辰弥、吉川 沙耶花、喜多村 健、石田 克
国際学術誌に受諾される論文を書くために(続) Otology & Neurotology の Assistant Editor として	第39回御茶ノ水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会	2022年7月2日	喜多村 健
「私、今、めまい、したわ」。一タイトルを逆からも読んでみてねー	湘南医療大学公開講座	2022年7月9日	喜多村 健
好酸球性副鼻腔炎に合併した難治性好酸球性中耳炎にデュピルマブが著効した2症例	第200回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会学術講演会	2022年9月10日	峯川 明、家坂 辰弥、喜多村 健、石田 克紀
当科における真珠腫性中耳炎手術症例の検討	第32回日本耳科学会総会学術講演会	2022年10月19~21日	家坂 辰弥、石田 克紀、吉川 沙耶花、峯川 明、喜多村 健
当科における慢性穿孔性中耳炎に対する最近の術式選択について	第32回日本耳科学会総会学術講演会	2022年10月19~21日	峯川 明、家坂 辰弥、石田 克紀、吉川 沙耶花、喜多村 健

演題	学会名	発表月	氏名
Endoscopic Ear Surgery: Good Indications and Problems	4th World Congress on Endoscopic Ear Surgery -Innovations in Ear Surgery and Hearing Therapeutics	2022 年 12 月 5～8 日	Ishida K, Iesaka T, Yamazaki A, Minekawa A, Kitamura K
中耳結核の3例	第40回御茶ノ水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会	2022 年 12 月 10 日	家坂辰弥、石田克紀、峯川明、喜多村健
【研究補助金等外部資金の受け入れ状況】			
高度実践看護師育成の現状と今後の課題	第9回日本CNS看護学会シンポジウム	令和4年7月	川本利恵子
今回のカリキュラム改定に際して「ICT活用の基礎的能力」が必要としてねらったものは？	第23回日本医療情報学会看護学術大会ワークショップ	令和4年7月	川本利恵子
激動の時代における看護系大学教員の次世代育成	2022 年度看護学教育シンポジウム (千葉大学)	令和4年11月	川本利恵子
CN・CNS・特定行為研修における臨床薬理学教育の課題と展望	第96回日本薬理学会、第43回日本臨床薬理学会シンポジウム	令和4年12月	川本利恵子
高齢者の自己効力感とフレイルの変化との関連 -有料老人ホームとサービス付き高齢者住宅の入居者を対象に-	第27回日本老年看護学会学術集会(web)	2022 年 6 月	山田艶子、牛田貴子、
超高齢期にある認知症患者の葛藤の要因の一考察	第23回認知症ケア学会大会(web)	2022 年 6 月	草間貴恵、牛田貴子、小原良之
今、必要とされる教材としての事例の作成と活用のしかけ 交流集会	日本看護学教育学会第32回学術集会(web)	2022 年 8 月	牛田貴子、梅原里実、飯室淳子、中澤美弥
Prevalence of Internet Addiction among Senior High School and University Students under the Emergency Declaration Due to the COVID-19 Pandemic (COVID-19 感染拡大に伴う緊急事態宣言下における高校生・大学生のインターネット依存の実態)	25th EAFONS EAST Asian Forum of Nursing Conference	令和4年4月	玉田聡史 片山典子
新型コロナウイルスの影響に係る新人看護職のメンタルヘルス事業 —神奈川県における新人看護職を対象としたメンタルヘルス支援の実践報告—	第32回日本精神保健看護学会 学術集会	令和4年6月	片山典子 川本利恵子 陶山克洋 大胡晴香 渡部李菜
思春期のひきこもり当事者の精神的健康度とインターネット使用・ひきこもる前後の心理社会的要因の関連	第42回日本看護科学学会 学術集会	令和4年12月	玉田聡史 片山典子
在宅看護方法論における異学年合同講義による学生の学びに対する感じ方 (第1報)	一般社団法人 日本看護学教育学会 第32回学術集会	令和4年8月	菊池有紀、塚原ゆかり、小林紀明
在宅看護方法論における異学年合同のグループワークに対する学生の思い (第2報)	一般社団法人 日本看護学教育学会 第32回学術集会	令和4年8月	塚原ゆかり、菊池有紀、小林紀明
医療系大学における新型コロナウイルス感染対策に関する学生の意識等調査 (続報)	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会	令和4年12月	望月総一郎、小林紀明、山崎真帆、陶山克洋、倉橋悠子

演題	学会名	発表月	氏名
在宅での下肢創傷医療の実態調査	日本褥瘡学会日本在宅推進協会学術集会	2022 年 7 月 17 日	真井睦子
訪問栄養食事指導の効果 科学的に検証・外来指導との比較 ～リピメイン 400 の活用法～	日本褥瘡学会日本在宅推進協会学術集会	2022 年 7 月 3 日	藤井美樹
How Do Questions Facilitate Empathic Communication? A Case Study of Japanese Nursing Students' Confirmatory Responses to Simulated Patients' Talks	World Academy of Nursing Science The 7th International Nursing Research Conference of WANS	2022 年 10 月 18 日	本田芳香、後藤リサ
救急看護の実践・教育のファーストペンギン	第 24 回日本救急看護学会	1 1 月	松月みどり
(示説発表) 看護職のための神奈川緩和ケア研究会 高齢がん患者の意思決定支援研修の評価一紙上事例とトリガービデオを用いた研修比較一	第 37 回日本がん看護学会学術集会	2023 年 2 月 25 日	渡邊眞理、山内桂子、鈴木由美子、清水奈緒美、井上智香、日塔裕子、得みさえ、古矢尚子、小笠原利枝、嶋中ますみ、横川史穂子、柏木夕香、谷島和美、小野礼子
(シンポジウム 1) 未来を拓くがん看護の本質～これまでの歩み、そして未来へ～	第 37 回日本がん看護学会学術集会	2023 年 2 月 25 日	渡邊眞理 (座長)
(シンポジウム) がんと口腔ケア	一般社団法人日本がん看護学会 地方分科会	2022 年 9 月 3 日	渡邊眞理 (座長)
神奈川県看護協会 看護・介護実践報告会	一般社団法人神奈川県看護協会	2022 年 11 月 19 日	渡邊眞理 (講評)
成人の在宅療養者における中心静脈カテーテル関連血流感染症の実態と関連要因に関する文献検討	第 37 回日本環境感染学会学術集会	2022 年 6 月	中村裕太, 青盛真紀, 渡部節子
訪問看護を利用する高齢在宅療養者の口腔内環境の実態及びその関連要因 (学会長賞受賞講演)	第 37 回日本環境感染学会学術集会	2022/6/1	野口京子, 落合亮太, 渡部節子
訪問看護を利用する高齢在宅療養者と家族が抱える口腔ケアの困難感に関する質問紙調査	第 37 回日本環境感染学会学術集会	2022/6/1	野口京子, 落合亮太, 渡部節子
腹膜透析関連感染症予防のために看護師が患者・家族へ指導すべき項目ーデルファイ法による検討ー	第 37 回日本環境感染学会学術集会	2022/6/1	中尾穂高, 落合亮太, 青盛真紀, 戸谷義幸, 渡部節子
国内の外国生まれ結核患者における治療脱落・中断の要因に関する文献レビュー	第 22 回日本感染看護学会学術集会	2022 年 8 月	渡邊有咲, 青盛真紀, 渡部節子
診断後 3 ヶ月以内の 2 型糖尿病患者の食事療法および運動療法に関する生活行動と診断 12 ヶ月後の BMI との関連	第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	2022 年 9 月	徳永友里, 青盛真紀, 渡部節子
避難所における感染対策の実践に関する文献レビュー	第 24 回日本災害看護学会学術集会	2022 年 9 月	鷲尾 茜, 青 盛 真 紀, 渡部節子
Oral care practices for older adult patients requiring nursing care who use visiting nursing services: A Delphi study.	The 25rd East Asian Forum of Nursing Scholars : EAFONS, (Japan, chiba)	2023 年 3 月	Noguchi K , Ochiai R , Ohashi N , Watabe S

演題	学会名	発表月	氏名
看護職のための神奈川緩和ケア研究会 高齢がん患者の意思決定選移管する研 修の評価ートリガービデオを用いてー	第37回日本がん看護学会	2023年2月25日, 26日	渡邊眞理, 山内桂子, 鈴 木由美子, 清水奈緒美, 井上智香, 日塔裕子, 得みさえ, 古 矢尚子, 小笠原利枝, 嶋中ますみ, 横川史穂子, 柏木夕香, 谷島和美, 小 野礼子
教育講演「新整備指針とがん相談支援 センターに今求められていること」	第11回日本がん相談研究会	2023年3月11日	清水奈緒美 (座長)
訪問系サービス利用者におけるコミュ ニケーションロボットの長期間活用ー バイタルサイン測定機器連動システム の開発ー	第42回日本看護科学学会学術集会	2022年12月	高橋聡明, 東村志保, 北 村言, 松本勝, 仲上豪二 朗, 真田弘美
医療系大学における新型コロナウイルス 感染対策に関する学生の意識等調査 (続報)	第11回日本公衆衛生看護学会学術集 会	2022年12月	望月総一郎, 山崎真帆, 陶山克洋, 倉橋悠子, 小 林紀明
在宅看護方法論における異学年合同講 義による学生の学びに対しての感じ方 (第1報)	日本看護学教育学会第32回学術集会	2022年8月	菊池有紀, 塚原ゆかり, 小林紀明
在宅看護方法論における異学年合同の グループワークに対する学生の思い (第2報)	日本看護学教育学会第32回学術集会	2022年8月	塚原ゆかり, 菊池有紀, 小林紀明
訪問看護ステーションを利用する高齢 在宅療養者と家族が抱える口腔ケアの 困難感に関する質問紙調査	第38回 日本環境感染学会学術集会	6月	野口京子, 落合亮太, 渡 部節子
訪問看護を利用する高齢在宅療養者の 口腔内環境の実態およびその関連要因	第38回 日本環境感染学会学術集会 【学会賞：招待発表】	6月	野口京子, 落合亮太, 渡 部節子
Oral care practices for older adult patients requiring nursing care who use visiting nursing services: A Delphi study.	The 26th EAFONS	2023年3月	Noguchi K, Ochiai R, Ohashi N, Watabe S
【採択済・発表予定】Caring partnership with nurse and HEC praxis	Dr. Margaret A. Newman Center for Nursing Theory Inaugural Dedication and Dialogue Event, University of Tennessee Health Sciences, College of Nursing Memphis, Tennessee,	May 30-31, 2023	Yuko Kurahashi
【招待講演】クリーンルームで治療す る白血病患者のストレスは音楽で軽減 するか？オープンイノベーションから 始まった産学連携のプロセス	LIP横浜オープンイノベーションカン ファレンスⅧ ～クロスイノベー ション（異分野融合）による 新たな 事業機会の創出を目指して～	1月, 2023	倉橋悠子, 大胡晴香, 斉 藤琴子
日本がん看護学会 地方分科会研修会 「がんと口腔ケア」	日本がん看護学会 地方分科会	2022年9月	渡邊眞理 清水奈緒美 岡多恵 三堀いずみ
高齢者の自己効力感とフレイルの変化 との関連	日本老年看護学会	2022.6月	○山田艶子
有料老人ホームとサービス付き高齢者 住宅の入居者を対象に			牛田貴子

演題	学会名	発表月	氏名
休退学者の減少につながる教育への取り組み～初年次におけるメンタルヘルス支援の重要性～	2022 年度ふれあいグループ 専門部 会研修会（湘南医療大学）（抄録）	2022 年 6 月	渡部李菜
臨地実習における看護学生のストレス 対処能力（SOC）に関する文献レビュー	2022 年度 ふれあいグループ医療・ 教育研究会 （抄録）	2023 年 2 月	渡部李菜
行動リハビリテーションを使いこなす 身体運動の法則性と行動分析学 日常生活への左手箸操作の介入	一般社団法人日本行動分析学会第 40 回年次大会	2022 年 9 月	大森圭貢
パーキンソン病者の通いの場における 情報交換の満足度と時間および人数設 定との関係―活動後アンケートを通して―	第 56 回日本作業療法学会学会	2022 年 9 月	吉田円香、石山 大介、秦 若菜、大森 圭貢、柴 喜 崇
YouTube からみる歩行時転倒の初期 接地部位別の特徴	第 41 回関東甲信越ブロック理学療法 士学会、東京	2022 年 9 月	川岸亮、森尾裕志、櫻井 好美、星知輝、栗澤高輝
モーションキャプチャーを用いた近位 箸のずれの評価	第 56 回日本作業療法学会	9 月	丁子雄希、斉藤琴子
モーションキャプチャーを用いた角箸 による近位箸のずれの評価	6 回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会	11 月	斉藤琴子、丁子雄希
7 週間に亘る前足部接地走行を用いた 衝撃吸収作用の変化	6 回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会	11 月	大浦康祐、黒澤千尋、斉 藤琴子、
Comparison of body movements between low-birth-weight infants and normal infants	6 t h Korea China Japan Nursing Conference	11 月	Keiko shimada, Kotoko saitou, kaoru yachi, Kaoru tsurumi, Tetsu nemoto
圧電センサと画像解析を併用した新生 児の自発運動の計量化と動きの関連	第 42 回日本看護科学学会学術大会	12 月	斉藤琴子、島田啓子
地域一般病院での産後ボディケア教室 開設への取り組みと課題	第 8 回日本ウィメンズヘルス・メン ズヘルス理学療法研究会学術大会	2023 年 11 月	白井有紀 櫻井好美
一般演題「口演 3 神経系 2」	第 39 回神奈川県理学療法士学会	2023 年 2 月 5 日	大村優慈（座長）
通所リハビリテーション利用者におけ る屋外歩行自立を判定するための 30 秒椅子立ち上がりテストの基準値	第 9 回日本地域理学療法学会学術大 会	2022 年 12 月 3 日・ 4 日	樋口明伸、大村優慈
介護老人保健施設入所者の連続起立回 数と、歩行耐久性、バランス、日常生 活活動との関係	第 9 回日本地域理学療法学会学術大 会	2022 年 12 月 3 日・ 4 日	脇島克介、大村優慈、小 笠原尚和
一般演題 7	第 11 回日本支援工理学療法学会学 術大会	2022 年 12 月 3 日・ 4 日	大村優慈（座長）
教育講演 高次脳機能障害、高次脳機 能障害に関連する脳領域の画像形態	第 20 回日本神経理学療法学会学術大 会	2022 年 10 月 15 日 -16 日	大村優慈
被殻出血と視床出血における血腫の拡 大方向と皮質脊髄路損傷の関係	第 20 回日本神経理学療法学会学術大 会	2022 年 10 月 15 日 -16 日	大村優慈、樋口明伸、酒 向正春
介護老人保健施設における貯筋プログ ラムの取り組み：筋肉量および筋力向 上に向けたプログラムの効果検証	第 33 回全国介護老人保健施設大会	2022 年 9 月 22 日・ 23 日	小笠原尚和、大村優慈、 原田敬悟、原田美友紀
歩行練習による疲労が半側空間無視を 呈した脳出血症例の無視範囲に与える 影響―バーチャルリアリティ装置を用 いた頸部固定条件と非固定条件での検 討―	第 1 回先端技術を活かした効果的な 理学療法を考えるフォーラム	2022 年 9 月 18 日	大村優慈、岡 徳之、安 田和弘、平山美里、新山 真由、酒向正春

演題	学会名	発表月	氏名
運動負荷により視空間無視範囲が拡大した半側空間無視を呈した症例—没入型バーチャルリアリティ装置を用いた検討—	第56回日本作業療法学会	2022年9月16日・18日	岡 徳之, 安田和弘, 大村優慈, 平山美里, 新山真由, 酒向正春
理学療法に役立つ脳画像の見方	第4回大阪府理学療法士会生涯学習センター生涯学習研修集会	2022年7月2日	大村優慈
新型コロナウイルス感染症流行期での介護老人保健施設入所後2週間隔離期間における時間の見当識への介入	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022年6月23日・25日	大村優慈, 酒向正春, 松本 怜, 小笠原尚和
COVID-19 クラスターの発生が回復期リハビリテーション病棟入院患者の摂食嚥下機能に与える影響	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022年6月23日・25日	グラハム亮子, 大村優慈, 二瓶太志, 酒向正春
介護老人保健施設における車椅子使用者のトイレ動作自立に要するバランス機能と認知機能	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022年6月23日・25日	菅原沙紀, 大村優慈, 小笠原尚和
介護老人保健施設入所者に対する筋肉量および筋力向上に向けた貯筋プログラムの取り組み	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022年6月23日・25日	小笠原尚和, 大村優慈, 酒向正春, 原田敬悟, 原田美友紀
回復期リハビリテーション病棟退院時の30秒椅子立ち上がりテストと歩行自立の関係	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022年6月23日・25日	樋口明伸, 大村優慈, 酒向正春
回復期リハビリテーション病棟入院患者におけるCOVID-19クラスター発生後のADLの変化とその関連因子	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022年6月23日・25日	二瓶太志, 大村優慈, 酒向正春
回復期リハビリテーション病棟でのCOVID-19クラスター発生によるセラピストの職場満足度の推移	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022年6月23日・25日	岸下亜希子, 間藤大輔, 大村優慈, 二瓶太志, 酒向正春
一般演題10(口述)	第9回日本地域理学療法学会学術大会	2022年12月	下田栄次(座長)
能動的な歩行速度調整に関わる運動学的要因	第27回日本基礎理学療法学会学術大会	10月	小久江 智耶, 竹中 悠真, 松江 優河, 黒澤 千尋, 土田 将之, 菅原 憲一
司法作業療法の経緯と今後	日本司法作業療法学会(記念研修会)	2022.1	鶴見隆彦
手指関節用ピストンデバイス PDFinの健常者における安全性と有用性の検証	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会	2022年6月	水野蒼麻, 森本舜, 森田良文, 田邊浩文
足関節の他動的底背屈運動デバイスによる関節可動域の改善	第61回日本生体医工学会大会	2022年6月	水野蒼麻, 森本舜, 森田良文, 田邊浩文
手指伸筋促通トレーニングデバイス iPARKO による指先への負荷と筋活動の関係	第21回日本生活支援工学会大会論文集, pp.222-223	2022年8月	中村愛, 石垣彰太, 森田良文, 田邊浩文
手指伸筋促通トレーニングデバイス iPARKO の固定装具の改良と健常者による有効性検証	電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会	2022年8月	横山玲香, 中村愛, 森田良文, 田邊浩文
手指伸筋促通トレーニングデバイス iPARKO の脳卒中片麻痺者によるトレーニング中の姿勢と筋活動量に関する考察	第65回自動制御連合講演会	2022年11月	中村愛, 横山玲香, 森田良文, 飯尾龍土, 田邊浩文, Igor Zubrycki
新型コロナウイルス感染症禍における評価実習の学内代替実習の取り組み	第56回日本作業療法学会	2022年9月	鈴木雄介

演題	学会名	発表月	氏名
高次脳機能障害者自立生活アシスタント事業への相談からみえた課題	第46回日本高次脳機能障害学術総会	2022年12月	青木明子, 野々垣睦美, 鈴木雄介
認知症の人の視点に立った社会参加に関する文献研究	第23回日本認知症ケア学会	2022年6月	池田保, 田島明子
男性独居高齢者の被援助志向性が日常的な作業の意味・機能・形態に与える影響についての質的研究	第55回日本作業療法学会	2022年9月	白木望, 田島明子
興味の再生成に関わる要因の質的研究—障害のある当事者の視点からの「障害受容」理論の構築に向けて—	第55回日本作業療法学会	2022年9月	田島明子, 山田孝
がん患者手記における「歩く」ことの意味についての質的研究	第46回日本死の臨床研究会年次大会	2023年11月	添田遼, 田島明子
慢性期の近位優位型脳卒中後上肢麻痺に対して低頻度の課題指向型訓練とTransfer Packageを実施した一事例	第44回全国デイ・ケア研究大会(奈良)	2022年7月	多保田莉歩 増田雄亮 沢田宏美 松永玄 十見恭平 近藤国嗣
作業療法士のための新しい Evidence-Based Practice (EBP) 自己評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	第56回日本作業療法学会(京都)	2022年9月	増田雄亮 八重田淳 會田玉美
作業療法士のためのエビデンスに基づく実践(EBP)自己評価尺度の開発と調査結果	日本リハビリテーション連携科学学会第24回大会(目白大学)	2023年3月	増田雄亮 八重田淳 會田玉美
作業に根ざした実践の認識調査	作業行動学会	2022年6月	新泉一美
作業療法学生の非意識的な領域に潜在している認知症患者に対する認知	第56回日本作業療法学会学術集会	2022年9月	黒川喬介, 板倉麻紀, 久保田智洋, 神山真美, 岡本絵里加
わが国における薬物乱用の現状	第13回日本安全性薬理研究会	2022年2月5日	鈴木 勉
大学における緩和医療薬学教育の現状と今後の展望	第15回日本緩和医療薬学会年会	2022年5月15日	鈴木 勉, 加藤裕久, 加賀谷肇
薬物乱用に関する最近の話題	第59回全国薬事指導協議会	2022年10月21日	鈴木 勉
新たな鎮痛薬の可能性	第20回神奈川痛みの研究会	2022年10月29日	鈴木 勉
Asn 残基の脱アミド化における C 末端側の Gly 残基と主鎖構造の影響	第66回日本薬学会関東支部大会(横浜)	令和4年9月17日	加藤紘一, 市丸嘉, 仲吉朝希, 小田彰史, 石川吉伸
Asn-Gly 配列および Asn-Ile 配列における Asn 残基脱アミド化の比較	第50回構造活性相関シンポジウム(名古屋・オンライン)	令和4年11月10日	加藤紘一, 仲吉朝希, 栗本英治, 小田彰史, 石川吉伸
γS-crystallin におけるアスパラギン残基の脱アミド化が構造および凝集に及ぼす影響	日本薬学会第143年会	令和5年3月26日	加藤紘一, 仲吉朝希, 栗本英治, 小田彰史, 石川吉伸
クローディン-1 を介したバイオ医薬品の経皮吸収促進法の開発.	第68回日本薬学会東海支部総会・大会(名古屋)	2022.07.09	照屋 達己, 吉野 雄太, 加藤 由夏, 石川 吉伸, 遠藤 智史, 五十里 彰

演題	学会名	発表月	氏名
チーム医療の実践に向けた 低学年向けチュートリアル演習の構築	第7回日本薬学教育学会大会	2022 年 8 月	寺島朝子、佐野和美、加藤裕久、定本清美、塩田清二、若山恵、古屋博行、山崎泰広、市丸嘉、加藤紘一、進藤綾大、須藤遙、殿山泰弘、石橋芳雄、加賀谷肇、鈴木勉
Trichosporon asahii の高接着コロニー形態株に発現する分子	第66回日本医真菌学会総会・学術集会 2022 年 10 月	2022 年 10 月	市川智恵、池田玲子、石橋芳雄
吃逆に対する柿蒂湯の効果 —柿蒂エキスの抗けいれん作用の検討—	第15回日本緩和医療薬学会年会	2022 年 5 月	野澤（石井）玲子、相沢健太、菅野智、荒井進、稲葉裕、加賀谷肇
〔シンポジウム3〕ファーマシーマネジメント往古来今 ・ファーマシーマネジメント 事始め	日本病院薬剤師会関東ブロック 第52回学術大会	2022 年 8 月	加賀谷肇
2 次元培養細胞を用いた EGFR-TKI による皮膚障害発症メカニズムの検討	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月	佐野 和美、小野塚 真理、寺島 朝子、加藤 裕久、加賀谷 肇
チーム医療の実践に向けた低学年向け チュートリアル演習の構築	第7回日本薬学教育学会大会	2022 年 8 月	寺島朝子、佐野和美、加藤裕久、定本清美、塩田清二、若山恵、古屋博行、山崎泰広、市丸嘉、加藤紘一、進藤綾大、須藤遙、殿山泰弘、石橋芳雄、加賀谷肇、鈴木勉
2 次元培養細胞を用いた EGFR-TKI による皮膚障害発症メカニズムの検討	日本薬学会 143 年会	2023 年 3 月	佐野 和美、小野塚 真理、寺島 朝子、加藤 裕久、加賀谷 肇
薬学部初年度教育に必要な要素 —学生のニーズと教員の対応—	日本薬学会 143 年会	2023 年 3 月	定本 清美、中楯 奨、市丸 嘉、加賀谷 肇、片川和明、加藤 紘一、加藤 裕久、佐野 和美、須藤 遙、殿山 泰弘、石橋 芳雄、鈴木 勉
教育講演 12: 肺炎球菌の保菌を考える	第70回日本化学療法学会総会	2022 年 6 月 4 日	木村聡一郎
ゲンタマイシンの骨形成阻害作用の解析と阻害緩和薬としてのIGF-1の有効性	第45回日本骨・関節感染症学会	2022 年 7 月 9 日	奥山興希、木村聡一郎、辻健太郎、舘田一博、高橋寛
肺炎球菌性肺炎における疾患感受性遺伝子の同定と病態増悪機構の解明	第34回微生物シンポジウム	2022 年 8 月 31 日	進藤綾大、梶原千晶、舘田一博、木村聡一郎
バンコマイシンの骨形成阻害を緩和するテリパラチドの追加検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022 年 10 月 13 日	辻健太郎、木村聡一郎、飯田泰明、高松諒、福武勝典、奥山興希、舘田一博、高橋寛
ゲンタマイシンの骨芽細胞への細胞障害性とその緩和薬としてのIGF-1の有効性の検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022 年 10 月 13 日	奥山興希、木村聡一郎、辻健太郎、舘田一博、高橋寛

演題	学会名	発表月	氏名
Restorative Effect Of Igf-1 On Gentamicin-induced Cytotoxicity Of Osteoblasts	The ORS 2023 Annual Meeting	2023 年 2 月 11 日	Okuyama K, Kimura S, Tsuji K, Tateda K, Takahashi H
「核内受容体に作用する薬物分子の創製」	第 50 回構造活性相関シンポジウム招待講演	2022/11/10-11	栗原正明
QSAR による危険ドラッグのインシリコ活性予測	第 50 回構造活性相関シンポジウム	2022/11/10-11	荒井裕美子, 湯山円晴, 市丸嘉, 佐藤忠章, 栗原正明
Synthesis of dicationic cytosine derivative for peptide nucleic acid	第 59 回ペプチド討論会	2022/10/26-28	Shun-suke Moriya, Misaki Yonezu, Yuzu Kondo, Yosuke Demizu, Masaaki Kurihara, Atsushi Kittaka, Toru Sugiyama
Synthesis of peptide nucleic acid possessing dicationic cytosine derivative	第 49 回国際核酸化学シンポジウム	2022/11/2-4	Toru Sugiyama, Shun-suke Moriya, Misaki Yonezu, Yuzu Kondo, Yosuke Demizu, Masaaki Kurihara, Atsushi Kittaka
大環状ポリアミン-亜鉛錯体の単結晶 X 線結晶構造解析	日本薬学会第 143 年会	2023/3/25-28	市丸 嘉、加藤 紘一、小池 透、黒崎 博雅、栗原正明
ペプチド核酸の invasion を目指したジカチオンを持つシトシン誘導体の合成	日本薬学会第 143 年会	2023/3/25-28	森谷 俊介、米津 実咲、近藤 有寿、出水 庸介、栗原 正明、橘高 敦史、杉山 亨
医薬品の使用性を評価する対象や項目	日本人間工学会第 63 回シンポジウム	2022 年 7 月 31 日	定本清美
医薬品の適正使用に向けて医薬品包装に求められるもの	日本人間工学会第 63 回シンポジウム	2022 年 7 月 31 日	浦裕之、定本清美
製造業者に必要とされる医薬品評価と情報	日本人間工学会第 63 回シンポジウム	2022 年 7 月 31 日	久保田清、定本清美
Team medical care education in Shonan University of Medical Sciences in Japan -Team medical care education which promotes health and appropriate patient care.	12th China-Japan International Symposium for Environment and Health 3th Health and Education conference	19.Novwmber 2022	Kiyomi Sadamoto
Decarbonization measure of each country which a specialist in Japan looked at	12th China-Japan International Symposium for Environment and Health 3th Health and Education conference	19.Novwmber 2022	Kiyoshi Kubota, Kiyomi Sadamoto
Pleiotropic function of PACAP: Its role in brain and peripheral organ.	VPAC ISBAP 2022	2022 年 11 月	Seiji Shioda
マウス骨格筋細胞株「in vivo Exercise モデル」を用いた精油の生理作用について	第 25 回日本アロマセラピー学会学術総会	2022 年 12 月	山下 道生、柴藤 淳子、Rakwal Randeep3, 神崎展、塩田 清二、竹ノ谷文子
ヒトのスギ・ヒノキセルエキストラクトの香り暴露による生理作用と脳機能解析報告	第 25 回日本アロマセラピー学会学術総会	2022 年 12 月	山田啓司、平林敬浩、山下道生、鈴木菜摘、塩田清二、竹ノ谷文子

演題	学会名	発表月	氏名
激運動後のラベンダー精油暴露による抗疲労効果の生化学的解析	第25回日本アロマセラピー学会学術総会	2022年12月	小林 爽花、原 香織、北橋 宙佳、山下 道生、和田 匡史、山本 憲志、塩田 清二、竹ノ谷 文子
マウススギ花粉誘発鼻炎様症状に与える dexamethasone 影響	日本薬学会 第143年会	2023年3月	星野 楓月、山下 道生、安藤 祐介、笠井 菜穂子、田中 淑媛、牧野 春香、松尾 香寿美、山下 恵梨華、山田 萌恵、吉田 夏子、竹ノ谷 文子、渡辺 知恵、塩田 清二、酒井 寛泰、千葉 義彦
スギ花粉症モデルマウスの鼻炎様症状に対する <i>Lavandula angustifolia</i> 精油の効果	日本薬学会 第143年会	2023年3月	山下 恵梨華、山下 道生、安藤 祐介、笠井 菜穂子、田中 淑媛、星野 楓月、牧野 春香、松尾 香寿美、山田 萌恵、吉田 夏子、竹ノ谷 文子、渡辺 知恵、塩田 清二、酒井 寛泰、千葉 義彦
神経ペプチド PACAP による角膜上皮の治癒作用	日本薬学会 第143年会	2023年3月	阿部 正太郎、山下 道生、柴藤 淳子、Randeep Rakwal、塩田 清二、竹ノ谷 文子
香りによる新規のコンディショニング法を目指した運動後のラベンダー精油暴露による抗疲労効果の検証	日本薬学会 第143年会	2023年3月	原 香織、山下 道、柴藤 淳子、Randeep Rakwal、千葉 義彦、塩田 清二、竹ノ谷 文子
神経ペプチド PACAP による PC12 細胞を用いた神経突起伸長作用の分子制御機構について	日本薬学会 第143年会	2023年3月	山下 道生、柴藤 淳子、Randeep Rakwal、平林 敬浩、千葉 義彦、高崎 一朗、塩田 清二、竹ノ谷 文子
マウス花粉誘発鼻粘膜過敏性モデルの鼻粘膜組織における発現変動遺伝子の網羅的解析	日本薬学会 第143年会	2023年3月	吉田 夏子、山下 道生、安藤 祐介、笠井 菜穂子、田中 淑媛、星野 楓月、牧野 春香、松尾 香寿美、山下 恵梨華、山田 萌恵、竹ノ谷 文子、渡辺 知恵、塩田 清二、酒井 寛泰、千葉 義彦
Lemon grass (<i>Cymbopogon citratus</i>) 精油のマウススギ花粉誘発鼻炎様症状に与える影響	日本薬学会 第143年会	2023年3月	松尾 香寿美、山下 道生、安藤 祐介、笠井 菜穂子、田中 淑媛、星野 楓月、牧野 春香、山下 恵梨華、山田 萌恵、吉田 夏子、竹ノ谷 文子、渡辺 知恵、塩田 清二、酒井 寛泰、千葉 義彦

演題	学会名	発表月	氏名
マウスを用いた鼻炎様症状評価法の確立	日本薬学会 第143年会	2023年3月	笠井 菜穂子、山下 道生、安藤 祐介、田中 淑媛、星野 楓月、牧野 春香、松尾 香寿美、山下 恵梨華、山田 萌恵、吉田 夏子、竹ノ谷 文子、渡辺 知恵、塩田 清二、酒井 寛泰、千葉 義彦
マウスにおける <i>Eucalyptus radiata</i> 精油によるスギ花粉誘発鼻炎様症状の抑制効果	日本薬学会 第143年会	2023年3月	山田 萌恵、山下 道生、安藤 祐介、笠井 菜穂子、田中 淑媛、星野 楓月、牧野 春香、松尾 香寿美、山下 恵梨華、吉田 夏子、竹ノ谷 文子、渡辺 知恵、塩田 清二、酒井 寛泰、千葉 義彦
Tea tree (<i>Melaleuca alternifolia</i>) 精油のマウススギ花粉誘発鼻炎様症状に与える影響	日本薬学会 第143年会	2023年3月	牧野 春香、山下 道生、安藤 祐介、笠井 菜穂子、田中 淑媛、星野 楓月、松尾 香寿美、山下 恵梨華、山田 萌恵、吉田 夏子、竹ノ谷 文子、渡辺 知恵、塩田 清二、酒井 寛泰、千葉 義彦
リン酸バッファ中における5-フェニルヒダントインのラセミ化機構:DFT計算による再検討	日本薬学会第143年会	2023年3月27日	高橋央宜
微生物変換による代謝経路の解明を目指したベンジルイソキノリンの合成	日本薬学会第143年会	3月26日	山内貴靖、金野紗央梨、東良優侍、野口佳奈、大町麻友、寺本寛明、佐々木秀、細江智夫、東山公男
危険ドラッグの最新海外事情	第20回日本旅行医学会 (Web開催)	2022年5月21日	舩田正彦
フェンタニル誘導体の構造活性相関	日本薬学会 第140年会(札幌)	2022年3月25日	富澤幸菊、菊川俊太郎、有田浩暢、中村佳代、牧野宏章、田畑英嗣、忍足鉄太、夏莉英昭、舩田正彦、高橋 秀依
シンポジウム 3-4 侵襲性真菌症の病理学的アプローチ迅速かつ正確な診断を目指してー	第66回日本医真菌学会総会・学術集会 (岐阜市)	2022年10月	若山 恵、定本聡太
プロテオミクスによる ATL バイオマーカーの同定	第40回日本ヒト細胞学会	10月	須藤 遥、殿山 泰弘、櫻田 富美子、池辺 詠美、伊波 英克、石田 洋一
<i>Trichosporon asahii</i> の高接着コロニー形態株に発現する分子	第66回日本医真菌学会	2022年10月1日	市川智恵、池田玲子、石橋芳雄
T細胞分化制御活性を有する天然化合物の解析	日本生薬学会第68回年会	2022年9月	小谷仁司、矢作忠弘、片川和明、原田 守
T細胞分化制御活性を有する天然化合物の解析	日本薬学会 第143年会	2023年3月	小谷 仁司、片川 和明、矢作 忠弘、井上 誠、原田 守

演題	学会名	発表月	氏名
神奈川県における BMI および生活習慣に関する調査・特定健康診査に基づく解析	神奈川県公衆衛生学会	2022.10. (誌上発表)	加藤英明、曾川甲子郎
抗菌薬の処方動向から推定する神奈川の水環境汚染に関する調査	神奈川県公衆衛生学会	2022.11. (Web 発表)	曾川甲子郎、加藤英明
2次元培養細胞を用いた EGFR-TKI による皮膚障害発症メカニズムの検討	日本薬学会第 143 年会	2023 年 3 月 27 日	佐野 和美、小野塚 真理、寺島 朝子、加藤 裕久、加賀谷 肇
第 76 回医薬品相互作用研究会シンポジウム ワークショップ 事例から学ぶ研究の進め方	日本病院薬剤師会東北ブロック第 11 回学術大会 合同開催：第 76 回医薬品相互作用研究会シンポジウム	2022 年 6 月 26 日	工藤賢三、佐藤信範、中川直人、寺島朝子、鈴木裕之、大原宏司、小田中啓太、櫻田大也、小野寺隆芳 (タスクフォース)
チーム医療の実践に向けた低学年向けチュートリアル演習の構築	第 7 回 日本薬学教育学会大会	2022 年 8 月 20 日	寺島朝子、佐野和美、加藤裕久、定本清美、塩田清二、若山恵、古屋博行、山崎泰広、市丸壽、加藤紘一、進藤綾大、須藤遙、殿山泰弘、石橋芳雄、加賀谷肇、鈴木勉
Team medical care education in Shonan University of Medical Sciences in Japan team medical care education which promotes health and appropriate patient care.	第 12 回中国国際環境と健康学術シンポジウム及び第 3 回微生物生体と健康教育学術年会	2022 年 11 月 19 日	定本清美、中楯奨、殿山泰弘、加賀谷肇、佐野和美、寺島朝子、須藤遙、若山恵、鈴木勉、森尾裕志、大森圭貢、寺本明
2次元培養細胞を用いた EGFR-TKI による皮膚障害発症メカニズムの検討	日本薬学会 第 143 年会 (札幌)	2023 年 3 月 27 日	佐野和美、小野塚真理、寺島朝子、加藤裕久、加賀谷肇
【学会賞受賞】 エポキシドを導入したインディルビン誘導体 Epox/Ind の抗がん活性に関する構造活性相関	第 50 回構造活性創刊シンポジウム	2022.1	市丸嘉、加藤紘一、栗原正明、宮入伸一
住環境の汚れに関するバイオフィルム形成抑制試験	日本薬学会第 143 年会	2023.3	酒井三恵、市丸嘉
大環状ポリアミン-亜鉛錯体の単結晶 X 線結晶構造解析	日本薬学会第 143 年会	2023.3	市丸嘉、加藤紘一、小池透、黒崎博雅、栗原正明
Asn 残基の脱アミド化における C 末端側の Gly 残基と主鎖構造の影響	第 66 回日本薬学会関東支部大会	9 月 17 日	加藤紘一、市丸嘉、仲吉朝希、小田彰史、石川吉伸
リン酸モノエステルアニオン捕捉能を有する Phos-tag の結晶構造	第 66 回日本薬学会関東支部大会	9 月 17 日	市丸嘉、加藤紘一、黒崎博雅、栗原正明、小池透
Asn-Gly 配列および Asn-Ile 配列における Asn 残基脱アミド化の比較	第 50 回構造活性相関シンポジウム	11 月 10 日	加藤紘一、仲吉朝希、栗本英治、小田彰史、石川吉伸
エポキシドを導入したインディルビン誘導体 Epox/ Ind の抗がん活性に関する構造活性相関	第 50 回構造活性相関シンポジウム	11 月 10 日	市丸嘉、加藤紘一、栗原正明、宮入伸一
遺伝子多型がシトクロム P450 2C9 の立体構造に与える影響の分子動力学シミュレーションによる解析	第 50 回構造活性相関シンポジウム	11 月 10 日	竹下由里子、仲吉朝希、加藤紘一、平塚真弘、栗本英治、小田彰史

演題	学会名	発表月	氏名
アミロイドβにおいて Asp 残基が二次構造変化に与える影響について	第 50 回構造活性相関シンポジウム	11 月 10 日	稲岡顕頌、仲吉朝希、加藤紘一、栗本英治、小田彰史
γS-crystallin におけるアスパラギン残基の脱アミド化が構造および凝集に及ぼす影響	日本薬学会第 143 年会	3 月 26 日	加藤紘一、仲吉朝希、栗本英治、小田彰史、石川吉伸
Candida albicans のバイオフィーム形成に対するリポキシングナーゼとロイコトリエン代謝物の影響	日本薬学会第 143 年会	3 月 26 日	山内奈菜胡、平賀七帆、森健、梅村拓巳、加藤紘一、奥平正美、野々垣常正、三嶋廣繁、池田義明
プロテオミクスによる ATL バイオマーカーの同定	第 40 回日本ヒト細胞学会学術集会	10 月	須藤 遥、殿山 泰弘、櫻田 富美子、池辺 詠美、伊波 英克、石田 洋一
湘南医療大学におけるチーム医療教育 Team medical care education in Shonan University of Medical Sciences in Japan -Team medical care education which promotes health and appropriate patient care. (健康増進と適切な患者治療に欠かせないチーム医療の教育)	第 12 回中日国際環境と健康学術シンポジウム 及び 第 3 回微生物生体と健康教育学術年会	11 月	定本清美、中楯奨、殿山泰弘、加賀谷肇、佐野和美、寺島朝子、須藤遥、若山恵、鈴木勉、森尾裕志、大森圭貢、寺本明
湘南医療大学におけるチーム医療教育	第 12 回中日国際環境と健康学術シンポジウム 及び 第 3 回微生物生体と健康教育学術年会	11 月 19 日	定本清美、中楯奨、殿山泰弘、加賀谷肇、佐野和美、寺島朝子、須藤遥、若山恵、鈴木勉、森尾裕志、大森圭貢、寺本明
肺炎球菌性肺炎における疾患感受性遺伝子の同定と病態増悪機構の解明	第 34 回微生物シンポジウム	8 月	進藤綾大、梶原千晶、舘田一博、木村聡一郎
プロテオミクスによる ATL バイオマーカーの同定	第 40 回日本ヒト細胞学会学術大会	2022 年 10 月 22 日	須藤 遥、殿山 泰弘、櫻田 富美子、池辺 詠美、伊波 英克、石田 洋一
抗菌薬の処方動向から推定する神奈川の水環境汚染に関する調査	神奈川県公衆衛生学	2022 年 10 月	曾川甲子郎、加藤英明
ワークショップ 3 「コロナ禍における不妊患者への心理支援のあり方」	第 40 回日本受精着床学会総会・学術講演会	2022 年 7 月 29 日	山崎圭子（座長）
シンポジウム 「アフターコロナにおける母子看護ー今・これからー」	第 21 回日本母子看護学会学集会プログラム	2022 年 8 月 6 日	山崎圭子（座長）
コメディカル愛育賞候補演題口演	第 63 回日本母性衛生学会総会・学術集会	2022 年 9 月 9 日	山崎圭子（座長）
一般演題発表	第 20 回日本生殖心理学会・学術集会	2023 年 2 月 5 日	山崎圭子（座長）
産後の母親の“疲れ過ぎ”を知らせるデバイスの開発	LIP横浜オープンイノベーションカンファレンスⅧ クロスイノベーションカンファレンス 2023	2023 年 1 月 25・2 月 8 日	山崎圭子
-1 歳から生活習慣病を守るアプリの開発	LIP横浜オープンイノベーションカンファレンスⅧ クロスイノベーションカンファレンス 2023	2023 年 1 月 25・2 月 8 日	山崎圭子

演題	学会名	発表月	氏名
宿泊型産後ケアにおいて助産師が提供すべきケア ー助産師のケアの構成要素の抽出ー	第24回日本母性看護学会学術集会	2022年6月26日	青島恵美子、島袋香子
医療系大学における新型コロナウイルス感染対策に関する学生の意識等調査(続報)	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会	2022年12月	望月聡一郎、山崎真帆ほか
ワークショップ「集まろう、つながろう、話そう、今日から活かせる教育実践のあれこれ」	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会	2022年12月	鈴木純子、山崎真帆ほか
スフェロイドサイズが間葉系幹細胞の栄養因子発現に及ぼす影響の検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	黒田 晃義, 内田 健太郎, 峰尾 歩, 庄司 真太郎, 関口 裕之, 齋藤 亘, 井上 玄, 高相 晶士
局所硬化ゲルを用いた人工骨へのBMP-2 導入法を用いた難治性骨折治療法の有用性に関する検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	齋藤 広樹, 内田 健太郎, 黒田 晃義, 庄司 真太郎, 宮城 正行, 齋藤 亘, 関口 裕之, 井上 玄, 高相 晶士.
Chronic constriction injury(CCI)モデルに対する除圧術に減少するT細胞サブセットの検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	向井 務晃, 内田 健太郎, 井上 玄, 宮城 正行, 横関 雄司, 廣澤 直也, 松浦 佑介, 大鳥 精司, 高相 晶士
高コレステロール血症患者では肩関節内滑膜組織における ADATMS5、MMP-1 の発現が亢進している	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	内田 健太郎, 見目 智紀, 田澤 諒, 松本 光圭, 井上 宏介, 石井 大輔, 大貫 裕子, 井上 玄, 高相 晶士.
変形性膝関節症患者の滑膜マクロファージの極性化に対する β 2-ミクログロブリンの与える影響.	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	宗重 響子, 内田 健太郎, 高野 昇太郎, 迎 学, 高田 研, 関口 裕之, 大貫 裕子, 相川 淳, 岩瀬 大, 井上 玄, 高相 晶士.
滑膜線維芽細胞由来 Peptide Lv はマクロファージの polarization を制御している.	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	迎 学, 内田 健太郎, 相川 淳, 高野 昇太郎, 高田 研, 岩瀬 大, 大貫 裕子, 宮城 正行, 井上 玄, 高相 晶士
透析患者の滑膜下結合組織におけるコラーゲン発現上昇と β 2-microglobulin による発現制御の検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	宗重 響子, 内田 健太郎, 小沼 賢治, 助川 浩士, 大竹 悠哉, 目時 有希恵, 関口 裕之, 大貫 裕子, 井上 玄, 高相 晶士.
第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 宮崎, 2022	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	塚田亜裕美、内田 健太郎、高野昇太郎、相川 淳、岩瀬 大、高田 研、迎 学、大貫裕子、井上 玄、高相晶士.
スフェロイドサイズが間葉系幹細胞の栄養因子発現に及ぼす影響の検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022年10月	黒田 晃義, 内田 健太郎, 峰尾 歩, 庄司 真太郎, 関口 裕之, 齋藤 亘, 井上 玄, 高相 晶士

演題	学会名	発表月	氏名
局所硬化ゲルを用いた人工骨へのBMP-2 導入法を用いた難治性骨折治療法の有用性に関する検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022 年 10 月	齋藤 広樹, 内田 健太郎, 黒田 晃義, 庄司 真太郎, 宮城 正行, 齋藤 亘, 関口 裕之, 井上 玄, 高相 晶土.
透析患者の滑膜下結合組織におけるコラーゲン発現上昇と $\beta 2$ -microglobulin による発現制御の検討	第37回日本整形外科学会基礎学術集会	2022 年 10 月	宗重 響子, 内田 健太郎, 小沼 賢治, 助川 浩士, 大竹 悠哉, 目時 有希恵, 関口 裕之, 大貫 裕子, 井上 玄, 高相 晶土.
Usability study of alminum pouch of PTP(Press Through Package) among patients and pharmacists.	IAPRI 23th world packaging conference proceeding	2022 年 6 月	Sadamoto, K., Ura, H., Kubota, K.
Decarbonization measure of each country which a specialist in Japan looked at.	第12回中日国際環境と健康学術シンポジウム	2022 年 11 月	Kiyoshi, K., Shimada, M., Yoshikawa, H., Sadamoto, K., Ura, H.
認知症との折り合い方	第14回都筑区認知症フォーラム(神奈川)	9 月、2022	石井映幸
認知症の理解を深めるために伝えたいこと	令和4年度港北区認知症講演会(神奈川)	11 月、2022	石井映幸
消化器外科医に多様性は必要か?一般市民アンケートと自験例からみたダブルキャリアの実現可能性	第77回日本消化器外科学会総会	2022.7	中山祐次郎

(6) 研究補助金等外部資金の受入れ状況(科研費・外部資金等)

【看護学科】

代表者名	研究課題	助成元
田中理子【共同研究】 (川本利恵子)	地域包括ケアシステムにおける尿失禁看護の検討とクリティカルパスの開発	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 【共同】
川本利恵子	中規模病院のキャリア中期看護師の実践知識獲得に向けたキャリアプロモーション支援システム開発	ダイオース記念財団助成金
川本利恵子	令和4年度新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒後フォローアップ研修事業費補助金	神奈川県看護職員卒後フォローアップ事業補助金
片山典子	臨界期にある統合失調症を訪問する訪問看護師の自律性を高める教育プログラムの開発 (研究代表者)	科研費補助金：若手研究
玉田聡史 (片山典子)	壮年期におけるひきこもり当事者のひきこもるプロセスの解明と支援方法の構築 (研究分担者)	科研費補助金：基盤研究 (C)
大胡晴香 (片山典子)	若者のインターネット依存傾向におけるメンタルヘルスリテラシー教育プログラムの開発 (研究分担者)	科研費補助金：基盤研究 (C)

代表者名	研究課題	助成元
小原良之 (片山典子)	若年性認知症者の居場所獲得プロセス (研究分担者)	日本精神保健看護学会研究助成金
川本利恵子 (片山典子)	新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒 後フォローアップ研修事業 (統括研究者)	神奈川県委託研究事業
田中秀子	体圧分布センサーとチェックリストを用いた シーティングの有効性に関する研究	住友理工 kk
川本利恵子 (本田芳香)	中小規模病院のキャリア中期看護師の実践知 獲得に向けたキャリアプロモーション支援シ ステム開発	ダイオーズ記念財団
福田敦子 (松月みどり)	ナラティブアプローチを活用した看護管理者 のキャリア支援能力向上	厚生科研 基盤研究 C
小川朝生 (渡邊眞理)	患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意 思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支 援プログラムの開発に関する研究	厚生労働科学研究費補助金 (がん対策 推進総合研究事業)
小川朝生 (渡邊眞理)	科学的根拠に基づくがんサバイバーシップガ イドライン提言に関する研究	厚生労働科学研究費補助金
渡部節子	感染看護を専門に携わる看護師による地域感 染予防活動支援システムの構築	文部科学省 (基盤研究 C)
山本則子 (渡部節子)	大学における医療人材養成の在り方に関する 調査研究委託事業 (学士課程における看護学 教育の質保証に関する調査研究)	文部科学省
高山智子 (清水奈緒美)	がん患者の個々のニーズに応じた質の高い相 談支援の体制整備のあり方に関する研究	厚生労働科学研究費補助金 (がん対策 推進総合研究事業)
研究代表者：菊池有紀 (研究分担者：塚原ゆかり、葉袋 淳子、寺本明)	都市在住高齢者が新時代を生きるための介護 予防と地域参加	科学研究費補助金(基盤研究 C 21K11062)
野口京子	訪問看護を利用する高齢在宅療養者の口腔衛 生の向上に向けたケアプログラムの開発	日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援
川本利恵子 (渡部李菜)	新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒 後フォローアップ研修事業 (分担研究者)	神奈川県委託研究事業

【リハビリテーション学科理学療法専攻】

代表者名	研究課題	助成元
小林和彦	応用行動分析学による e-Learning を用 いた認知症者に対する介護職員指導	日本学術振興会
斉藤琴子、丁子雄希、宮本なつき、山 崎真帆、	「箸で食べたい」を支えるための筋電 図学的研究	文科省 科研費 基盤 C

代表者名	研究課題	助成元
"島田啓子、斉藤琴子、三谷 裕介、窪田和巳、鶴見 薫、小野政徳、小島 淳哉、菅波佑介、西袋麻里亜"	低出生体重児の体動計測の開発と児の体重および発達指標との関連探索研究	文科省 科研費 基盤 B
大村優慈	脳卒中後の半側空間無視における無視空間の三次元的推移と脳損傷部位の関係性の解明	科学研究費助成事業

【リハビリテーション学科作業療法専攻】

代表者名	研究課題	助成元
鈴木雄介	外傷性脳損傷患者の社会的行動障害への対応方法に関する研究：家族会代表の視点から」(継続課題)	日本学術振興会（若手研究）
田島明子	介護老人福祉施設における高齢者と動物の共生のための支援技術 とケア文化—介護職員へのインタビュー調査とフィールドワークからの考察—	SOMPO 福祉財団 2022 年度ジェロントロジー研究助成

【薬学部】

代表者名	研究課題	助成元
鈴木 勉	指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究	厚生労働省
石川吉伸	標的酵素に対する阻害剤のリード化合物を目標とした類縁体の合成	岡山大学（間接経費有）
石川吉伸（分担）	がん細胞の特殊な DNA 修復活性化機序を標的とした革新的治療薬の開発	科研費（産業医科大学、間接経費有）
石川吉伸（分担）	膠芽腫幹細胞を標的とした tRNA メチル化酵素阻害剤による制がん戦略の構築	科研費（岡山大学、間接経費有）
石川吉伸（分担）	新規抗がん剤開発を目指す tRNA 修飾酵素と阻害化合物の構造活性相関解明	科研費（静岡県環境衛生研、間接経費有）
木村聡一郎	肺炎球菌性肺炎の重症化に関わる疾患感受性遺伝子の同定とその機能解析	文科省科研費
木村聡一郎	自然免疫記憶誘導能を搭載したワクチンプラットフォームの創出	文科省科研費
木村聡一郎	自然免疫活性化作用を有する新規肺炎球菌ワクチンの創出	三井住友海上福祉財団
（分担研究者）栗原正明	危険ドラッグと関連代謝物のインシリコによる活性予測法の開発	厚労科研費（21KC1003）
（分担研究者）栗原正明	幻覚作用を有する薬物の合成	厚労科研費
定本清美	医薬品の適正使用に貢献するユニバーサルデザイン医薬品包装の開発	科研費

代表者名	研究課題	助成元
塩田 清二	ペプチドによるドライアイの予防・治療薬の開発と臨床応用	日本学術振興会 科研費 挑戦的研究（開拓）
塩田 清二	PACAP による神経細胞死防御の実体解明と神経再生・新生の基盤研究	日本学術振興会 科研費 基盤研究(B)
柴藤 淳子	PACAP による神経保護および神経軸索再生メカニズムの解明	日本学術振興会 科研費 基盤研究(C)、分担
竹ノ谷 文子	新規運動療法の開発を目指した運動と香りの併用による抗肥満作用の分子基盤	日本学術振興会 科研費 基盤研究(C)、分担
平子 哲史	摂食調節ペプチド GALP による糖代謝調節とその生理的役割の解明	日本学術振興会 科研費 基盤研究(C)、分担
高橋央宜	リン酸によるタンパク質老化促進の可能性に関する計算化学的研究	日本学術振興会
船田正彦	厚生労働科学研究費（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）精神活性物質の迅速検出法ならびに有害作用評価法開発に関する研究	厚生労働省
船田正彦	厚生労働科学研究費（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）危険ドラッグと関連代謝物の有害作用評価と乱用実態把握に関する研究	厚生労働省
石田洋一	Prx2 の 2 つの過酸化型の定量による慢性閉塞性肺疾患 COPD 診断法の開発	日本学術振興会
市川智恵	コロニー形態変化で新たに獲得する真菌病原因子と共生・感染のスイッチング	科研費, 基盤研究(C)
片川和明	ベンザインの位置選択的連続型環化反応を機軸とする生物活性アクリドンの合成研究	科学研究費（基盤研究費 C） 令和 2 年度～4 年度（継続） 課題番号 20K06950
山崎 泰広	コレステロール胆石症発症性差の解明	日本学術振興会 科研費 基盤 (C)
市丸嘉	水回りにカビを発生させない新技術開発において標的とすべき因子を選定するための基礎研究	株式会社 LIXIL
加藤紘一	アスパラギン残基の脱アミド化機構と脱アミド化によるタンパク質構造の変化の解析	日本学術振興会
黒崎博雅 (加藤紘一)	結晶構造に基づいた β -ラクタム剤分解酵素メタロ- β -ラクタマーゼ阻害剤の分子設計	日本学術振興会

代表者名	研究課題	助成元
須藤 遥	酸化ストレスによって生じる翻訳後修飾に注目した COPD 重篤化バイオマーカーの同定	日本学術振興会

【臨床医学研究所】

代表者名	研究課題	助成元
関口 裕之	細菌由来血管新生因子を応用した新規血管新生促成因子の創生と骨再生への応用	科学研究費助成金 若手研究
木村 愛	香りと運動の併用による抗肥満作用の解明 ー新規運動療法を目指してー	科学研究費助成金 若手研究
平林 敬浩	虚血に対する神経ペプチド PACAP の神経保護作用の分子機構	科学研究費助成金 基盤研究(C)
齊藤 亘 (関口 裕之)	局所硬化ゲルを用いた多孔資材への成長因子、細胞導入による骨形成促進法の開発	科学研究費助成金 基盤研究(C)
RAKWAL RANDEEP (柴藤淳子)	PACAP による神経保護および神経軸索再生メカニズムの解明	科学研究費助成金 基盤研究(C)
中山 祐次郎	消化器癌罹患後の就労阻害因子の検討	科学研究費助成金 若手研究
内田 健太郎 (関口 裕之)	機能性オルガノイド作製・局所送達プラットフォーム構築による運動器再生法の創出	科学研究費助成金 基盤研究(B)
碓井 瑠衣	コートジボワール住民のヘルスリテラシーと高血圧・肥満の知識・意識・行動の実態	科学研究費助成金 若手研究

【専攻科】

代表者名	研究課題	助成元
山崎圭子	マインドフルネスとファミリースキルトレーニングによる産後うつ病の予防効果の検討	科学研究費助成金 基盤研究 C
佐山理絵 (山崎圭子)	沖縄の産後監修から捉える多文化共生社会に貢献する助産の探求	上智大学学術研究特別推進費
鈴木良美 (澤井美奈子)	保健師学生への COVID-19 に対するオンライン型シミュレーション教育の評価	科学研究費助成金 基盤研究 C
山崎真帆	地域住民による見守り活動の強化に向けた家庭訪問支援プログラムの開発	科学研究費助成金 基盤研究 C
斉藤琴子 (山崎真帆)	「箸で食べたい」を支えるための筋電図学的研究	科学研究費助成金 基盤研究 C
山崎真帆 (澤井美奈子)	民生委員児童委員による地域見守り活動の強化に向けた家庭訪問支援プログラムの開発	科学研究費助成金 基盤研究 C

IX 生涯学習事業

湘南医療大学看護キャリア開発コアセンターでは、看護師実習指導者講習会、認定看護師（認知症看護分野）、認定看護管理者（ファーストレベル、セカンドレベル）を開講した。

また、地域医療、福祉系への協力事業としては、介護系では介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座、福祉系では、社会福祉士国家試験対策講座、社会福祉士実習指導者講習会を開講した。

2022年度 研修事業一覧

系統	看護系			介護系								社会福祉系	事務系	
事業名	認定看護師教育課程（認知症看護分野）	認定看護管理者（ファーストレベル）	看護師実習指導者講習会	介護職員初任者研修（茅ヶ崎会場）			介護職員初任者研修（町田会場）	介護福祉士実務者研修（茅ヶ崎会場）		介護福祉士実習指導者講習会	介護福祉士国家試験対策講座	社会福祉士実習指導者講習会	医療事務講座（初級）	医療事務講座（中級）
				6月開講	8月開講	11月開講		4月開講	6月開講					
対象	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内外			グループ内外	グループ内外		グループ内	グループ内外	グループ内外	グループ内	グループ内
期日	2022.6月～2023.3月	2022.6月～7月	2022.7月～11月	2022.6月～9月	2022.8月～12月	2022.11月～2023.3月	2022.7月～11月	2022.4月～9月	2022.6月～11月	2023.2月	2022.12月	2023.2月	2022.8月～2023.1月	2023.1月～3月
日数	615時間	108時間	185時間	17日（講義15日、実習2日）			15日（講義15日）	6ヶ月		4日	2日	2日	6日	6日
会場	湘南医療大学			講義：研修センター 実習：ふれあいの丘ほか			町田校	研修センター		研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	オンライン／研修センター
受講料	入学検定料 50,000円 入学金 100,000円 授業料 900,000円	受講審査料 10,000円 受講料 150,000円	受講料 50,000円	60,000円 （テキスト代込み）			学生：35,500円 一般：55,000円 （共にテキスト代込み）	無資格者：125,000円 初任者研修：105,000円 基礎研修、1級：30,000円 （テキスト代込み） ※医療的ケア実地研修は別途3万円		10,000円 （テキスト代込み）	グループ職員：7,000円 グループ外職員：7,500円 （テキスト代別）	8,000円 （テキスト代別）	30,000円 （テキスト代込み）	37,500円 （テキスト代込み）
定員	15名	40名	30名	各20名			20名	各30名		15名	15名	20名	20名	20名
申込者数 受講者数	12名	30名	25名	12名	7名	開講中止	13名	11名	17名	11名	17名	14名	12名	開講中止
取得資格	認定看護師教育課程（認知症看護分野）受験資格	認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了	看護師実習指導者講習会修了	介護職員初任者研修修了			介護職員初任者研修修了	介護福祉士国家試験受験資格（要実務経験3年）		介護福祉士実習指導者講習会修了	—	社会福祉士実習指導者講習会修了	ふれあい医療事務管理士（初級）	ふれあい医療事務管理士（中級）

X 施設の状況

2023年3月現在 学校法人所有施設の所在等、主な施設設備の状況は次のとおりである。

校地

	所在地	計 m ²
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番49	7,921.62 m ²
	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番5 他	18,872.36 m ²
	神奈川県横浜市中区山手町27番1 他 ※	10,973.00 m ²
	計	37,766.98 m ²
みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1682番 他	2,306.00 m ²
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場383-4 他	1,477.64 m ²
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目3690-4 他	3,752.04 m ²
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町三丁目2850-1 他	1,106.50 m ²
湘南医療大学附属下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎字腰越288-1 他	3,498.57 m ²
	静岡県下田市柿崎腰越289	717.35 m ²
	計	4,215.92 m ²
湘南医療大学附属下田看護専門学校学生寮	静岡県下田市柿崎字孫ノ段736-4 他	1,322.86 m ²
合計		51,947.94 m ²

校舎

	所在地	構造	計 m ²
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16番地48 16番地15	鉄筋コンクリート造 陸屋根・合金メッキ鋼板ぶ き9階建他	13,588.09 m ²
	神奈川県横浜市中区山手町 27番地1 27番地16 47番地2 47番地1 神奈川県横浜市中区元町五丁目 220番地4	鉄筋コンクリート造陸屋根 地下1階付5階建	9,296.80 m ²
	小計		22,884.89 m ²
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目 1670-2	鉄骨造合金メッキ 鋼板ぶき2階建	443.46 m ²
	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目 1702-1 1682 1682-3 1670-6	鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1階付2階建	733.23 m ²
	小計		1,176.69 m ²
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場 385番地1 384番地1 386番地1 387番地3 390番地	鉄骨造陸屋根4 階建	2,893.32 m ²
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目 3690番地5	鉄骨造亜鉛メッキ 鋼板葺3階建	4,490.96 m ²
	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目 4617番地1	鉄骨造陸屋根・亜 鉛メッキ鋼板葺3階 建	1,234.58 m ²
	小計		5,725.54 m ²
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町 三丁目2850番地1 2856番地3	鉄骨鉄筋コンクリート 造陸屋根地下1 階付14階建	4,360.56 m ²
湘南医療大学附属 下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎字腰越289番地 静岡県下田市柿崎字吉ノ上1188番地1 静岡県下田市柿崎字寺ノ上1192番地 1193番地12 1～3階部分	鉄筋コンクリート造 瓦葺3階建	2,846.76 m ²
	静岡県下田市柿崎289番地 講堂	鉄筋コンクリート造 コンクリート屋根 平屋建	361.37 m ²
湘南医療大学附属 下田看護専門学校 学生寮	静岡県下田市柿崎字孫ノ段 736番4 737番6	鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建	
	静岡県下田市柿崎字矢合1084番地11		1,773.99 m ²
			42,023.12 m ²

XI 財務状況

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況と経年比較

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、18,076百万円で前年度に対して952百万円の減少、負債総額は5,589百万円で前年度に対して142百万円の減少となった。負債額142百万円の減少は、長期借入金、未払金の減少によるものである。なお、負債額（前受金を除く）の総資産額に占める割合は、23.17%である。

貸借対照表の経年比較

(単位：千円)					
科 目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	12,276,209	12,718,983	12,825,122	15,182,720	14,606,920
流動資産	4,077,688	4,064,858	4,555,764	3,845,976	3,469,393
資産合計	16,353,897	16,783,841	17,380,887	19,028,697	18,076,313
固定負債	3,319,644	3,018,561	2,724,734	1,037,211	961,887
流動負債	1,535,230	1,716,414	1,781,642	4,695,303	4,628,069
負債合計	4,854,874	4,734,975	4,506,377	5,732,515	5,589,957
基本金	11,982,520	12,814,511	13,471,970	16,031,469	16,212,351
繰越収支差額	△ 483,497	△ 766,644	△ 597,461	△ 2,735,287	△ 3,725,994
純資産	11,499,023	12,048,866	12,874,509	13,296,181	12,486,313
負債及び純資産の部合計	16,353,897	16,783,841	17,380,887	19,028,697	18,076,313
減価償却累計額	2,045,953	2,365,198	2,692,263	3,021,632	3,541,795

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

区 分			2018年度 (H31.3.31)	2019年度 (R2.3.31)	2020年度 (R3.3.31)	2021年度 (R4.3.31)	2022年度 (R5.3.31)
分 類	比 率	算 式 (×100%)					
財 務 状 況	負 債 率	$\frac{\text{総負債} - \text{前受金}}{\text{総資産}}$	22.23%	21.09%	18.92%	23.15%	23.17%
	純 資 産 構 成 比 率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総資産}}$	70.31%	71.79%	74.07%	69.87%	69.08%
	流 動 資 産 構 成 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	24.93%	24.22%	26.21%	20.21%	19.19%
	流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	265.61%	236.82%	255.71%	81.91%	74.96%
	固 定 長 期 適 合 率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	82.84%	84.41%	82.22%	105.93%	108.62%
	前 受 金 構 成 比 率	$\frac{\text{前受金}}{\text{現金} + \text{預金}}$	33.18%	34.82%	31.69%	38.74%	45.92%
	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現金} + \text{預金}}{\text{前受金}}$	301.40%	287.18%	315.59%	258.14%	217.75%
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	-2.96%	-4.57%	-3.44%	-14.37%	-20.61%

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(資金収支)

収入：学生生徒等納付金収入は、前年度 2,261 百万円より約 186 百万円の増収で 2,447 百万円となった。また、寄付金収入は、湘南医療大学運転資金の受配者寄付金配布を受け、100 百万円であった。補助金収入は、大学経常費補助金等 192 百万円の交付、4 専門学校の総額 142 百万円の交付があり、総額として 519 百万円（前年度 468 百万円）であった。前年度繰越支払資金 3,425 百万円により、資金収入合計は 6,761 百万円となった。

支出：人件費 1,945 百万円（対予算－96 百万円）、教育研究経費 1,019 百万円（対予算－109 百万円）、管理経費 345 百万円（対予算－100 百万円）設備関係支出 100 百万円（対予算－24 百万円）などとなった。

上記の結果、法人全体として翌年度繰越支払資金は 3,051 百万円となり、期首に比べて 374 百万円減少した。尚、負債額（前受金を除く）の総資産額に占める割合は、23.17%となる見通しである。

資金収支の経年比較

(単位：千円)

	科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資金収入の部	学生生徒納付金収入	2,294,065	2,296,796	2,261,001	2,261,123	2,447,984
	手数料	50,545	48,537	43,961	44,294	52,819
	寄付金収入	268,079	76,929	676,072	525,435	100,051
	補助金収入	191,210	543,549	457,065	468,599	519,620
	資産売却収入	0	0	0	1,474	0
	付随事業・収益事業収入	40,075	44,691	36,140	38,422	36,043
	受取利息・配当金収入	110	113	113	32	27
	雑収入	62,685	61,616	65,241	75,994	84,586
	小計 ①	2,906,769	3,072,231	3,539,593	3,415,373	3,241,130
	借入金等収入	2,000,000	2,000,000	0	1,000,004	0
	前受金収入	1,219,962	1,195,527	1,217,746	1,326,957	1,401,488
	その他の収入	40,420	53,833	280,489	50,204	66,171
	資金収入調整勘定	△ 1,231,848	△ 1,482,459	△ 1,243,714	△ 1,273,591	△ 1,373,056
	収入の部合計 A	4,935,303	4,839,132	3,794,114	4,518,947	3,335,733

(単位：千円)

	科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資金支出の部	人件費支出	1,261,438	1,336,565	1,533,976	1,753,838	1,945,385
	教育研究経費支出	480,272	490,174	476,906	542,775	1,019,365
	管理経費支出	331,779	316,553	333,829	335,597	345,325
	借入金等利息支出	44,555	49,770	37,736	20,282	24,526
	借入金等返済支出	103,969	2,126,861	303,972	103,968	103,968
	施設関係支出	2,206,267	741,144	394,593	2,359,282	26,176
	設備関係支出	99,415	22,033	32,781	28,332	100,461
	小計 ②	4,527,695	5,083,100	3,113,793	5,144,074	3,565,206
	資産運用支出	18	0	0	56	4,130
	その他の支出	150,664	158,961	471,172	193,083	384,853
	資金支出調整勘定	△ 143,091	△ 159,293	△ 200,556	△ 400,609	△ 244,817
	支出の部合計 B	4,535,286	5,082,768	3,384,409	4,936,604	3,709,372

(単位：千円)

	科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資金収支差額の部	資金収支差額 (①-②)	△ 1,620,926	△ 2,010,869	425,800	△ 1,728,701	△ 324,076
	資金収支差額 (A-B)	400,017	△ 243,636	409,705	△ 417,657	△ 373,639
	翌年度繰越支払資金	3,677,004	3,433,369	3,843,075	3,425,420	3,051,780

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収支収入は3,240百万円、支出は3,310百万円で差引125百万円の支出超過となった。

施設整備等活動による収入は、0円、支出は126百万円で差引126百万円の支出超過となった。

その他活動による収入は、11百万円、支出は134百万円で差引122百万円の支出超過となった。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は3,051百万円となり、昨年度の3,425百万円より374百万円減少した。

経年推移の状況が分かる資料

活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位:円)								
教育活動による資金収支	科 目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	収入	学生生徒等納付金収入	2,294,064,715	2,296,796,450	2,261,001,410	2,261,123,972	2,447,984,405	
		手数料収入	50,545,494	48,537,152	43,961,762	44,294,000	52,819,040	
		特別寄付金収入	0	2,287,000	60,000	0	100,000,000	
		一般寄付金収入	73,000,000	71,000,000	140,000	10,000	51,000	
		経常費等補助金収入	191,209,990	315,284,636	449,437,072	468,599,866	519,620,993	
		付随事業収入	40,075,372	44,691,060	36,140,756	38,422,462	36,043,864	
		雑収入	62,667,740	61,616,529	65,241,081	75,994,214	83,709,170	
	教育活動資金収入計	2,711,563,311	2,840,212,827	2,855,982,081	2,888,444,514	3,240,228,472		
	支出	人件費支出	1,261,438,122	1,336,565,093	1,533,976,678	1,753,837,941	1,945,385,698	
		教育研究経費支出	480,272,088	490,174,356	476,906,251	542,774,833	1,019,802,815	
		管理経費支出	331,778,851	316,553,502	333,454,364	335,596,811	345,325,706	
		教育活動資金支出計	2,073,489,061	2,143,292,951	2,344,337,293	2,632,209,585	3,310,076,419	
	差引	638,074,250	696,919,876	511,644,788	256,234,929	△ 69,847,947		
調整勘定等	30,422,588	△ 237,047,289	△ 50,054,839	130,384,070	126,046,937			
教育活動資金収支差額	668,496,838	459,872,587	461,589,949	386,618,999	56,198,990			
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額	
	収入	施設設備寄付金収入	195,079,441	3,641,760	675,872,914	525,425,885	0	
		施設設備売却収入	0	0	0	1,474,146	0	
		施設設備補助金収入	0	228,264,000	7,628,000	0	0	
		施設整備等活動資金収入計	195,079,441	231,905,760	683,500,914	526,900,031	0	
	支出	施設関係支出	2,206,267,338	741,144,285	394,593,455	2,359,282,821	26,176,700	
		設備関係支出	99,414,900	22,033,050	32,781,387	28,332,166	100,461,655	
		施設整備等活動資金支出計	2,305,682,238	763,177,335	427,374,842	2,387,614,987	126,638,355	
		差引	△ 2,110,602,797	△ 531,271,575	256,126,072	△ 1,860,714,956	△ 126,638,355	
	調整勘定等	△ 10,309,922	△ 17,077,235	15,969,385	178,341,649	△ 181,118,153		
	施設整備等活動資金収支差額	△ 2,120,912,719	△ 548,348,810	272,095,457	△ 1,682,373,307	△ 307,756,508		
	小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 1,452,415,881	△ 88,476,223	733,685,406	△ 1,295,754,308	△ 251,557,518		
	その他の活動による資金収支	収入	科 目	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
			借入金収入	2,000,000,000	2,000,000,000	0	1,000,004,000	0
貸付金回収収入			0	0	0	0	0	
預り金受入収入			0	15,638,706	13,296,715	2,358,006	11,090,132	
仮払金回収収入			0	0	313,441	0	0	
その他の固定資産回収収入			0	660,000	0	0	0	
預託金回収収入			0	10,470	1,570	0	0	
敷金回収収入			0	20,000	20,000	0	0	
立替金回収収入			0	0	173,841	34,423	0	
小計			2,000,000,000	2,016,329,176	13,805,567	1,002,396,429	11,090,132	
受取利息・配当金収入			110,484	113,602	113,817	32,571	27,673	
過年度修正収入			17,470	0	0	0	877,500	
収益事業元入金回収収入			2,473,834	5,745,050	4,185,723	0	0	
その他の活動資金収入計			2,002,601,788	2,022,187,828	18,105,107	1,002,429,000	11,995,305	
支出		借入金等返済支出	103,968,536	2,126,860,670	303,972,536	103,968,536	103,968,536	
		貸付金支払支出	273,467	125,000	0	0	600,000	
		その他の固定資産支払支出	40,000	60,000	0	0	0	
		仮払金支払支出	97,526	122,429	0	0	0	
		預託金支出	18,240	29,920	0	23,220	47,080	
		預り金支出	1,215,076	0	0	0	0	
		立替金支出	0	378,421	0	0	804,373	
		出資金支出	0	0	0	56,445	0	
		収益事業元入金支出	0	0	0	0	4,130,978	
		小計	105,612,845	2,127,576,440	303,972,536	104,048,201	109,550,967	
		過年度修正支出	0	0	375,000	0	0	
		借入金等利息支出	44,554,555	49,770,093	37,736,000	20,282,265	24,526,342	
		その他の活動資金支出計	150,167,400	2,177,346,533	342,083,536	124,330,466	134,077,309	
		差引	1,852,434,388	△ 155,158,705	△ 323,978,429	878,098,534	△ 122,082,004	
		調整勘定等	0	0	0	0	0	
		その他の活動資金収支差額	1,852,434,388	△ 155,158,705	△ 323,978,429	878,098,534	△ 122,082,004	
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	400,018,507	△ 243,634,928	409,706,977	△ 417,655,774	△ 373,639,522			
前年度繰越支払資金	3,276,985,343	3,677,003,850	3,433,368,922	3,843,075,899	3,425,420,125			
翌年度繰越支払資金	3,677,003,850	3,433,368,922	3,843,075,899	3,425,420,125	3,051,780,603			

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

(単位：％)

比 率	算式(×100%)	2018年度 (H31. 3. 31)	2019年度 (2020. 3. 31)	2020年度 (2021. 3. 31)	2021年度 (2022. 3. 31)	2022年度 (2023. 3. 31)
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	24.7	16.2	16.2	13.4	1.7

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収支差額は、-801 百万円となった。

事業活動収入： 学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入、雑収入等は、資金収支計算書収入の部と同様の要因により、3,244 百万円となり、前年度に対して 353 百万円の増収となった。

基本金組入額合計は-394 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額（帰属収入）は、-809 百万円となった。

事業活動支出： 資金収支計算書の支出の部と同様の要因で、4,046 百万円となった。

当年度収支差額： 当年度収支差額は、-990 百万円となった。

経年推移の状況が分かる資料

事業活動収支の経年比較

(単位：千円)

事業活動収支		科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支	収入	学生生徒納付金	2,294,065	2,296,796	2,261,001	2,261,123	2,447,984
		手数料	50,545	48,537	43,961	44,294	52,819
		寄付金	73,151	75,537	2,117	3,349	103,730
		経常費等補助金	191,210	315,285	449,437	468,599	519,620
		付随事業収入	40,075	44,691	36,140	38,422	36,043
		雑収入	62,924	61,655	65,247	76,029	84,773
		教育活動収入計	2,711,970	2,842,501	2,857,906	2,891,819	3,244,972
	支出	人件費	1,271,684	1,345,964	1,544,267	1,764,677	1,959,789
		教育研究経費	748,302	770,940	755,260	826,365	1,654,564
		管理経費	371,961	358,751	385,557	387,781	431,665
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	2,391,947	2,475,655	2,685,084	2,978,824	4,046,020
			教育活動収支差額	320,023	366,846	172,821	△ 87,004
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	110	114	113	32	27
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	110	114	113	32	27
	支出	借入金等利息	44,555	49,770	37,736	20,282	24,526
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	44,555	49,770	37,736	20,282	24,526
			教育活動外収支差額	△ 44,444	△ 49,656	△ 37,623	△ 20,249
経常収支差額		275,579	317,190	135,199	△ 107,254	△ 825,546	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	2,463,674	233,232	691,175	530,416	15,915
		特別収入計	2,463,674	233,232	691,175	530,416	15,915
	支出	資産処分差額	2,360	578	356	1,490	194
		その他の特別支出	0	0	375	0	0
		特別支出計	2,360	578	731	1,490	194
			特別収支差額	2,461,314	232,654	690,444	528,926
基本金組入前当年度収支差額 ③		2,736,893	549,843	825,643	421,597	△ 809,825	
基本金組入額合計 ④		△ 2,621,032	△ 834,991	△ 656,459	△ 2,559,498	△ 180,881	
当年度収支差額 ⑤		115,861	△ 283,143	169,183	△ 2,137,826	△ 990,707	
(参考)							
事業活動収入計 ①		5,175,755	3,075,847	3,579,195	3,422,269	3,260,915	
事業活動支出計 ②		2,438,862	2,526,004	2,723,551	3,000,597	4,070,740	

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率等は以下の通りである。

(单位: %)

區 分			2018年度 (H31.3.31)	2019年度 (R2.3.31)	2020年度 (R3.3.31)	2021年度 (R4.3.31)	2022年度 (R5.3.31)
分 類	比 率	算式 (×100%)					
經 營	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{經 常 収 入}}$	46.89%	47.35%	54.03%	61.02%	60.39%
	人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{學 生 生 徒 等 納 付 金}}$	55.43%	58.60%	68.30%	78.04%	80.06%
	教 育 研 究 經 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 經 費}}{\text{經 常 収 入}}$	27.59%	27.12%	26.43%	28.58%	50.99%
	管 理 經 費 比 率	$\frac{\text{管 理 經 費}}{\text{經 常 収 入}}$	13.71%	12.62%	13.49%	13.41%	13.30%
	借 入 金 等 利 息 比 率	$\frac{\text{借 入 金 等 利 息}}{\text{經 常 収 入}}$	1.64%	1.75%	1.32%	0.70%	0.76%
狀 況	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前収支差額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	52.88%	17.88%	23.26%	12.32%	-24.83%
	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{事 業 活 動 収 入} - \text{基 本 金 組 入 額}}$	31.28%	64.62%	64.76%	5.03%	118.27%
	學生生徒等納付金比率	$\frac{\text{學 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{經 常 収 入}}$	84.59%	80.80%	79.11%	78.19%	75.44%
	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	1.41%	2.46%	19.32%	15.60%	3.64%
	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	3.69%	10.25%	12.88%	13.69%	15.93%
況	基 本 金 組 入 率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	-50.64%	-27.08%	-18.50%	-74.79%	-5.55%
	減 価 償 却 額 比 率	$\frac{\text{減 価 償 却 額}}{\text{經 常 支 出}}$	83.97%	93.66%	12.06%	11.08%	12.81%
	經常収支差額比率	$\frac{\text{經 常 収 支 差 額}}{\text{經 常 収 入}}$	10.16%	11.16%	4.73%	-3.71%	-25.44%
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教 育 活 動 収 支 差 額}}{\text{教 育 活 動 収 入 計}}$	11.80%	12.91%	6.05%	-3.01%	-24.69%

(2) その他

①有価証券の状況

本学校法人では、有価証券は所有していない。

②借入金の状況

借入先	期末残高 (円)	利率 (%)	返済期限
(株)みずほ銀行 横浜駅前支店	618,921,886	1.070%	2031 年 3 月 31 日
	179,800,000	0.280%	2033 年 10 月 31 日
	2,800,000,000	0.580%	2024 年 3 月 31 日

③学校債の状況

本学校法人では、学校債は発行していない。

④寄付金の状況

【特定公益増進法人】

(単位：円)

特別寄附（一般の方より）	51,000
--------------	--------

【受配者指定寄付金】

2022 年度中に配布を受けた寄付金

受配者指定寄付金（2021 年度中にグループ企業より寄付）	100,000,000
-------------------------------	-------------

受配者指定寄付金口座にあるため、決算には反映されない寄付金

受配者指定寄付金（グループ企業より）	200,000,000
--------------------	-------------

⑤補助金の状況

湘南医療大学、専門学校には、経常費補助金及び授業料等減免費交付金として、国・県より補助金が交付される。その他、茅ヶ崎看護専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校には、看護師養成校として養成所補助事業に対する補助金が交付される。

	本部	茅ヶ崎看護	リハ校	医療ビジネス校	みどり幼稚園	下田看護	湘南医療大学	合計	
国庫補助金									
経常費補助金収入							145,260,000	145,260,000	国庫補助金
国庫補助金									
授業料等減免費交付金							45,471,800	45,471,800	国庫補助金
国庫補助金									
国立支援等助成金			172,179			30,000	421,848	624,027	国庫補助金
神奈川県									
経常費補助金		11,566,000	18,304,000	13,893,000				43,763,000	神奈川県
＊申請書別紙									
神奈川県・静岡県									
看護師等養成所補助事業		26,262,000				19,080,000		45,342,000	神奈川県・静岡県
＊申請書別紙									
神奈川県									
介護福祉士養成施設日本語学習等支援事業費				90,000				90,000	神奈川県
神奈川県									
地域開放推進費								0	神奈川県
補助対象経費(課税)									
神奈川県・静岡県									
結核健康診断及び予防接種		24,213	38,438			50,542		113,193	神奈川県・静岡県
神奈川県・静岡県									
授業料等減免費交付金		17,656,100	14,289,500	8,173,600		10,990,700		51,109,900	神奈川県・静岡県
神奈川県・静岡県									
物価高騰対応支援金		400,000	400,000	400,000		600,000		1,800,000	神奈川県・静岡県
神奈川県									
新型コロナウイルスの影響に係る									
看護職員卒業フォローアップ研修事業補助金							1,680,000	1,680,000	神奈川県
補助対象経費(課税)									
神奈川県									
災害時医療救護体制活動費補助金							32,000	32,000	神奈川県
補助対象経費(課税)									
横浜市									
私立幼稚園等補助金					454,000			454,000	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
はまっこ広場事業補助金					500,000			500,000	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
子ども・子育て支援教育・保育給付費					157,983,602			157,983,602	横浜市
横浜市									
私立幼稚園等一時預かり保育事業補助金					1,377,960			1,377,960	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策補助金					518,000			518,000	横浜市
横浜市・相模原市									
結核健康診断及び予防接種				26,491				26,491	横浜市・相模原市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
保育士・幼稚園教諭等派遣改善臨時特別事業					2,104,020			2,104,020	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
横浜市特定教育・保育施設預かり保育事業					21,371,000			21,371,000	横浜市
補助対象経費(課税)									
国庫補助金合計	0	0	172,179	0	0	30,000	191,153,648	191,355,827	国
神奈川県・静岡県補助金合計	0	55,908,313	33,031,938	22,556,600	0	30,721,242	1,712,000	143,930,093	神奈川県・静岡県
市補助金 合計	0	0	0	26,491	184,308,582	0	0	184,335,073	横浜市他

⑥収益事業の状況

(収益事業会計)

貸 借 対 照 表

2023年 3月 31日 現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[固 定 資 産]	82,753,026	[流 動 負 債]	958,810
(有形固定資産)	82,753,026	一年内返済長期借入金	548,598
建物	32,773,758	前受金	380,666
構築物	313,159	未払金	29,546
土地	49,666,109		
		[固 定 負 債]	5,443,114
		長期借入金	5,303,114
		長期預り金	140,000
		負 債 の 部 合 計	6,401,924
		純 資 産 の 部	
		[元 入 金]	358,154,016
		[利 益 剰 余 金]	△ 281,802,914
		繰越利益剰余金	△ 281,802,914
		純 資 産 の 部 合 計	76,351,102
資 産 の 部 合 計	82,753,026	負債・純資産の部合計	82,753,026

⑦関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者について下表のとおり イ) 出資会社は該当なし

(2) 関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属 性	役員、法人等の名称	住 所	資本金又は出資金	事業内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
理事長	大屋敷英志枝	-	-	-	-	-	-	当法人の銀行借入に対する被保証*1	688,800,000	*1 *2	-
関係法人	医療法人社団康心会	神奈川県茅ヶ崎市	170百万円	病院・老人保健施設・診療所の経営	-	4名	職員出向他	職員出向他	5,686,979	未収入金	424,412
							健康診断、実習謝礼他	健康診断、実習謝礼他	31,164,527	*4	未払金 12,721,508
関係法人	医療法人社団健齢会	神奈川県横浜市	45百万円	病院・診療所の経営	-	5名	職員出向他	職員出向他	12,390,299	未収入金	858,045
							健康診断、実習謝礼他	健康診断、実習謝礼他	3,592,932	*4	未払金 1,238,312
関係法人	医療法人回生会	神奈川県横浜市	10百万円	病院の経営	-	5名	医療事務初級講座受講料	医療事務初級講座受講料	30,000	未収入金	0
							健康診断、実習謝礼他	健康診断、実習謝礼他	11,752,839	*4	未払金 1,953,429
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱フォーライフ企画*3	神奈川県茅ヶ崎市	10百万円	一般物品商社	-	-	リース・医療材料・事務用品購入	リース・医療材料・事務用品購入	477,280,804	*4	未払金 26,253,886
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱エフアントゥアライフ*3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	内装工事、建物保守、建築・企画設計	-	-	施設修理他	施設修理他	113,107,730	*4	未払金 16,993,850
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱メディカルヘルスクラブ*3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	不動産管理会社	-	1名	不動産賃貸	不動産賃貸	21,690,203	*4	未払金 0
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱エフエムシー*3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	人事管理・給与計算・経理業務の請負	-	1名	医療事務初級講座受講料	医療事務初級講座受講料	60,000	未収入金	0
							人事管理・給与計算・経理業務委託	人事管理・給与計算・経理業務委託	30,148,919	*4	未払金 500
							当法人の銀行借入に対する被保証		2,800,000,000		
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱メディカルフーズ*3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	給食業務の受託及び管理	-	1名	食堂食材・食堂委託管理他	食堂食材・食堂委託管理他	30,725,524	*4	未払金 2,242,671
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱湘南ふれあいの園*3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	有料老人ホーム経営	-	1名	シニアホテル東戸塚サウスウイング電気料他	シニアホテル東戸塚サウスウイング電気料他	23,224,036	*4	未払金 1,767,250
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱リート商会*3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	清掃業務、自動車修理業務	-	-	清掃管理、自動車修理他	清掃管理、自動車修理他	82,071,391	*4	未払金 6,598,088

注*1 当法人は銀行借入に対して理事長大屋敷英志枝より債務保証を受けている。

なお、保証料の支払は行っていない。

注*2 収益事業に係る取引も含んでいる。

注*3 理事長大屋敷英志枝及びその近親者が議決権の100%を直接所有している。

注*4 市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定している。

⑧学校間財務取引

該当なし

財 産 目 録

2023 年 3 月 31 日現在

I 資産総額	金	18,076,313,520 円
内 1 基本財産	金	14,587,823,828 円
2 運用財産	金	3,488,489,692 円
〔収益事業用財産〕	金	82,753,026 円〕
II 負債総額	金	5,589,957,212 円
〔収益事業用負債〕	金	6,401,924 円〕
III 正味財産	金	12,486,356,308 円

(単位：千円)

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	15,171,794
土地 51,947.94 m ²	6,367,502
建物 42,023.12 m ²	6,482,452
構築物	107,165
図書 48,878 冊	202,165
教具・校具・備品 18,511 点	1,414,244
その他の基本財産	14,293
2 運用財産	3, 488, 489
現金預金	3,051,780
その他の運用財産	436,709
(3 収益事業財産)	82,753
資産総額	18,076,313
負債額	
1 固定負債	961,887
2 流動負債	4,628,069
(3 収益事業負債)	6,401
負債総額	5,589,957
正味財産	12,486,356

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人湘南ふれあい学園の経営状況の分析(過去5年間)、経営上の成果と課題

下記の財務比率は、経営状況、負債の状況、及び将来の備えに対する資産の保有状況の実施結果の分析を示している。薬学部及び横浜山手校舎の設置に伴い、保有する運用資産は一時的に減少しているものの、将来支出に備える保有資産の状況は、大学平均(78.0%)と同様である。万一の支出の状況にも充分に耐えるだけの資産を保有している。

資料1

比率名	計算式	H30	R01	R02	R03	R04	R03-R04対比	経営上の成果と課題(自己点検・評価)
① 経営状況								
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	52.9%	17.9%	23.3%	12.3%	-24.8%	減少	令和2年度の当該率の大学平均は、5.2%である。
② 負債に備える資産の蓄積状況								
内部留保資産比率	(運用資産-(総負債-内部負債))/総資産	0.9%	0.1%	3.9%	-4.4%	-5.5%	減少	当該比率がマイナスとなり、財政上の余裕度が減少している。
運用資産余裕比率(年)	(運用資産-外部負債)/経常支出	7.7%	2.5%	27.5%	71.0%	-22.2%	減少	一年間の学校法人の経常的な支出を賄える運用資産の蓄積額が減少しているため、予算額を縮小する必要がある。
流動比率	流動資産/流動負債	266.0%	237.0%	255.7%	81.9%	75.0%	減少	当該比率が100%以下となり、流動負債を固定資産に投下した結果が現れたと考える。
前受金保有率	現金預金/前受金	301%	287%	316%	258%	218%	減少	当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末の保有比率が100%を超えているため、昨年度より数値は減少したが、問題は無い。
③ 負債水準の状況								
固定負債構成比率	固定負債/((総負債-内部負債)+純資産)	22.1%	19.5%	17.0%	5.9%	5.8%	減少	施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が高い場合、経営上の留意が必要となる。
流動負債構成比率	流動負債/((総負債-内部負債)+純資産)	10.2%	11.1%	11.1%	26.7%	28.0%	増加	当該比率が低い方が好ましい。本学園は、固定資産の整備のため今年度短期借入金が増加したため、比率が増加した。
総負債比率	(総負債-内部負債)/総資産	21.6%	20.4%	18.2%	22.4%	22.3%	減少	当該比率50%以下は、負債総額が純資産を下回っていることを示す。本学園の財務安全性は確保されている。
負債比率	(総負債-内部負債)/純資産	30.7%	28.4%	24.6%	32.1%	32.3%	増加	当該比率が100%以下であるため、他人資金である総負債が自己資金である純資産を下回っている。
④ 将来支出に備える保有資産の状況								
積立率	運用資産(現金預金+特定資産+有価証券)/要積立額(減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金)	170.9%	138.4%	136.4%	108.5%	82.6%	減少	令和2年度の当該率の大学平均は、78.0%であり、本学園は、平均を上回っている。減価償却累計額はH30年からR04年度末で約14億7千万円増加している。

※総負債には、内部負債である「退職給与引当金」及び「前受金」を算入しないことを原則とした。

資料2 運用資産及び外部負債の金額

下記の表より、運用資産は減少かつ外部負債も増加している。ただし、積立額も大幅に増加しているため、運営が安定していることを示している。

(千円)								
項目	計算式	H30	R01	R02	R03	R04	H30-R04間傾向	
運用資産	現金預金+特定資産+有価証券	3,677,004	3,433,369	3,843,075	3,425,420	3,051,780	-625,224	減少
外部負債	総負債-(退職給与引当金+前受金)	3,529,211	3,424,348	3,163,240	4,269,327	4,037,835	508,624	増加
積立額	減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金	2,151,654	2,480,336	2,817,654	3,157,862	3,692,429	1,540,775	増加

資料3 総資産基本金組入前当年度収支差額比率関連指標 (百万円)

総資産	18,076
事業活動収入	3,260
基本金組入前当年度収支差額	-809
総資産基本金組入前当年度収支差額比	-4.5%
基本金組入前当年度収支差額比	18.0%
総資産回転率	0.2 回転

監 査 報 告 書

2023 年 5 月 16 日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監 事 金 井 清 吉

監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 8 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2022 年度（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し必要に応じ意見を述べた他、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

2023 年 5 月 16 日

学校法人 湘南ふれあい学園
評議員会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監 事 金 井 清 吉

監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 8 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2022 年度（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し必要に応じ意見を述べた他、理事から業務報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上